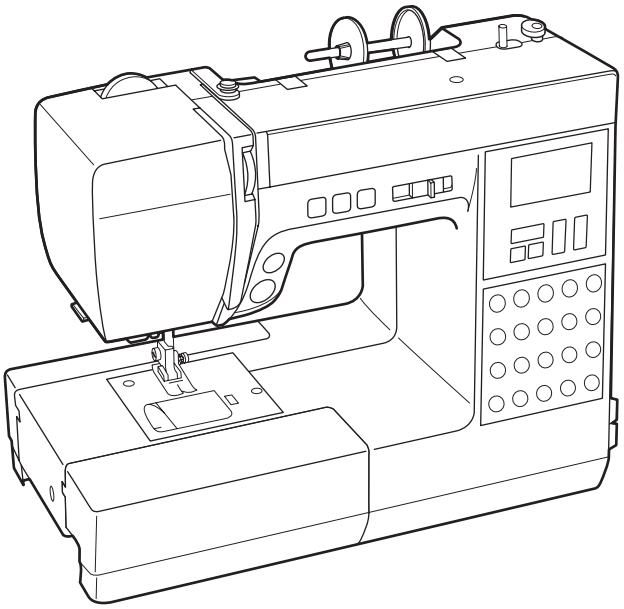
取扱説明書

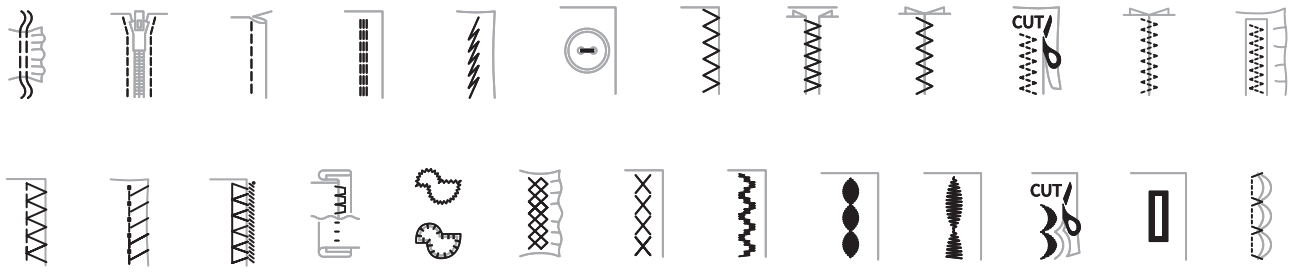
INSTRUCTION BOOK

Ėpolku OVI

Ėpolku OVI

COMPUTER SEWING MACHINE





JANOME

安全上のご注意

- ◆ ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになる人やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味	
	△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告 感電・火災の原因となります。

禁　止	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5 ℃～ 35 ℃です。
禁　止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
禁　止	電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 • 傷つける • 加工する • はさみ込む • たばねる • 引っ張る • 無理に曲げたり、ねじったりする • 重い物をのせる • 高温部に近づける 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。
必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 • ミシンのそばを離れるとき • ミシンを使用したあと • ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意 感電・火災・けがの原因となります。

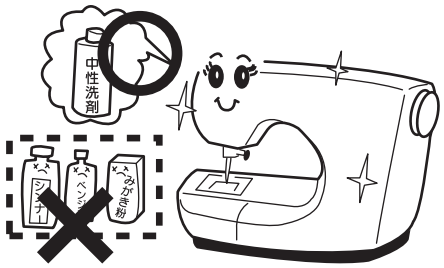
分解禁止	分解はしないでください。
接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
禁　止	曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。

⚠ 注意 感電・火災・けがの原因となります。

禁　止	ぬい途中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
禁　止	ミシンの通風口はふさがないでください。
禁　止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。 また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
注　意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
必ず実行	以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 • 押さえ、アタッチメントを交換するとき • 上糸、下糸をセットするとき
必ず電源プラグを抜く	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 • ミシンのお手入れを行うとき • 針、針板を交換するとき
必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 • 正常に作動しないとき • 水にぬれたとき • 落下などにより破損したとき • 異常な臭い・音がするとき • 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

◎ お取り扱いについてのお願い

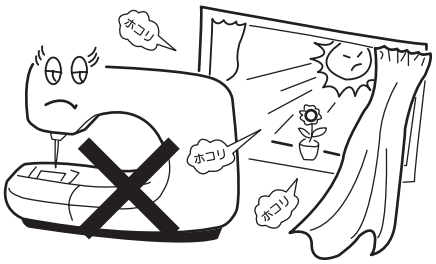
◇ ご使用の前に



(1) ぬう布を汚さないようにするため、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。
試しぬいをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。

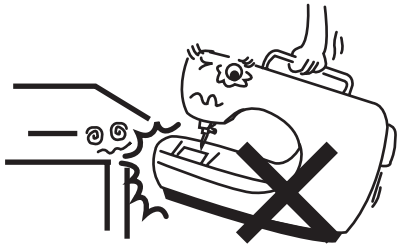
(2) シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇ いつまでもご愛用いただくために



(1) 長時間日光に当てないでください。

(2) 湿気やほこりの多いところは避けてください。



(3) 落としたり、ぶつけたりするなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたりしたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（61 ～ 63 ページ）
によって点検・調整を行ってください。

目　次

◎ **お取り扱いについてのお願い..... 1**

◎ **各部のなまえ..... 3**

◎ **標準付属品と収納場所.....4 ～ 5**

● 標準付属品.....4
● 早見板.....5
● 収納場所（補助テーブル）.....5
　★フリーアームの使い方.....5

◎ **操作方法 .....6 ～ 25**

● 電源のつなぎ方.....6 ～ 7
　★スタート / ストップボタンを使用する場合.....6
　★フットコントローラーを使用する場合.....7
● 速さの調節.....8
　★スピードコントロールつまみ.....8
　★フットコントローラー.....8
● 操作ボタン.....9 ～ 10
● 表示画面の説明.....11
● 模様の選び方.....12
● 押さえ上げ.....12
● 押さえの外し方・付け方.....13
● 押さえホルダーの外し方・付け方.....13
● 糸調子の合わせ方.....14 ～ 15
　★自動糸調子.....14
　★マニュアル糸調子.....14
　★バランスのとれた糸調子（ジグザグ模様）.....15
● 押さえ圧調節ダイヤル.....15
● 送り歯ドロップつまみ.....16
● 針の取りかえ方.....17
● 布に適した糸や針を選ぶ目安.....17
● 下糸の準備.....18 ～ 19
　★ボビンの取り出し.....18
　★糸こまのセット.....18
　★補助糸立て棒の使い方.....18
　★ボビンに下糸を巻く.....19
● ボビンのセット.....20
● 上糸かけ.....21 ～ 22
　★糸通しレバーの使い方.....22
● 下糸を針板の上に引き出す場合.....23
● ミシンの設定.....24 ～ 25
　★ブザー音の設定.....24
　★停針位置の設定.....25

◎ **じつようぬい.....26 ～ 48**

● 直線ぬい.....26 ～ 27
　★ぬい始め.....26
　★厚手の布端のぬい始め.....26
　★ぬい方向の変更.....27
　★ぬい終わり.....27
● 糸切り記憶.....27
● 針板ガイドライン.....28
　★コーナーリングガイド.....28
● 針位置をかえるとき（直線状模様）.....29
● ぬい目のあらさをかえるとき（直線状模様）.....29
● 直線ぬい.....30 ～ 31
　★自動返しぬい.....30
　★自動止めぬい.....30
　★三重ぬい.....31
　★伸縮布地のぬい.....31
● ジグザグぬい.....31 ～ 32
　★ぬい目の幅をかえるとき.....32
　★ぬい目のあらさをかえるとき.....32
● ジグザグぬいのたち目かがり.....33
● トリコットぬいのたち目かがり.....33
● つくろいぬい.....33
● ふちかがり.....34
● ニットかがり.....34
● ふちかがり 2.....34
● ギャザー寄せ.....35
● ファスナー付け.....36 ～ 38
● ボタン付け.....39
● ゴムひも付け.....40
● まつりぬい.....41
● ボタンホール.....42
　★ボタンホールの種類.....42
● スクエアボタンホールのぬい.....43 ～ 46
　★ぬい目の幅（ボタンホールの幅）をかえる.....45
　★ぬい目のあらさをかえる.....46
● キーホールボタンホールのぬい.....46
● ボタンホール安定板セットを使用する場合.....47
● 芯入りスクエアボタンホールのぬい.....48

◎ **飾りぬい .....49 ～ 58**

● ピンタック.....49
● ファゴティング.....49
● パッチワーク.....50
　★角度目盛り.....50
● アップリケ.....51
● スモッキング.....52
● クロスステッチ.....52
● 飾りぬい.....53
● 密着模様ぬい（サテンステッチ）.....54
　★模様の長さ調節機能（エロンゲーション）.....54
● スカラップ.....55
● シェルタック.....55
● ドロンワーク.....56
● キャンドルウィック.....56
● フリンジ.....57
● とじぬい.....57
● 模様の形の整え方（送り調節ねじ）.....58

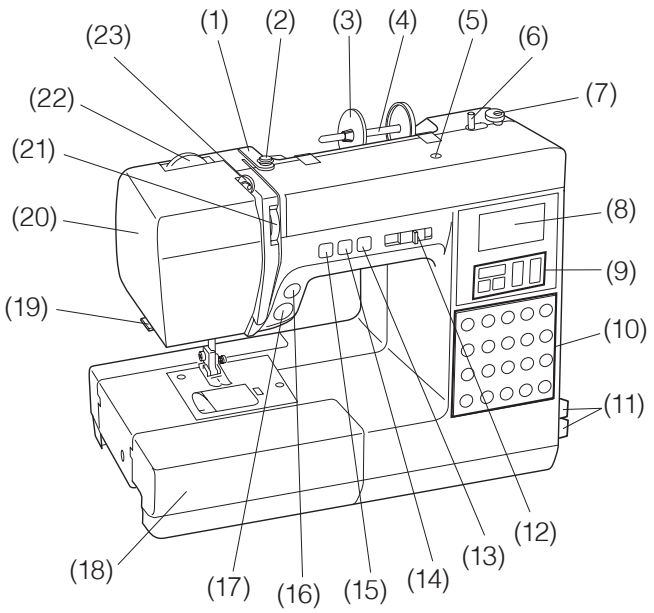
◎ **ミシンのお手入れ 59**

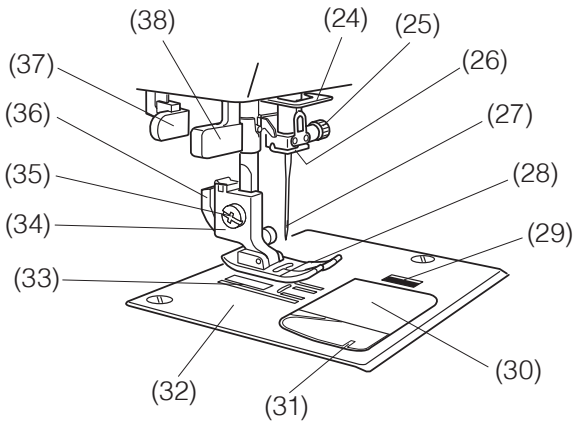
● かまと送り歯の掃除.....59
● 内がまと針板の組み付け.....59

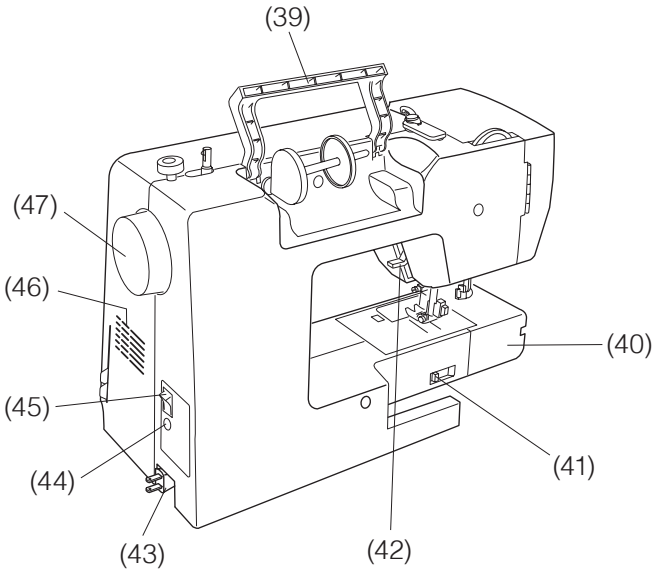
◎ **こんなときには.....60 ～ 63**

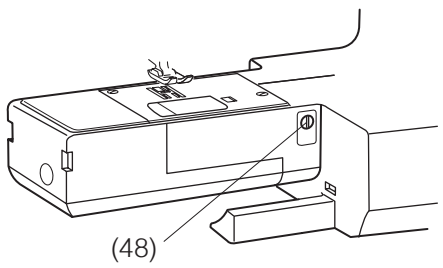
● メッセージ画面が表示された場合.....60
● ブザー音の種類.....60
● ミシンの調子が悪いときの直し方.....61 ～ 63

◎ **模様一覧表 64**









◎ 各部のなまえ

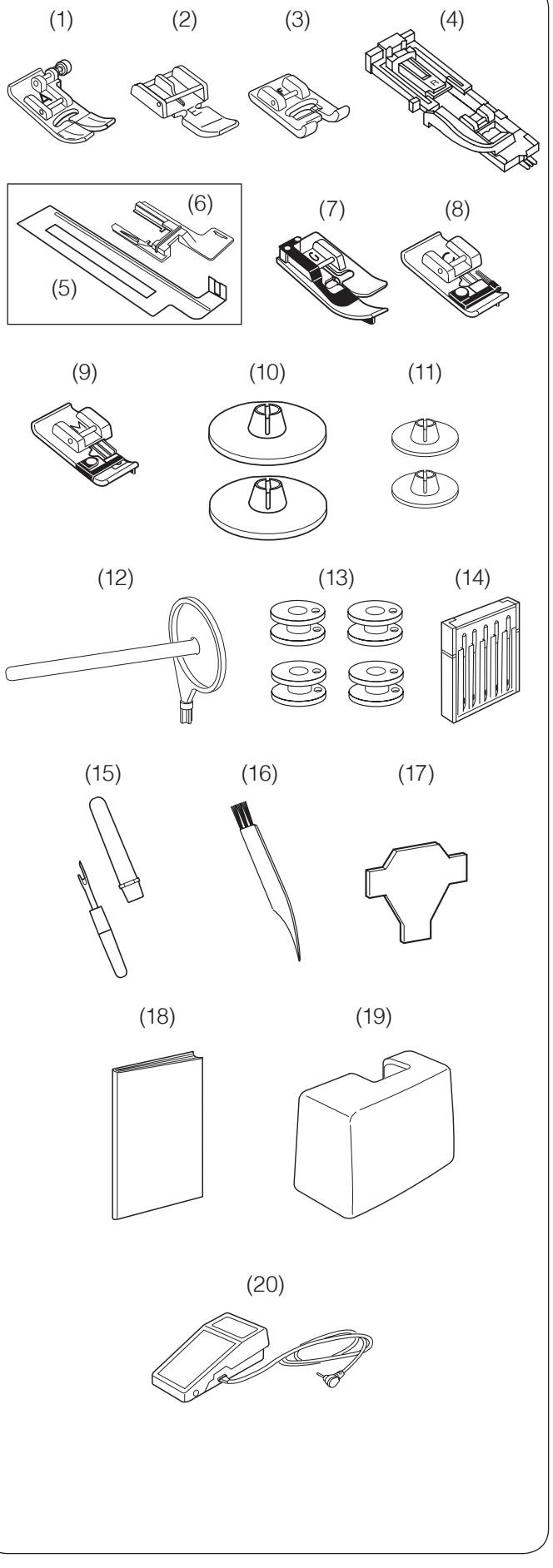
(1) 糸案内体
(2) 糸巻き糸案内
(3) 糸こま押さえ（大）
(4) 糸立て棒
(5) 補助糸立て棒取り付け穴
(6) 糸巻き軸
(7) ボビン押さえ
(8) 表示画面
(9) 設定ボタン
(10) 模様ダイレクト選択ボタン
(11) 早見板
(12) スピードコントロールつまみ
(13) 糸切りボタン
(14) 上下停針ボタン
(15) 止めぬいボタン
(16) 返しぬいボタン
(17) スタート / ストップボタン
(18) 補助テーブル（アクセサリー入れ）
(19) 糸切り
(20) 面板
(21) 糸調子ダイヤル
(22) 押さえ圧調節ダイヤル
(23) 天びん

(24) アーム糸案内
(25) 針止めねじ
(26) 針棒糸かけ
(27) 針（14 番）
(28) 基本押さえ A
(29) 角板開放ボタン
(30) 角板
(31) カッター（下糸切り用）
(32) 針板
(33) 送り歯
(34) 押さえホルダー
(35) 押さえホルダー止めねじ
(36) レバー
(37) ボタンホール切りかえレバー
(38) 糸通しレバー

(39) 手さげハンドル
(40) フリーアーム
(41) 送り歯ドロップつまみ
(42) 押さえ上げ
(43) 電源プラグ
(44) フットコントローラープラグ受け
(45) 電源スイッチ
(46) 通風口
(47) はずみ車

(48) 送り調節ねじ

※ ミシンを持つときは、片手で手さげハンドルを持ち、もう片方の手でミシンをささえてください。
※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。



◎ 標準付属品と収納場所

● 標準付属品

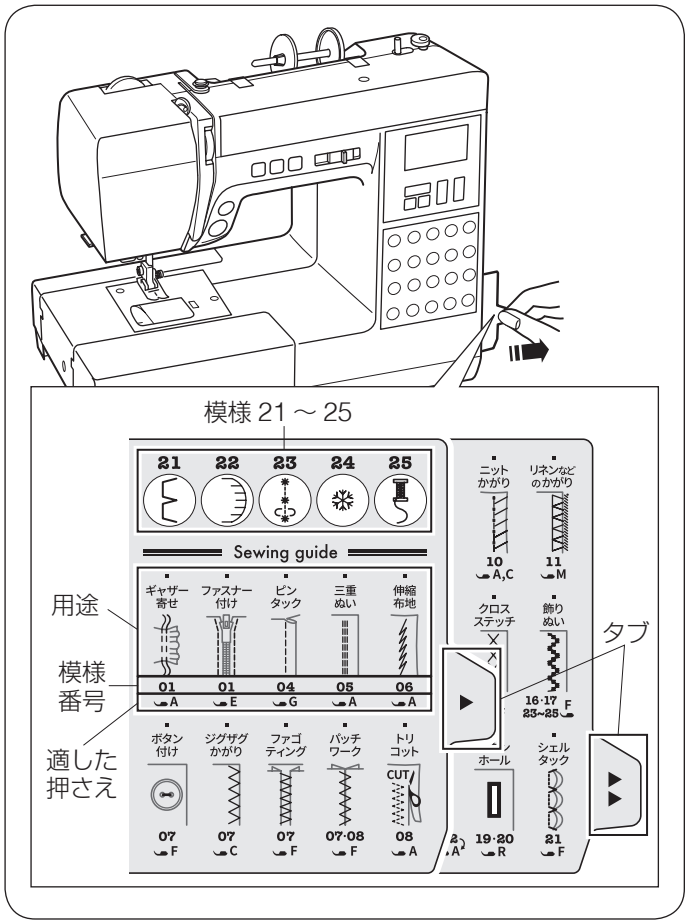
(1) 基本押さえ A
※ ミシンの押さえホルダーに付いています。
(2) ファスナー押さえ E
(3) サテン押さえ F
(4) ボタンホール押さえ R
(5) 安定板
(6) 安定板ホルダー
(7) まつりぬい押さえ G
(8) たち目かがり押さえ C
(9) ふちかがり押さえ M
(10) 糸こま押さえ（大）（2 個）
※ 1 つはミシンの糸立て棒に付いています。
(11) 糸こま押さえ（小）（2 個）
(12) 補助糸立て棒
(13) ボビン（4 個）
※ 1 つはミシンの内がまに入っています。
(14) 針ケース（針：HA × 1）
- 14 番（2 本）
- 11 番（2 本）
- ブルー針〔11 番〕（1 本）

(15) シームリッパー
(16) ミシンブラシ
(17) ドライバー
(18) 取扱説明書
(19) ミシンカバー
※ モデルによりオプションになります。
(20) フットコントローラー
※ モデルによりオプションになります。

ミシンの使い方については、以下の QR コードもしくは URL から説明動画をご覧いただけます。

説明動画

https://www.youtube.com/playlist?list=PLs7aOpMYh2Zcbj31iifVaWwLJmiFkqO75

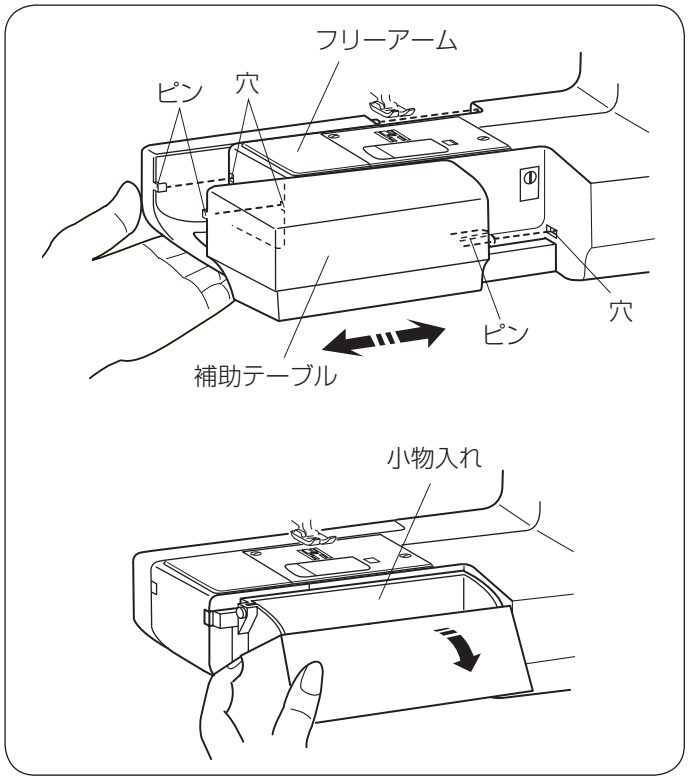


● 早見板

早見板は、ミシンの右側に格納されています。

タブ「▶」を右に引き出すと、21 ～ 25 の模様が確認できます。

タブ「▶」の 21 ～ 25 の模様の下、およびタブ「▶▶」の早見板に表示されている「Sewing guide」には、用途に合った模様番号とぬいに適した押さえの記号が表示されています。



● 収納場所（補助テーブル）

補助テーブルを取り付けると、広いテーブルでぬうことができます。

また、フリーアームを使うときは、補助テーブルを左に引いて簡単に取り外すことができます。

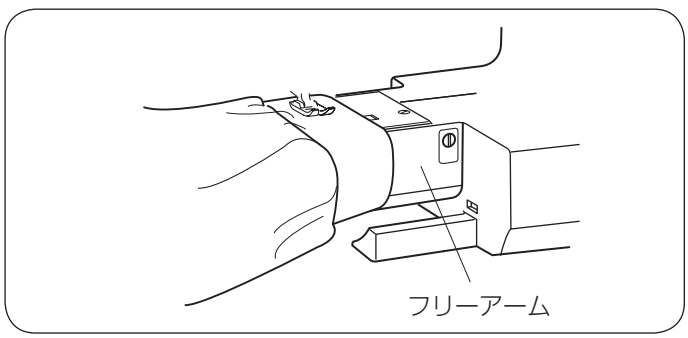
【補助テーブルの外し方・取り付け方】

補助テーブルの下側に手をかけ、左に引いて外します。

取り付けるときは、フリーアームに沿わせて、ピンを本体の穴に入れて取り付けます。

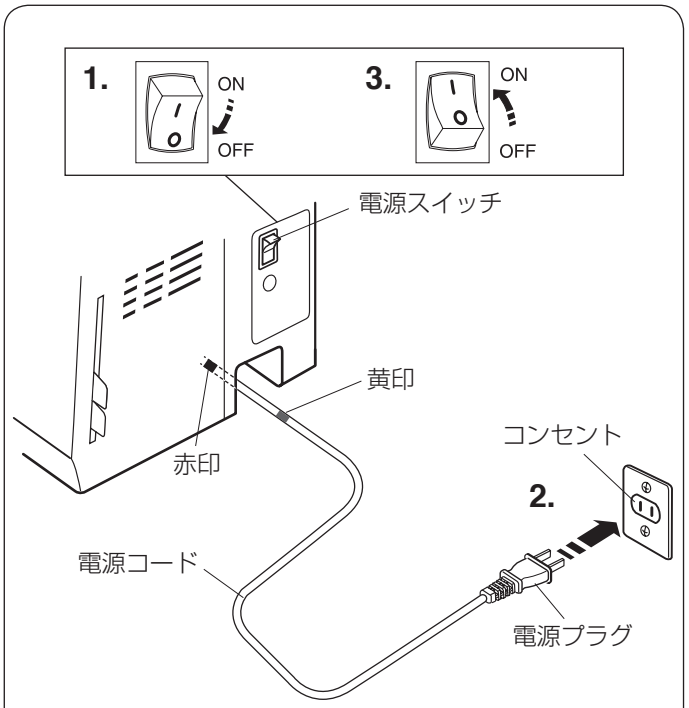
【小物の収納】

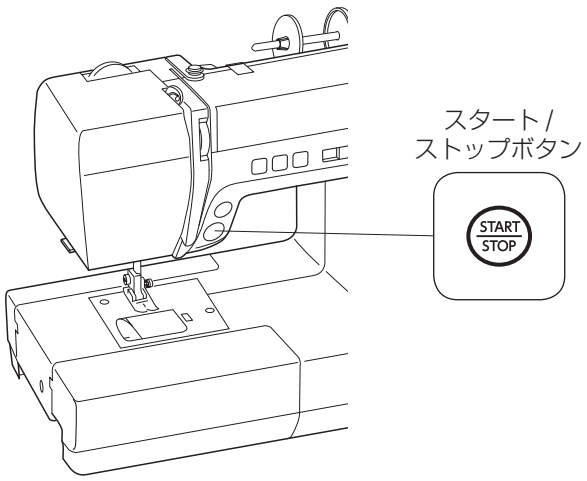
補助テーブルを開けると、押さえなどの小物が収納できます。



★ フリーアームの使い方

補助テーブルを外すとフリーアームになります。
そで口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。





◎ 操作方法

● 電源のつなぎ方

⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。
  ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
  ほこりなどが付着していると、湿気などによって絶縁不良となり火災の原因となります。

★ スタート/ストップボタンを使用する場合

1. 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

2. 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

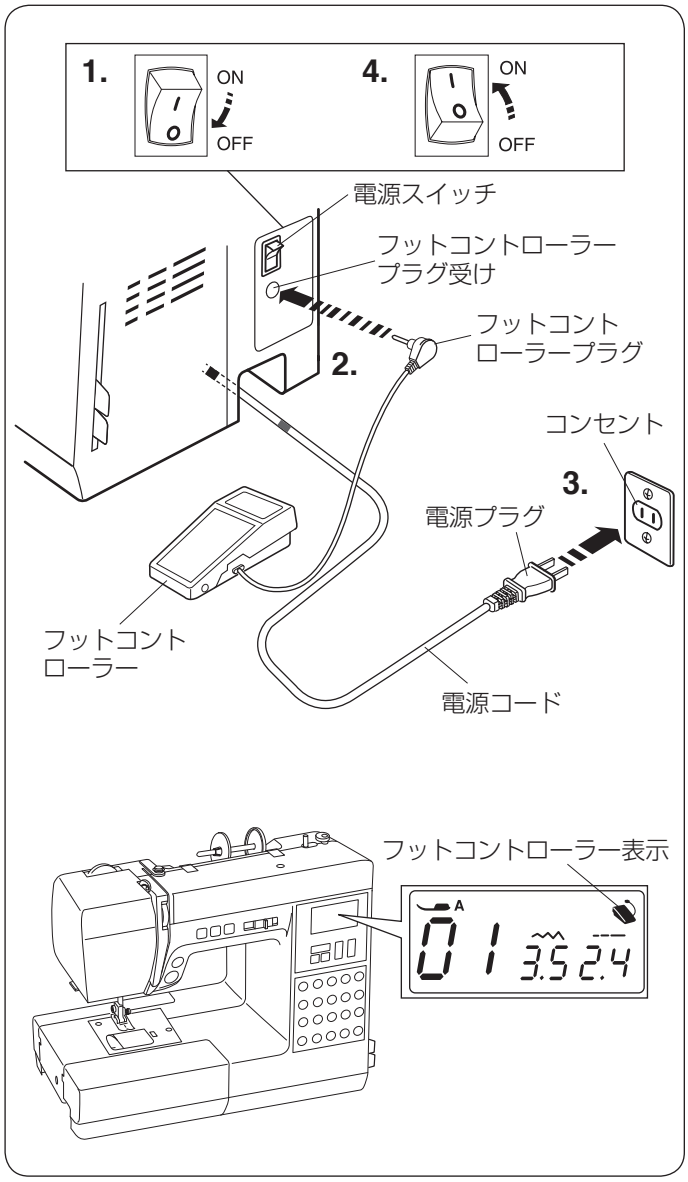
※ 電源コードは、赤印以上引き出さないでください。
引き出し過ぎると故障の原因となります。
黄色の印が出たら約 30 cm で赤色の印になります。

3. 電源スイッチを「ON」（入）にします。

※ 電源コードをしまう場合、コードを少し引っ張ると自動で巻き取られます。電源プラグを持ち、取り出し口まで案内してください。

※ 電源スイッチを「ON」（入）にすると、ミシンの初期設定が数秒間行われます。初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。

※ フットコントローラーを接続している場合、
スタート/ストップボタンは使用できません。



★ フットコントローラーを使用する場合

※ フットコントローラーを接続したときは、スタート/ストップボタンは使用できません。

※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

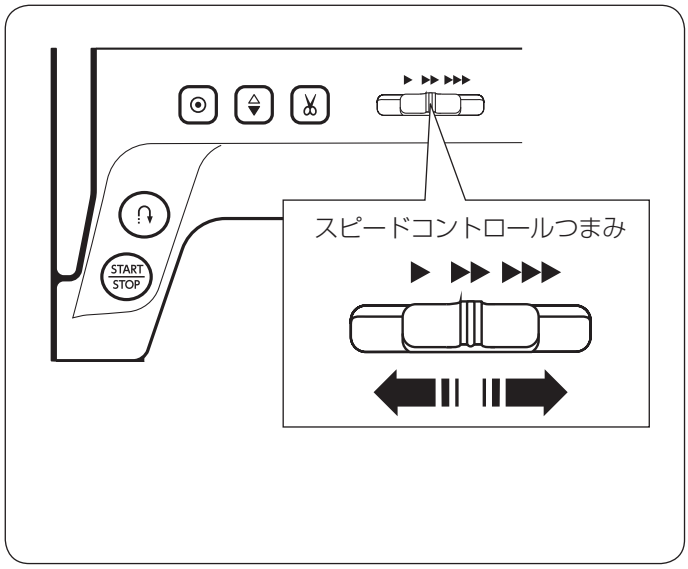
1. 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

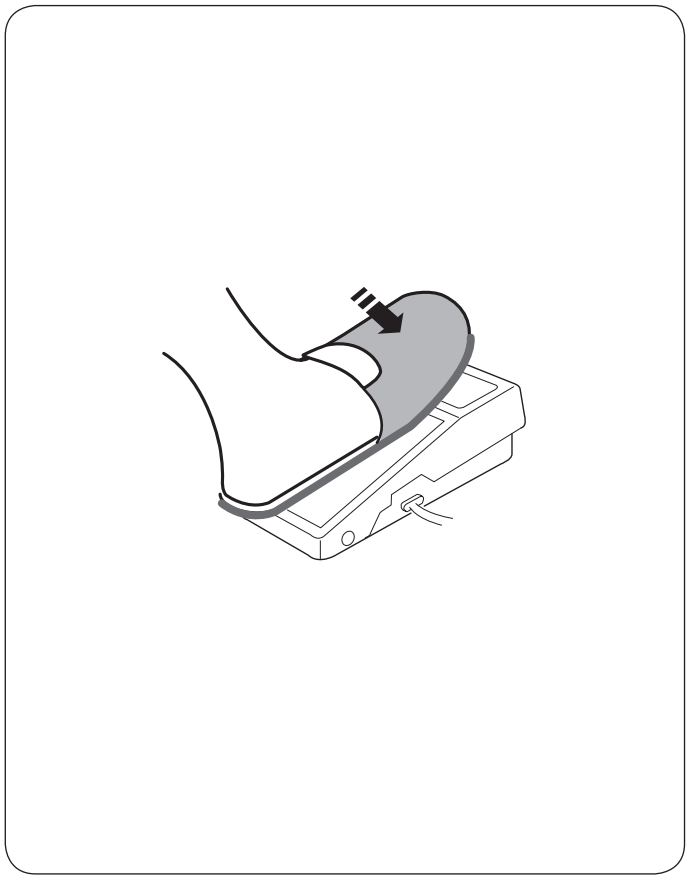
2. フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。

3. 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

4. 電源スイッチを「ON」（入）にします。

※ フットコントローラーを接続しているあいだ、表示画面にフットコントローラー表示が点灯します。





● 速さの調節

ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

★ スピードコントロールつまみ

スピードコントロールつまみは、スタート / ストップボタン使用時のぬう速さを調節できます。
つまみの位置が右側になるほど速くなります。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱいにふみ込んだときの最高速度を調節できます。
※ 最高速度は、模様のぬい目のあらさおよび模様の種類によって変化します。

★ フットコントローラー

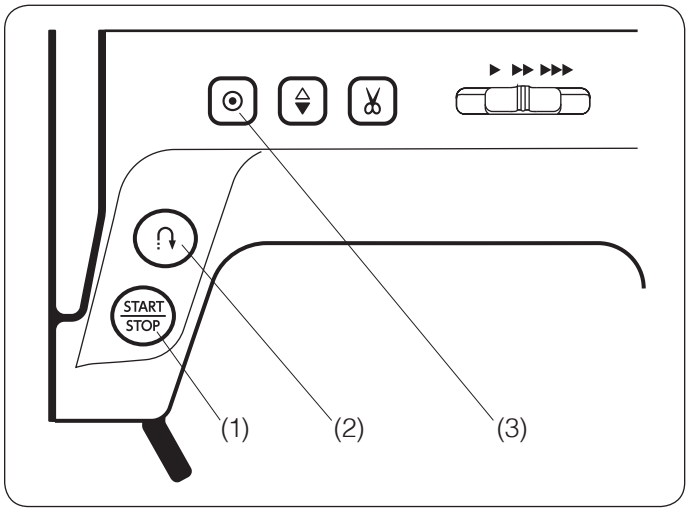
フットコントローラーのふみかげんで、ぬう速さが調節できます。

- 深くふむ→速くなる
- 浅くふむ→遅くなる

※ フットコントローラーをいっぱいにふみ込んだときのミシンの最高速度はスピードコントロールつまみで調節します。
※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置（最高速）にして、ふみかげんで調節します。
※ 細かいものをぬうときなどは低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱいにふみ込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

⚠ 警告

- フットコントローラーの上に物を置かないでください。けがや故障の原因となります。
- フットコントローラーを使用する場合、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
  動作不良を起こし、けがや故障の原因となります。



● 操作ボタン

(1) スタート/ストップボタン

スタート/ストップボタンを押すと、ミシンはゆっくり動き始め、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。(スロースタート機能)

もう一度押すとミシンは止まります。通常は針が下の位置で止まります。

※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ(手をはなすまで)、ミシンは低速で動きます。

※ フットコントローラーを接続している場合、スタート/ストップボタンは使用できません。

※ ミシンを停止したとき、通常は針が下の位置で止まりますが、上の位置で止まる設定にもできます。(「停針位置の設定」25 ページ参照)

(2) 返しぬいボタン

以下の模様をぬっている場合:



《ミシン停止中》
(フットコントローラーを接続していない場合のみ)
ボタンを押しているあいだは低速で返しぬいを行い、指をはなすとミシンは止まります。

《ミシン運転中》
ボタンを押しているあいだは返しぬいを行い、指をはなすと前進ぬいにもどります。

そのほかの模様をぬっている場合:
ぬい途中にボタンを押すと、その位置でほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

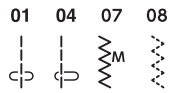
停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

※ 模様 

の場合、返しぬいボタンは特殊な使い方になります。(30 ページ参照)

(3) 止めぬいボタン

以下の模様をぬっている場合:



止めぬいボタンを押すと、その位置でほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

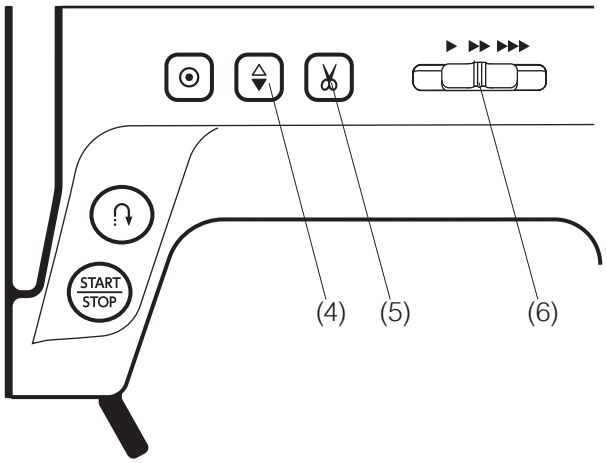
ミシンの停止中に押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

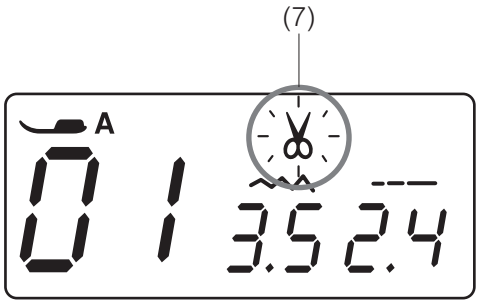
そのほかの模様をぬっている場合:

ぬい途中に止めぬいボタンを押すと、押したときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

ミシンの停止中に押した場合、運転再開後、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

※ ぬう前にボタンを押しておくと、模様を 1 つだけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。





(4) 上下停針ボタン

ミシンが止まっているときにボタンを押すと、針の位置を移動できます。針の位置が下にあるときは上に、上にあるときは下に移動します。

※ ミシンを停止したとき、通常は針が下の位置で止まりますが、上の位置で止まる設定にもできます。（「停針位置の設定」25 ページ参照）

(5) 糸切りボタン

ぬい終わったあとに糸切りボタンを押すと、上糸と下糸が自動的に切られます。

針が布にささった状態でも、糸切りボタンを押すと針は上の位置に移動します。

糸切り後、下糸を針板の上に引きあげないで、そのままの状態でぬうことができます。

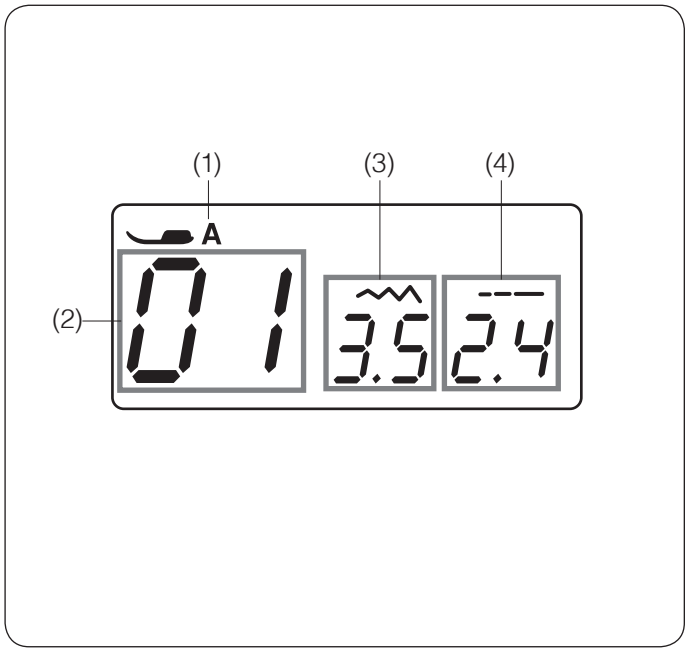
※ 糸切り中は糸切り表示（7）が点滅します。

糸切りの注意事項

- 以下の場合、糸切りボタンは使用できません。
  - 電源をつけた直後。
  - 押さえ上げをあげているとき。
  - 糸切りボタンを 3 回連続で押したとき。
- 30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合、ミシンの面板に付いている糸切りを使用します。（「面板の糸切りの使い方」27 ページ参照）
- 糸残りが少ない糸こまは使用しないでください。糸がらみの原因となります。
- 糸切り部の掃除をときどき行ってください。糸切り部に糸くずがたまると故障の原因となります。（「ミシンのお手入れ」59 ページ参照）
- 糸が切れずにからまってしまった場合、針板を外し、からまった糸を取り除いてください。（「ミシンのお手入れ」59 ページ参照）

(6) スピードコントロールつまみ

スタート / ストップボタン使用時のぬう速さを調節します。（「スピードコントロールつまみ」8 ページ参照）



● 表示画面の説明

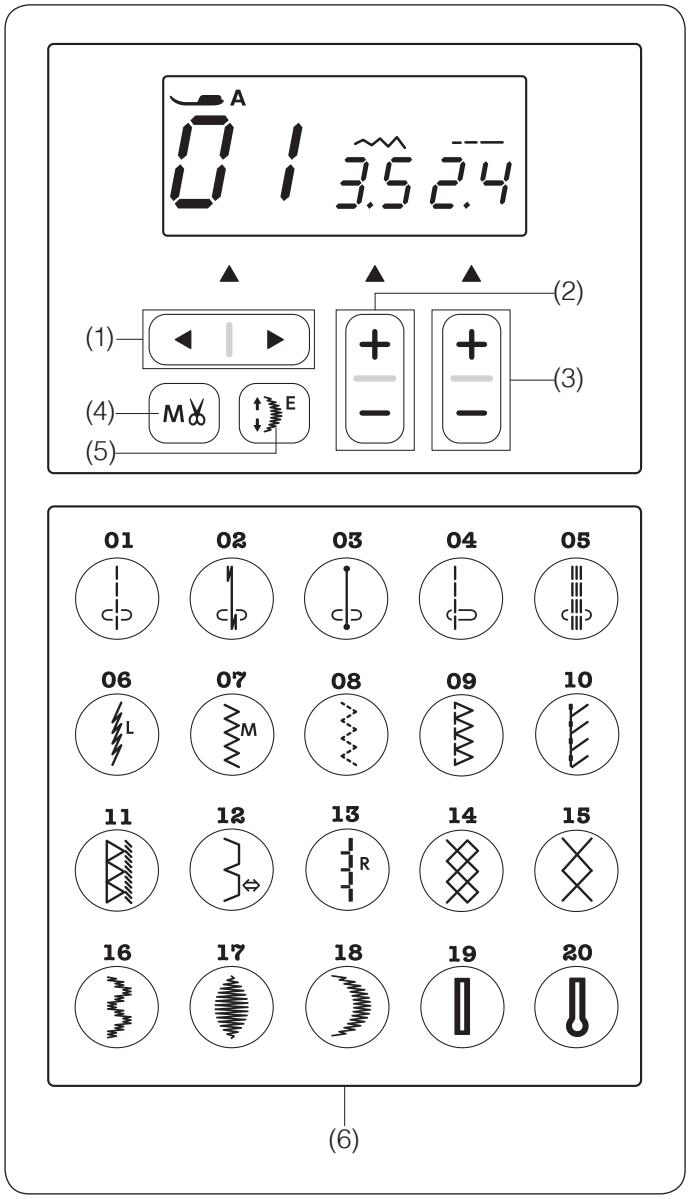
表示画面には、以下の表示がされています。

(1) 模様の代表的なぬいに使用する、押さえの記号
(2) 選んでいる模様の番号
(3) 模様に適した、ぬい目の幅の値
(4) 模様に適した、ぬい目のあらさの値

模様番号（2）、ぬい目の幅（3）、ぬい目のあらさ（4）が各設定ボタンで変更できます。

画面のちらつきについて

表示画面がちらつく場合がありますが、電子レンジなどの機器の磁場、静電気などによる液晶画面特有の現象で故障ではありません。
磁場や静電気を発生する機器の近くでは、ミシンを使用しないでください。



(1) 模様番号選択ボタン

「◀」または「▶」ボタンを押し、模様番号を選びます。（12 ページ参照）

(2) ぬい目の幅調節ボタン

「+」または「–」ボタンで、針位置やぬい目の幅を調節します。（29、32、45 ページ参照）

(3) ぬい目のあらさ調節ボタン

「+」または「–」ボタンで、選択した模様のぬい目のあらさを調節します。（29、32 ページ参照）
ボタンホールの密度を調節することもできます。（46 ページ参照）

(4) 糸切り記憶ボタン

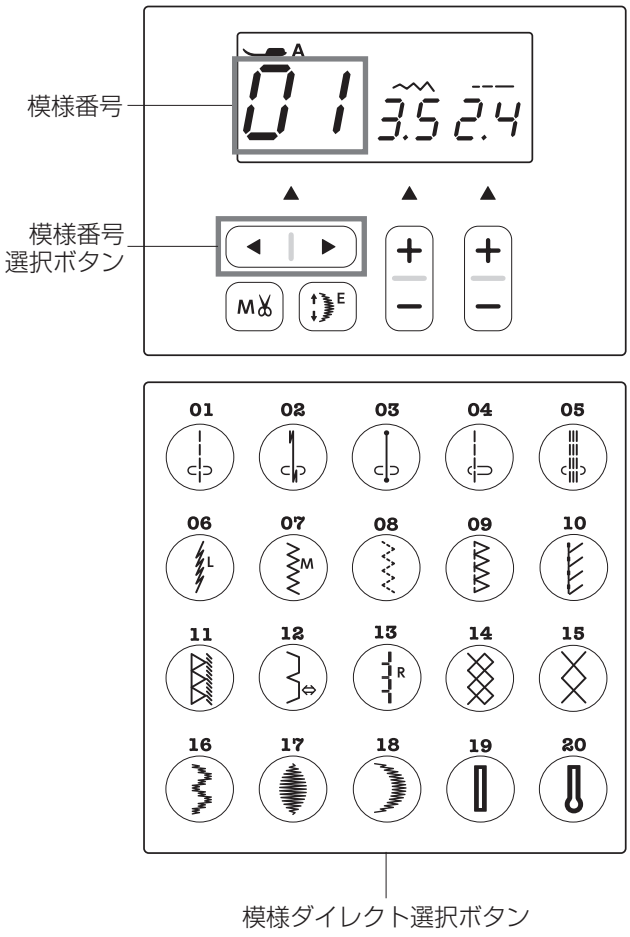
ボタンを押すと、模様をぬい終わったあと、自動的に糸が切られます。（27 ページ参照）

(5) 模様の長さボタン

サテン模様のぬい目のあらさをかえず、模様の長さをかえることができます。（54 ページ参照）

(6) 模様ダイレクト選択ボタン

01 ～ 20 の模様を直接選びます。（12 ページ参照）



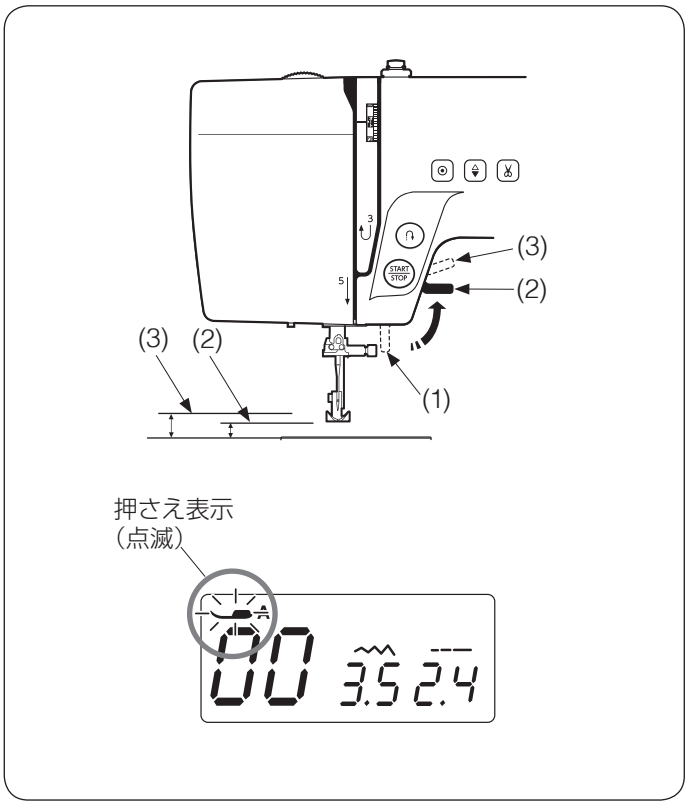
● 模様の選び方

【模様番号選択ボタンで選ぶ】

模様番号選択ボタン（「◀」または「▶」）を押し、模様番号を選びます。
ぬえる模様は、「模様一覧表」（64 ページ参照）または、模様ダイレクト選択ボタンとミシン右側に格納されている早見板（5 ページ参照）で確認できます。

【模様ダイレクト選択ボタンで選ぶ】

模様ダイレクト選択ボタンで、01 ～ 20 の模様を直接選びます。



● 押さえ上げ

押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。

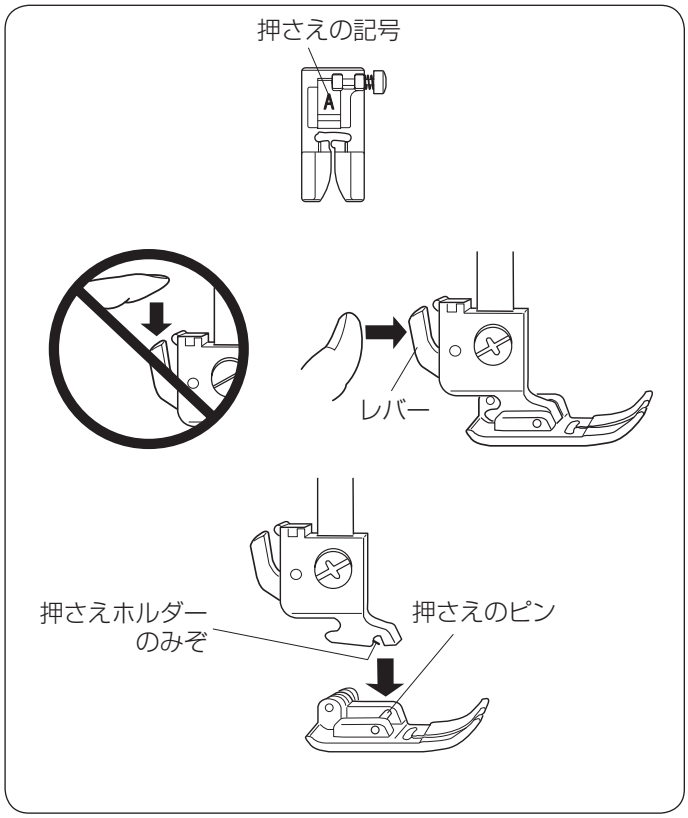
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげることもでき、厚い布を入れるときなどに利用できます。

(1) 押さえ上げ（さげた位置）
ぬうときなど

(2) 普通にあげた位置
布のセットや取り出し、上糸かけ、押さえの交換のときなど

(3) さらにあげた位置（固定はできません。）
厚い布を入れるときなど

※ 押さえ上げをさげないでミシンをスタートさせた場合、安全装置がはたらきミシンをスタートできません。このとき、画面の押さえ表示が点滅します。押さえ上げをさげてミシンをスタートさせてください。



● 押さえの外し方・付け方

⚠ 注意

- 押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。
- 押さえは模様に合ったものを使用してください。押さえには記号がついています。押さえが合っていないと針が押さえに当たり、けがの原因となります。

【押さえの外し方】

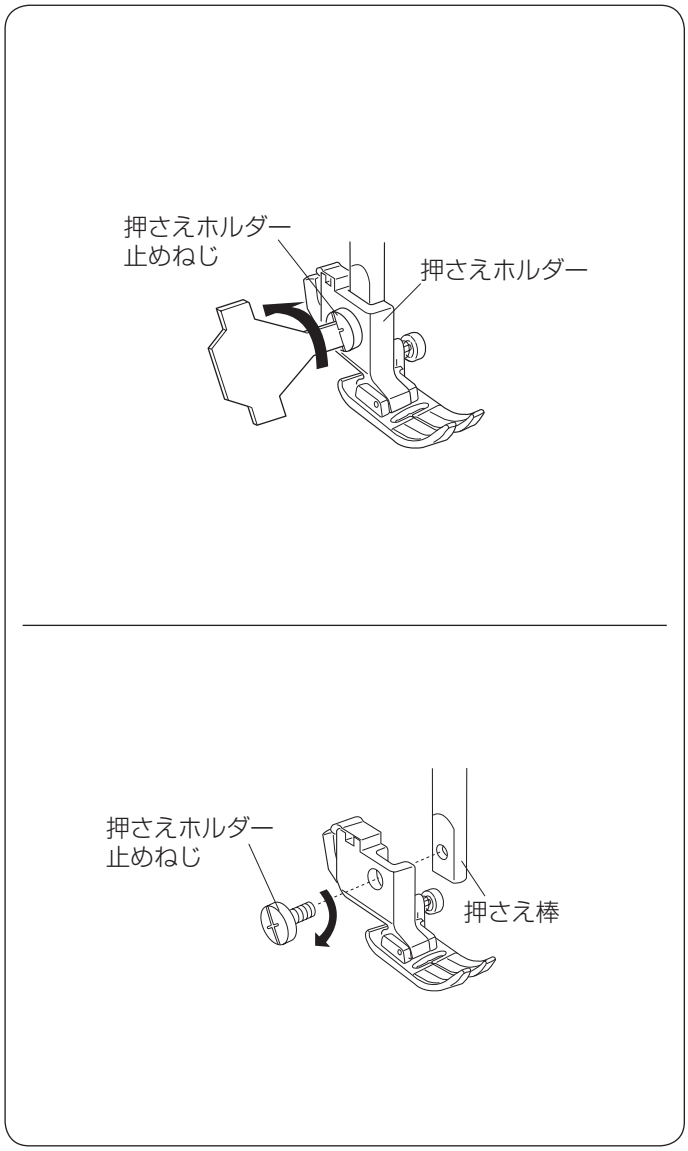
押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

※ 押さえ上げのあげ方は、12 ページの「押さえ上げ」をごらんください。

※ レバーを上から押さないでください。故障の原因となります。

【押さえの付け方】

押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをゆっくりさげます。



● 押さえホルダーの外し方・付け方

⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けを行う場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外します。

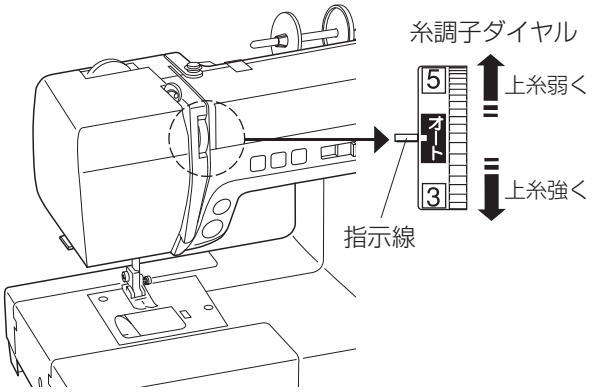
【押さえホルダーの外し方】

1. はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
2. ドライバーで押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

【押さえホルダーの付け方】

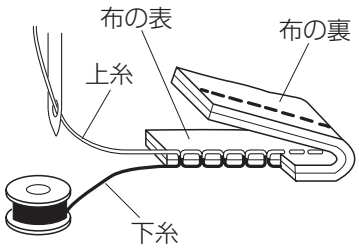
※ 押さえホルダーは、押さえが付いた状態で取り付けてください。押さえが付いていないと正常な取り付けができません。

1. 押さえ上げをあげます。
2. 押さえ棒に押さえホルダーを取り付け、押さえホルダー止めねじを軽くしめ、押さえホルダーを仮止めしておきます。
3. 押さえ上げをさげ、押さえホルダー止めねじを一度少しゆるめてから、押さえが針板に押し付けられた状態で押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりとしめます。

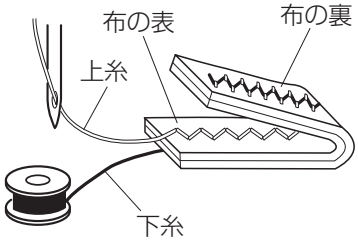


〔バランスのとれた糸調子〕

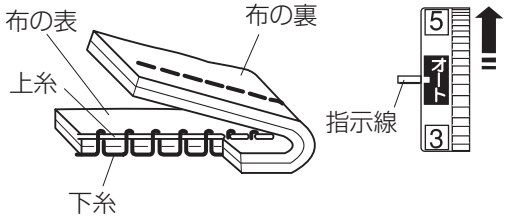
《直線ぬいの例》



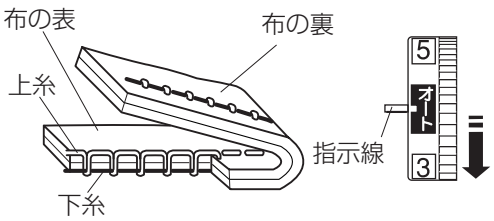
《ジグザグぬいの例》

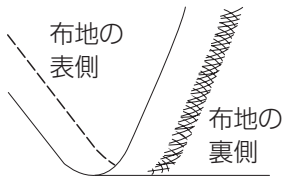


《上糸が強すぎる場合の調節》



《上糸が弱すぎる場合の調節》





● 糸調子の合わせ方

★ 自動糸調子

通常は、糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランスよくぬえるように自動的にセットされます。

【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいの場合、糸調子のバランスがとれていると、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

ジグザグぬいの場合、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸調子ダイヤルをまわすと、糸調子は下記のように変化します。

- 数字を小さくすると上糸の調子が弱くなる
- 数字を大きくすると上糸の調子が強くなる

糸や布の種類などによって、「オート」の位置で糸調子のバランスがとれない場合、下記「マニュアル糸調子」の方法で調節します。

※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

★ マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

【上糸が強すぎる場合の調節】

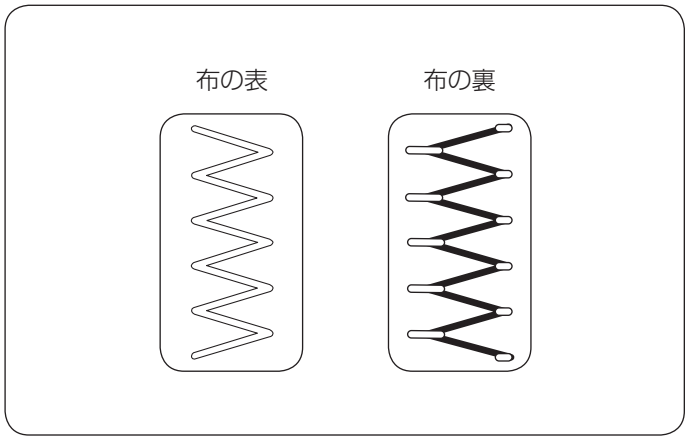
上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。
糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。
糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

布地の裏がタオル地のようになる場合

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるのは、上糸の調子が弱いか、上糸のかけ方がまちがっています。
上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。（「上糸かけ」21 ページ参照）

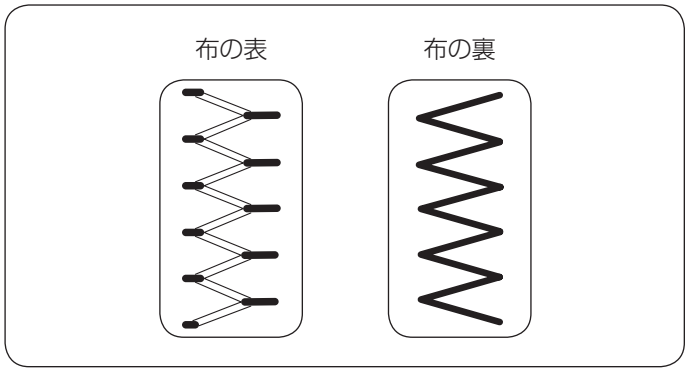


★ バランスのとれた糸調子（ジグザグ模様）

ジグザグぬいの場合、糸調子のバランスがとれていると、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

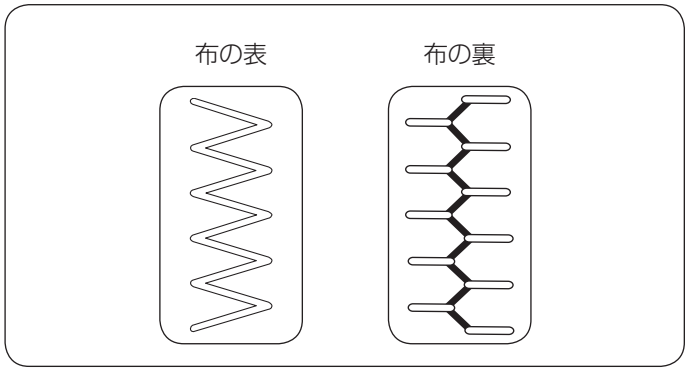
糸や布の種類などによって、「オート」の位置で糸調子のバランスがとれない場合、糸調子ダイヤルで調節します。

※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。



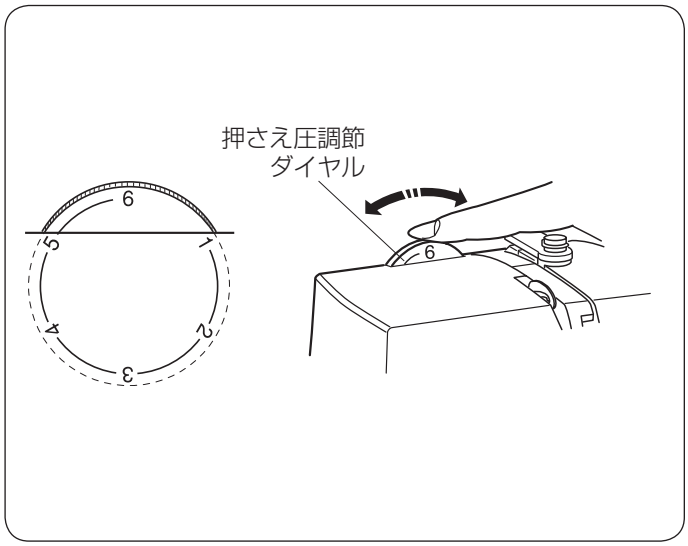
【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。
糸調子ダイヤルをまわし、小さな数字を指示線に合わせます。



【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。
糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。



● 押さえ圧調節ダイヤル

布地の厚さや特殊なぬい方によって、押さえ圧調節ダイヤルをまわして押さえ圧を調節します。

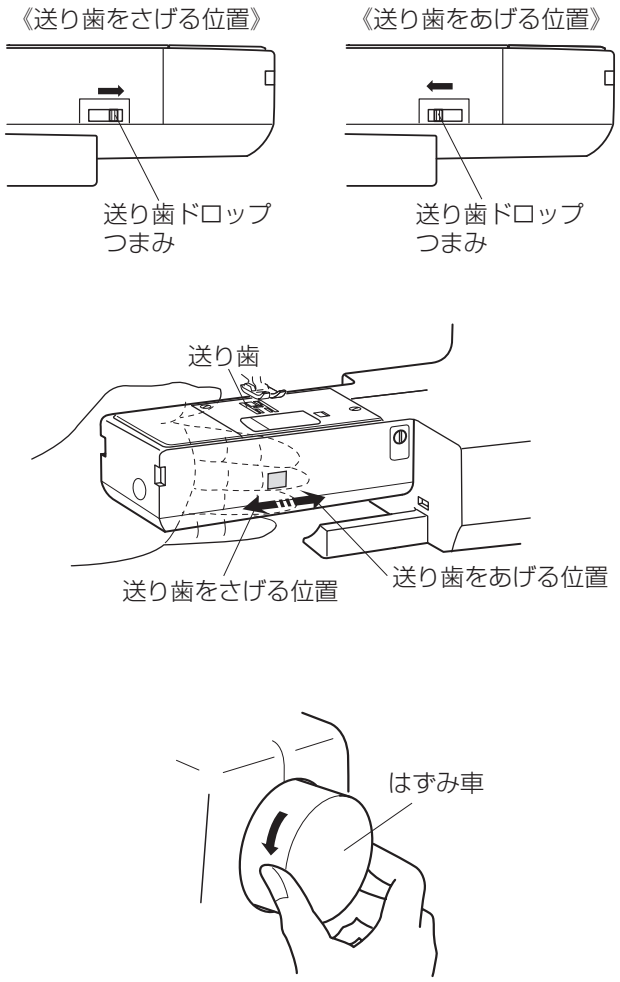
小さな数字ほど押さえ圧は弱くなります。

下記をめやすに合わせます。

- うす地は「1」～「3」
- 普通地は「3」～「6」
- 厚物地は「5」～「6」

※ 伸縮性の布地をぬうときや、アップリケなどぬいしろ部分が重なり合うものをカーブしてぬうときなど、ぬいずれしやすい場合は、押さえ圧を「1」～「3」に合わせてください。

うしろから見た図



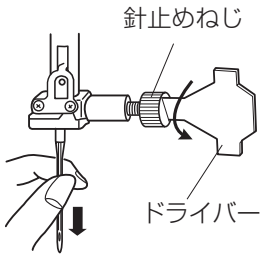
● 送り歯ドロップつまみ

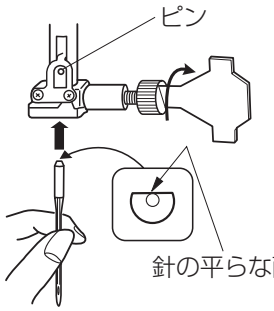
ボタン付けなどのときは、送り歯ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯をさげます。

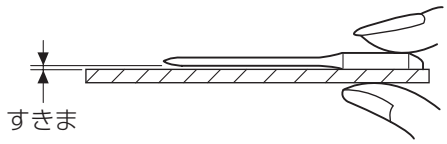
※ 送り歯をさげた場合、ぬい終わったら、送り歯ドロップつまみを「送り歯をあげる位置」にもどし、はずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認してください。



電源スイッチ







● 針の取りかえ方

⚠ 注意

針を交換する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがの原因となります。

はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをさげます。

【針の外し方】

針止めねじを手前に 1 ～ 2 回まわしてゆるめ、針を外します。

【針の付け方】

交換する針の平らな面を向こう側に向け、針をピンに当たるところまで差し込みます。針止めねじをドライバーでまわし、針をしっかり止めます。

※ 針が正しく付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのがよい針です。針先が曲がったり、つぶれたりしているものは使わないでください。

● 布に適した糸や針を選ぶ目安

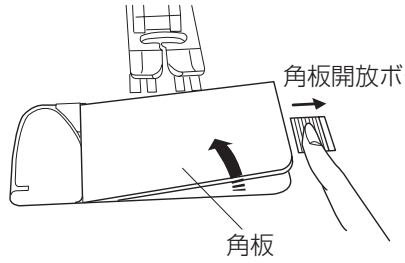
※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。

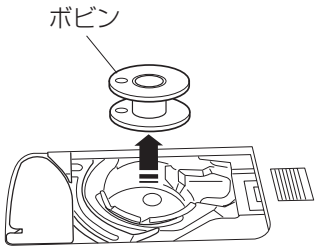
布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～ 11 番 または ブルー針
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～ 90 番	11 番～ 14 番 または ブルー針
		綿糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツイード コート地	綿糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番～ 50 番	14 番～ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。

※ 通常、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコットなど）や目とびしやすい布地には、ブルー針（11 番）（柄の部分が青色の針）を使用すると、目とびの防止効果があります。





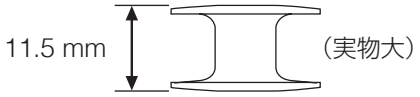
● 下糸の準備

★ ボビンの取り出し

押さえ上げをあげ、角板開放ボタンを右へずらして角板を外します。ボビンを取り出します。

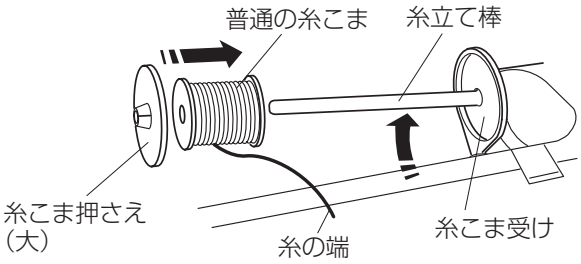
お願い

- ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。（お買い上げの販売店へご相談ください。）

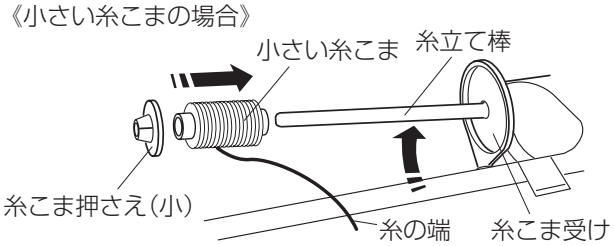


- ナイロン透明糸およびメタリック糸を、下糸に使用しないでください。
- 金属ボビンは使用しないでください。
  かまにマグネットが使用されているため、糸調子の不具合や、故障の原因となります。

《普通の糸こまの場合》



《小さい糸こまの場合》



★ 糸こまのセット

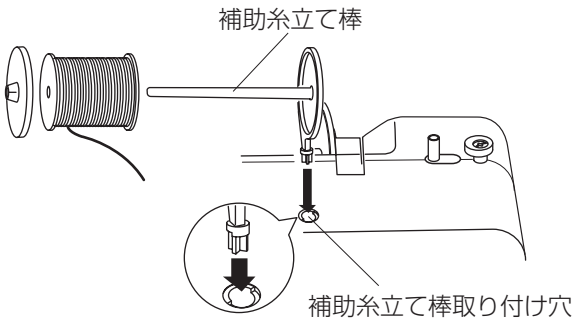
【普通の糸こまの場合】

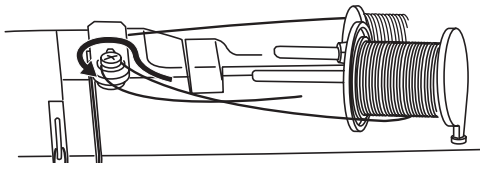
糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま受けにつき当てます。

糸こま押さえ（大）を糸こまにしっかりと押し付け、押さえます。

【小さい糸こまの場合】

小さい糸こまのときには、糸こま押さえ（小）を使います。





★ 補助糸立て棒の使い方

付属の補助糸立て棒は、ミシンに付いている糸立て棒に糸こまをセットした状態のまま別の糸こまで糸巻きをするときに使います。

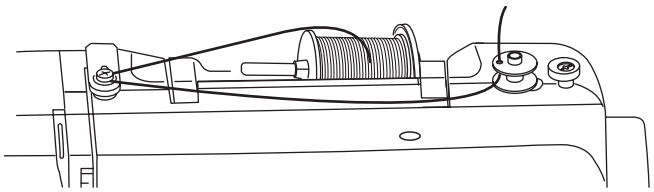
補助糸立て棒の先端を糸巻き糸案内の方に向けて、補助糸立て棒取り付け穴に差し込みます。

正しい位置に差し込んだ場合、補助糸立て棒は回転しないで固定されます。

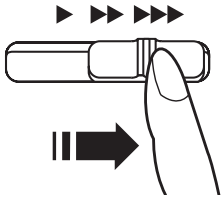
糸こまの向きや固定方法は、上記「糸こまのセット」と同じです。

※ 補助糸立て棒の先端は糸巻き糸案内の方に向けてください。

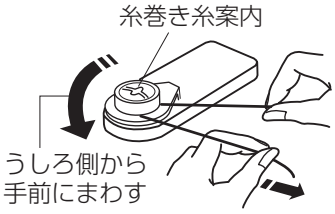
※ ミシンカバーなどに収納する場合、補助糸立て棒は外してください。

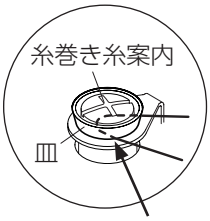


スピードコントロールつまみ



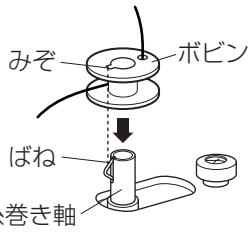
1.





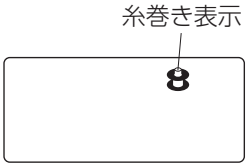
※ 糸を確実に入れる

2.



3.

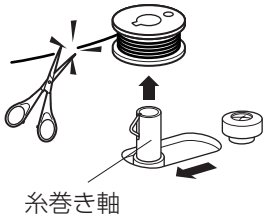




4. 5.



6.



★ ボビンに下糸を巻く

※ 下糸を巻くときは、スピードコントロールつまみを最高速（いちばん右側の位置）にします。

※ ナイロン透明糸およびメタリック糸を、下糸に使用しないでください。

1. 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、矢印方向に引いて、糸巻き糸案内にかけます。

※ 糸を確実に皿の下に入れてください。
糸が皿の下に入っていないと、均等に糸を巻くことができません。

2. ボビンの穴に内側から糸を通します。
ボビンのみぞと糸巻き軸のばねを合わせて、糸巻き軸にボビンを差し込みます。

3. ボビンをボビン押さえの方に押し付けます。
表示画面に糸巻き位置にセットされたことを示す糸巻き表示が点灯します。

※ ボビン押さえのねじはさわらないでください。部品が外れることがあります。

4. 糸の端をつまんだままミシンをスタートさせ、ボビンに糸を約 3 秒間巻きつけたらミシンを止めます。
穴のすぐ近くでつまんでいる糸を切ります。

5. 再びミシンをスタートさせ、下糸を巻きます。
下糸が巻き終わると、ボビンの回転が止まります。
ボビンの回転が止まったらミシンを止めます。

※ ミシンを止めないで放置した場合、安全のためミシンがスタートしてから約 90 秒で自動的に止まります。

6. ボビンを左側にもどし、糸巻き軸からボビンを外して糸を切ります。

※ ボビン（糸巻き軸）は、必ずミシンを止めてからもどします

● ボビンのセット

⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

1. 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように向け（糸が左巻き）、ボビンを内がまに入れます。

※ ボビンから引き出される糸の状態の図が、角板に表示されています。

2. ボビンが回転しないよう、ボビンを右手で軽く押さえます。
糸の端を左手で持ち、内がまの手前のみぞ（a）にかけ、さらに手前のつのの下をくぐらせます。

※ 各部に糸を確実にかけるため、下記の手順 **4.** が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。

3. つのの下をくぐらせた糸を矢印 1 の方向に引きあげて矢印 1 の右側のみぞ（b）に入れます。

※ 糸が内がまの左側のみぞ（c）から出ているのを確認してください。

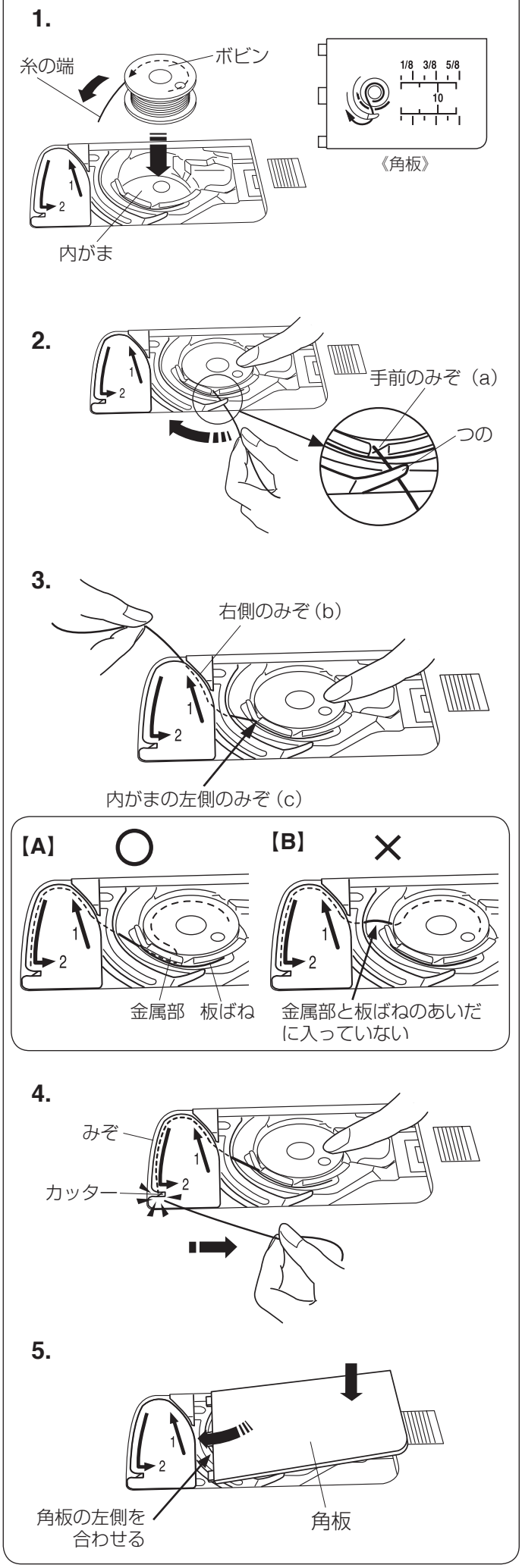
※ **手順 2. で、内がまの手前のみぞ（a）に糸がかかっていない場合、内がまの板ばねのあいだに糸が入らず、ボビンから直接矢印 1 の右側のみぞに通ってしまいます。（左図、【B】参照）**
その場合は手順 2. からかけ直し、左図【A】の状態になるようにしてください。

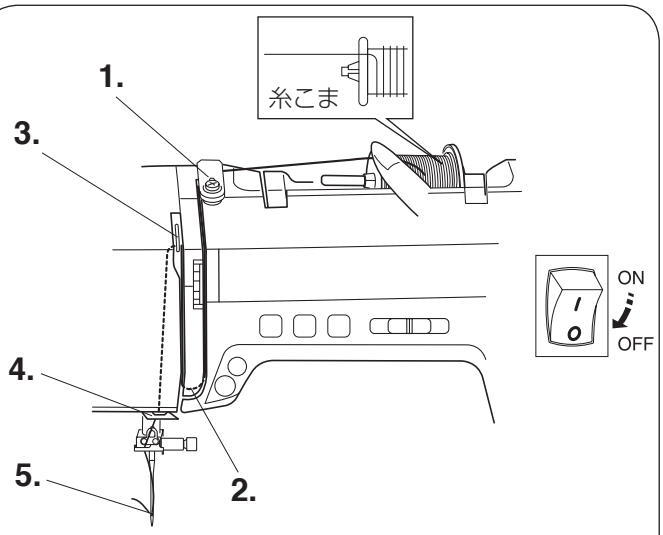
※ **糸が正しくかけられていないと、ぬい不良の原因となります。**

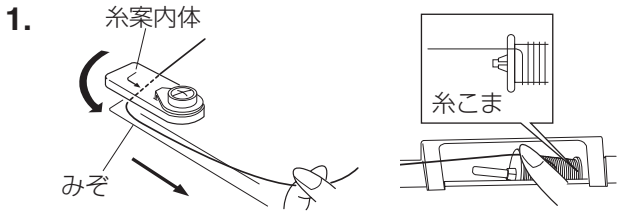
4. そのままみぞにそって矢印 2 の方向に糸を通します。
下側のカッターに糸をかけ、右に水平に引いて切ります。

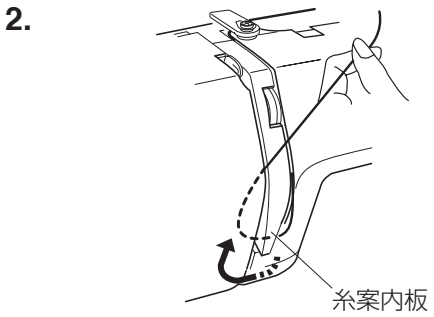
5. 角板を左側から合わせて取り付けます。

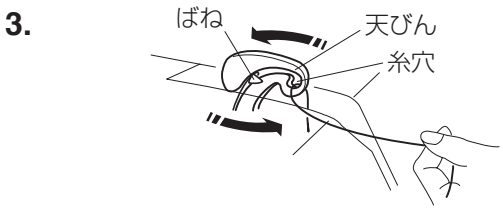
※ 通常は、下糸はこの状態のままでぬい始めることができます。
ぬい始めに下糸を針板の上に引き出す必要があるときは、23 ページの「下糸を針板の上に引き出す場合」をごらんください。

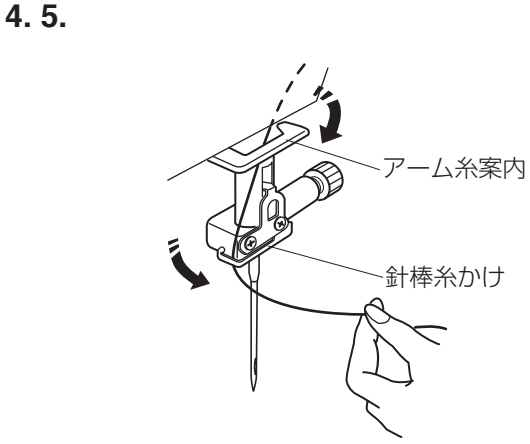




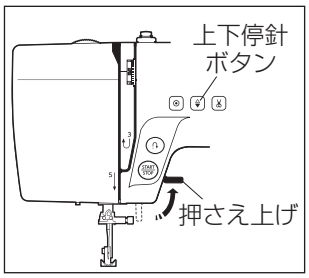








● 上糸かけ



【準備】

1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針と天びんをあげます。
3. 電源スイッチを切ります。

⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、ぬい不良の原因となります。

※ 糸を各部に確実にかけるため、上糸かけは、常に右手で糸こま側の糸を押さえながら、左手で強めに引いて行ってください。

※ 糸こまのセット方法は、18 ページの「糸こまのセット」をごらんください。

1. 糸こまから糸を引き出し、右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻き付けるようにかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

2. 糸を糸案内板の下にまわし、左上に引きあげます。

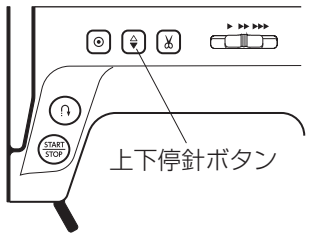
3. 糸を、天びんの右からうしろへまわして手前に出します。ばねを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。

※ 糸がばねを通過し、天びんの糸穴まで入っていることを確認してください。

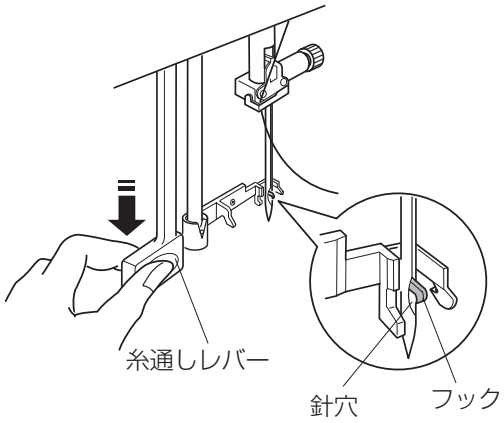
4. 糸を、右からアーム糸案内にかけ、針棒糸かけに左からかけます。

5. 糸通しレバーを使って針に糸を通します。
（「糸通しレバーの使い方」22 ページ参照）

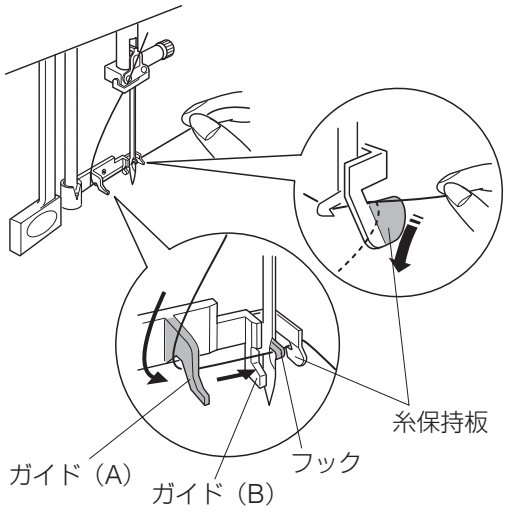
1.



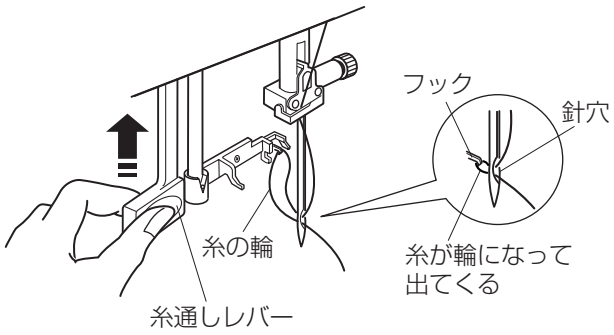
2.



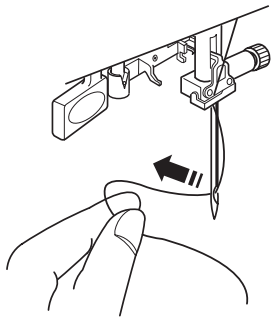
3.



4.



5.



★ 糸通しレバーの使い方

⚠ 注意

糸通しレバーを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 針は家庭用ミシン針（HA × 1）の 11 番～ 16 番、糸は 50 番～ 90 番が使用できます。

1. 上下停針ボタンを押し、針をあげた状態のまま、電源スイッチを切ります。

2. 押さえ上げをさげます。
糸通しレバーを止まるまでさげます。

※ 糸通しレバーが止まった位置で、針穴にフックが入っています。

3. 糸をガイド（A）の左側から下にまわし、ガイド（B）のくぼみに下からそわせながら糸保持板に下からかけ、手前にたらしておきます。

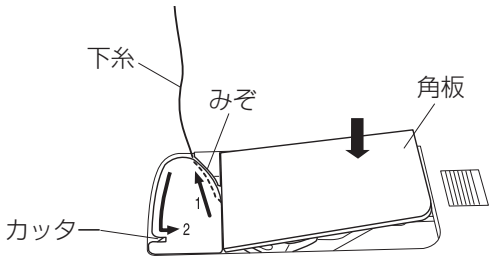
※ 糸はフックの下を通ります。

4. 糸通しレバーを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

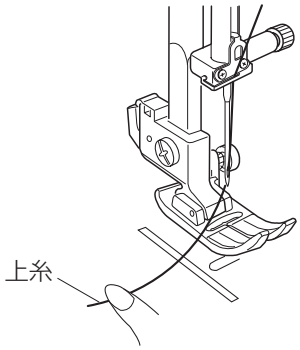
5. 糸の輪をフックから外し、糸の輪を向こう側に引いて、針穴から糸の端を引き出します。

※ 糸の輪ができず、フックに引っかかってしまう場合、そのまま糸をうしろに引き出します。

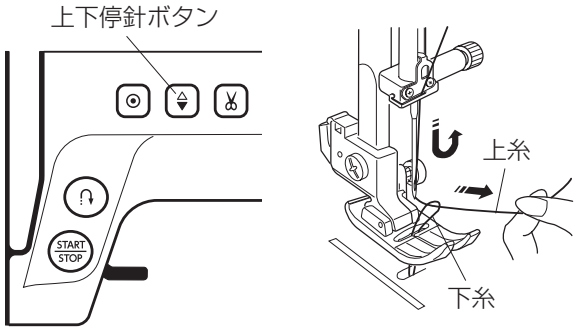
1.



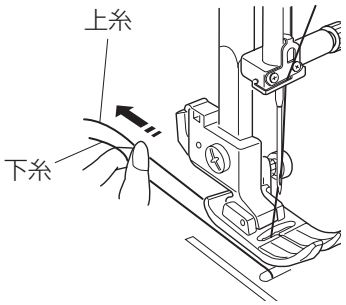
2.



3.



4.



● 下糸を針板の上に引き出す場合

自動糸切り後や、ボビンを内がまにセットしたあとは、下糸を引きあげずにぬうことができます。
ギャザーやスモッキングなど、ぬい始めの下糸を長くする必要がある場合、下記手順で下糸を針板の上に引き出します。

1. 「ボビンのセット」（20 ページ参照）の手順 **1.** ～手順 **3.** と同じ方法で下糸を矢印 1 の方向に引きあげ、みぞに入れます。
そのまま約 10 cm 向こう側に引き出し、角板を取り付けます。

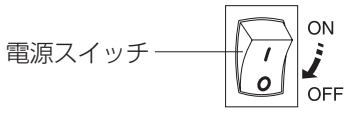
※ 下糸は、下側にあるカッターで切らないでください。

2. 針に上糸を通し、押さえ上げをあげた状態で、上糸の端を指で押さえておきます。

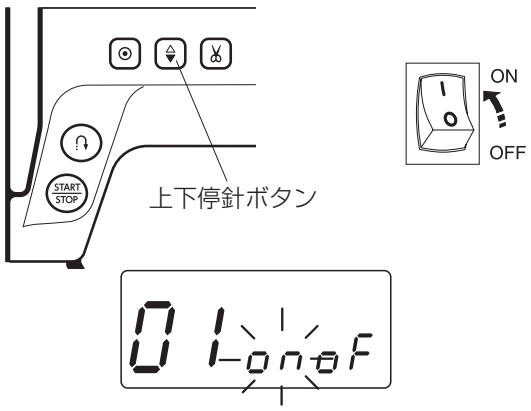
3. 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針をさげ、もう一度上下停針ボタン押して針をあげます。
上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。

4. 上糸と下糸を押さえの下にして、約 10 cm うしろにそろえて引き出します。

1.



2.



〔ブザー音設定画面〕

● ミシンの設定

以下の設定を行います。

- ブザー音の設定
- ミシン停止時の針位置の設定

【設定方法】

1. 電源スイッチを切ります。

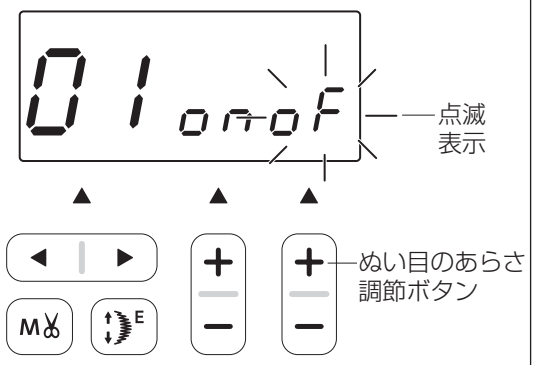
2. 上下停針ボタンを押したまま、電源スイッチを入れます。ブザー音設定画面が表示されます。

※ 設定画面が表示されるまで、上下停針ボタンを押し続けます。設定画面が表示されなかった場合、もう一度電源スイッチを切ってやり直します。

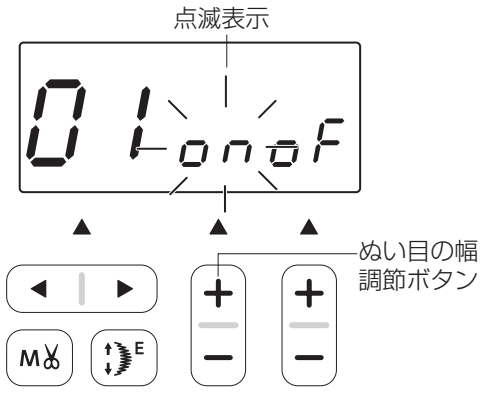
※ 各設定は、スタート / ストップボタンを押して確定します。設定の途中でスタート / ストップボタンを押さずに電源スイッチを切った場合、設定は確定されず、ミシンは元の状態のままとなります。

1.

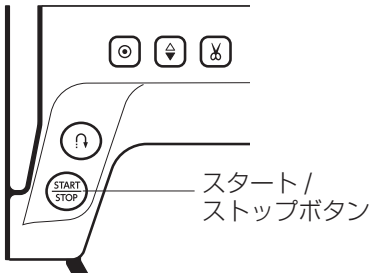
〔ブザー音設定画面〕



2.



3.



★ ブザー音の設定

ボタンを押したときに鳴るブザー音など、正しい操作をしたときの受け付け音を「ブザー音あり」（初期の状態）から「ブザー音なし」に変更できます。

※ 初期の状態は、「ブザー音あり」に設定されていて、「on」の表示が点滅しています。

上記**【設定方法】**で、ブザー音設定画面を表示させます。

1. ブザー音をなしに設定する場合、ぬい目のあらさ調節ボタンの「＋」ボタンを押し、「oF」を点滅表示させます。

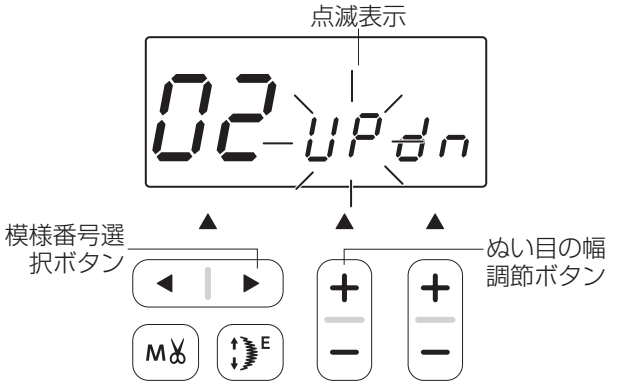
※「ブザー音なし」に設定した場合も、禁止や警告などのブザー音は鳴ります。

2. ブザー音をありに設定する場合、ぬい目の幅調節ボタンの「＋」ボタンを押し、「on」を点滅表示させます。

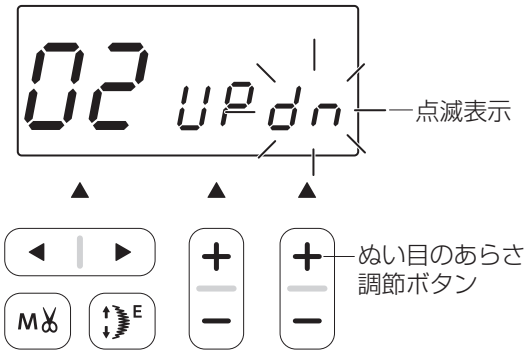
3. スタート / ストップボタンを押し確定します。

※ スタート / ストップボタンを押さずに電源スイッチを切った場合、設定は確定されず、ミシンは元の状態のままとなります。

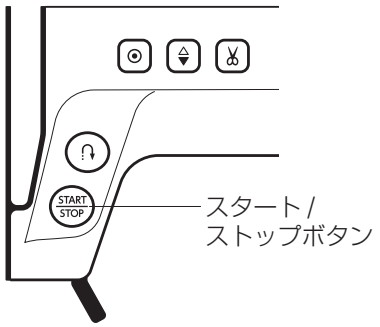
1. 〔ミシン停止時の針位置設定画面〕



2.



3.



★ 停針位置の設定

ミシンを停止したときの針の位置を、「下位置停止」（初期の状態）から「上位置停止」に変更できます。

【設定方法】（24 ページ参照）で、ブザー音設定画面を表示させます。

模様番号選択ボタン「▶」を押し、ミシン停止時の針位置設定画面を表示させます。

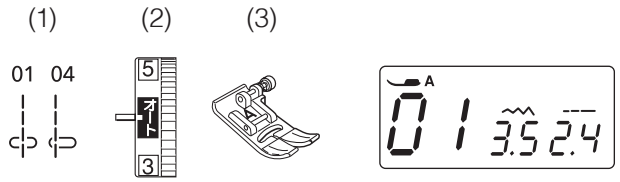
※ 初期の状態は、下位置停止に設定されており、「dn」が点滅表示されています。

1. 上位置停止に設定する場合、ぬい目の幅調節ボタンの「+」ボタンを押し、「UP」を点滅表示させます。

2. 下位置停止に設定する場合、ぬい目のあらさ調節ボタンの「+」ボタンを押し、「dn」を点滅表示させます。

3. スタート / ストップボタンを押し確定します。

※ スタート / ストップボタンを押さずに電源スイッチを切った場合、設定は確定されず、ミシンは元の状態のままとなります。



◎ じつようぬい

● 直線ぬい

(1) 模様番号： 01 または 04
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A

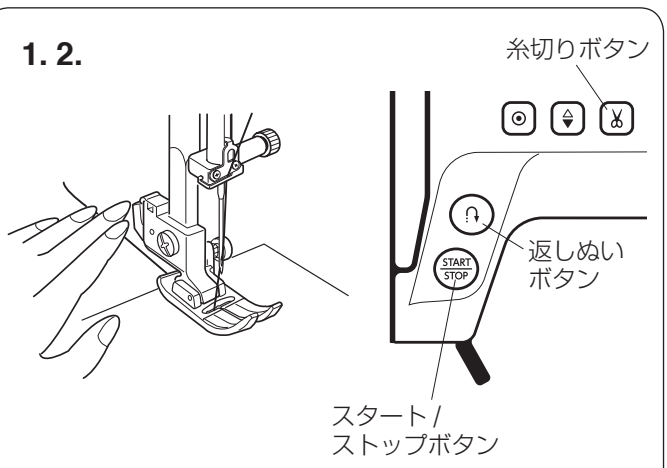
★ ぬい始め

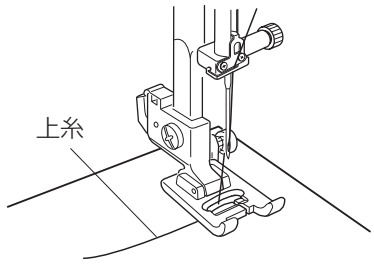
1. 上糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

※ ボビンをセットしたあとや糸切りボタンで糸を切ったあと、ぬい始めに下糸を針板の上に引き出す必要はありません。ただし、上糸は必ず向こう側に引いて、押さえで押さえます。

2. 押さえ上げをさげて、スタート／ストップボタン（フットコントローラー）を押して、ぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押します。
また、自動返しぬい模様 02 や自動止めぬい模様 03
を使う方法もあります。（30 ページ参照）



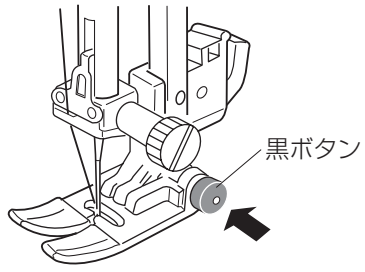


ぬい始めの糸の引き出し方

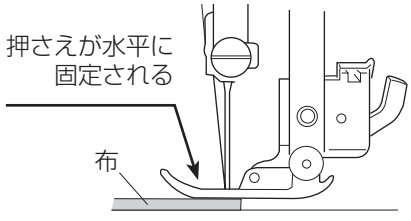
サテン押さえ F やボタンホール押さえ R などのように、押さえの裏側の前後方向（縦方向）がへこんでいて糸を押さえる部分がない場合、ぬい始めの糸は横方向に引き出して、押さえで押さえてください。（イラストはサテン押さえ F）

★ 厚手の布端のぬい始め

基本押さえ A の黒ボタンを押した状態で押さえをさげると、押さえが水平に固定されます。段差のある布をぬうときや、布の折り返しをぬうときに便利です。

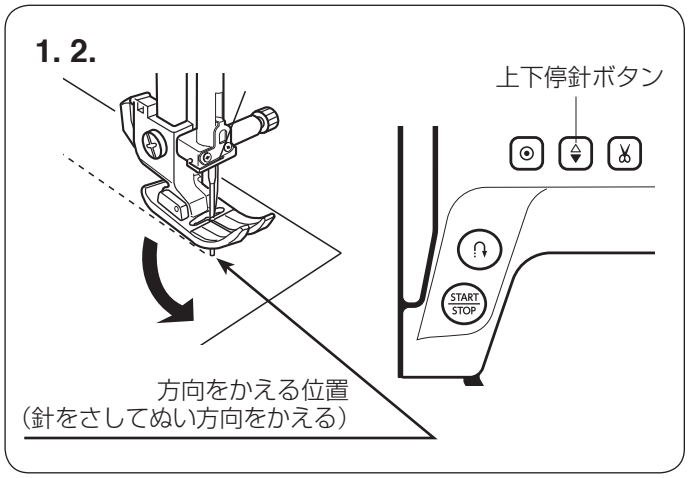


1. 最初のぬい位置に針をさし、基本押さえ A の黒ボタンを押し込みます。



2. 黒ボタンを押したまま、押さえをさげます。
押さえが水平に固定され、段差をスムーズにぬい始めることができます。
黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

※ ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえは自由に動く状態にもどります。



★ ぬい方向の変更

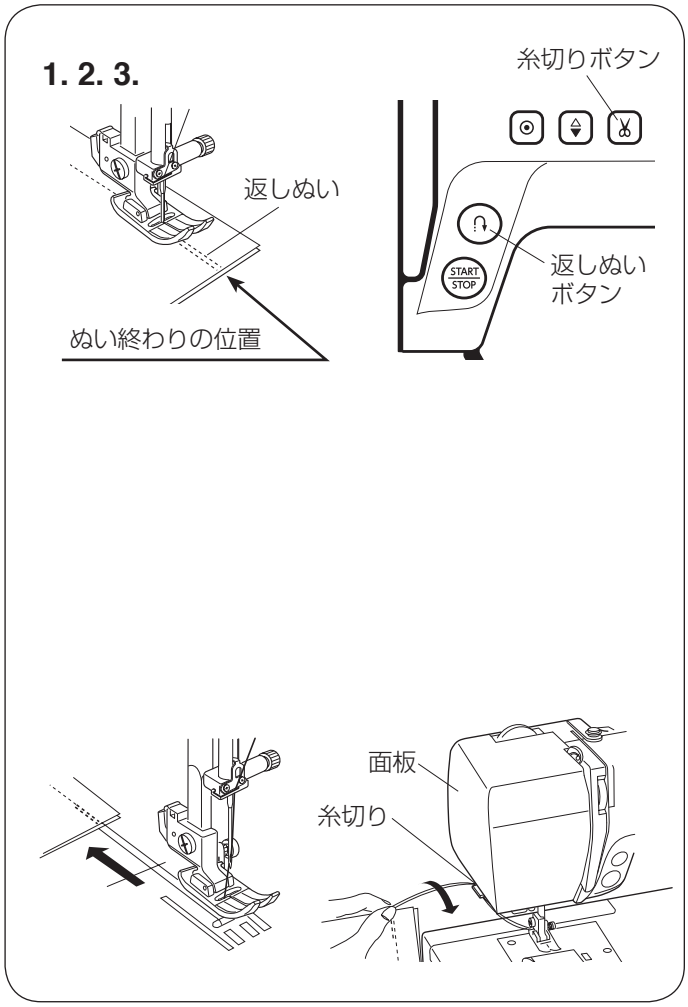
1. 布の方向をかえる位置でミシンを止めます。

2. 布に針がささっていない場合、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。

※ 通常はミシンを止めると、針が布にささった状態で止まります。上の位置で止まる設定にもできます。(「停針位置の設定」25 ページ参照)

3. 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえをさげてぬい始めます。

※ ぬい位置がずれず、きれいにぬうことができます。



★ ぬい終わり

1. ぬい終わりの位置で返しぬいボタンを押し、数針返しぬいをしてミシンを止めます。

2. 糸切りボタンを押して糸を切ります。

※ 糸切り後は下糸を針板の上に引きあげないで、そのままの状態でぬうことができます。

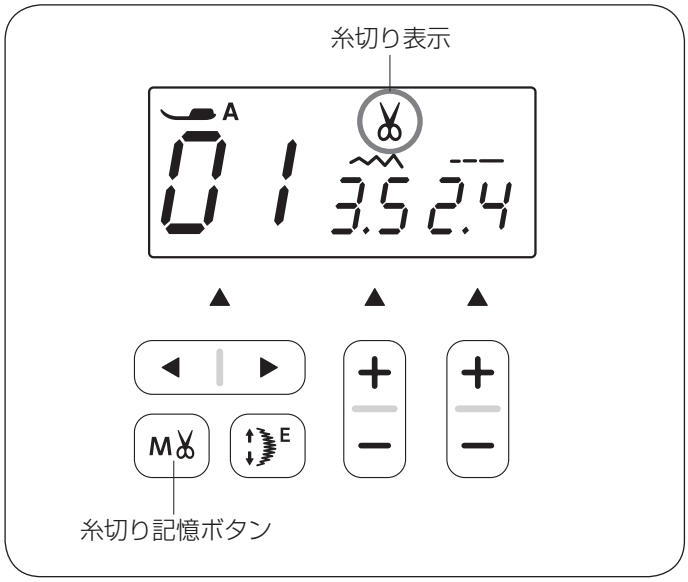
※ 針が布にささった状態でも、糸切りボタンを押すと針は上の位置に移動します。

3. 押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

※ 自動返しぬい模様 02 や自動止めぬい模様 03 でぬっている場合、ぬい終わりの位置で返しぬいボタンを一度押すと、返しぬいまたは止めぬいをして自動的にミシンが止まります。(30 ページ参照)

面板の糸切りの使い方

- 30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合、ミシンの面板に付いている糸切りを使用します。
- 針と押さえ上げをあげ、布を向こう側に引き出し、手前に返すようにして糸を切ります。



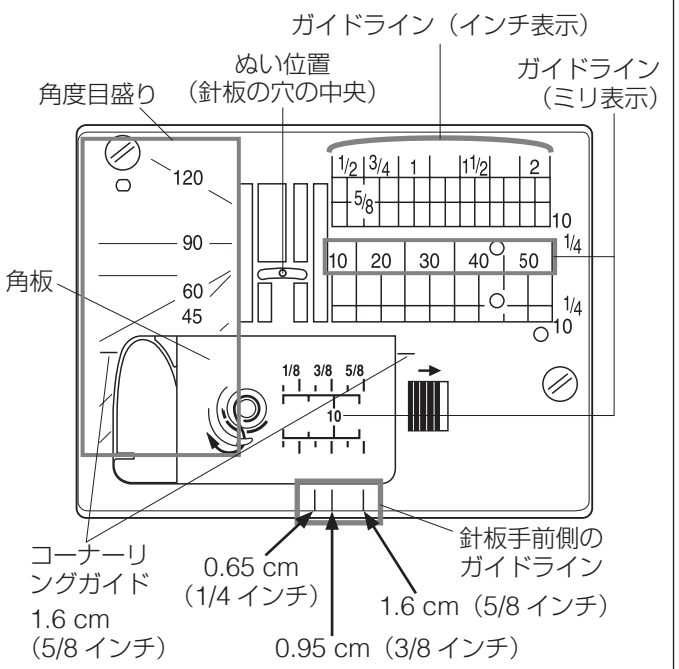
● 糸切り記憶

糸切り記憶ボタンを押すと、糸切り表示が点灯します。

ぬい終わりにほつれ止めぬいが入っている模様は、ぬい終わってミシンが止まると同時に糸切りが行われます。

そのほかの模様は、ぬい終わりに、返しぬいボタンや止めぬいボタンでほつれ止めをしてミシンを止めたとき、ミシンが止まると同時に糸切りが行われます。

※ 糸切り記憶を取り消す場合、糸切り記憶ボタンをもう一度押し、画面の糸切り表示を消します。



● 針板ガイドライン

針板および角板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドラインが表示されています。

布端をガイドラインに合わせると、布端から正確な位置をぬうことができます。

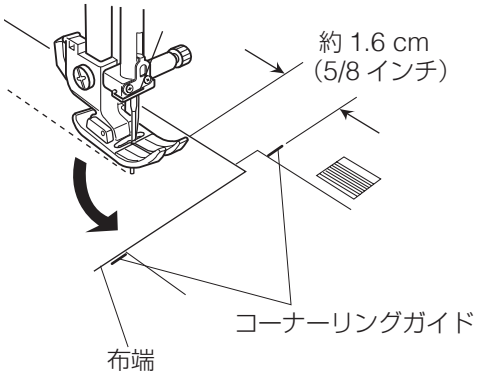
針板手前にはそれぞれ 0.65 cm（1/4 インチ）、0.95 cm（3/8 インチ）、1.6 cm（5/8 インチ）のところにガイドラインがあります。

ガイドラインの数字は、ぬい位置（針穴の中央）からガイドラインまでの距離を「インチ」と「ミリメートル」で表示しています。

コーナーリングガイド 1.6 cm（5/8 インチ）は布を直角に回転させるのに非常に便利です。
（下記「コーナリングガイド」参照）

角度目盛りはパッチワークをするときに便利です。
（50 ページ参照）

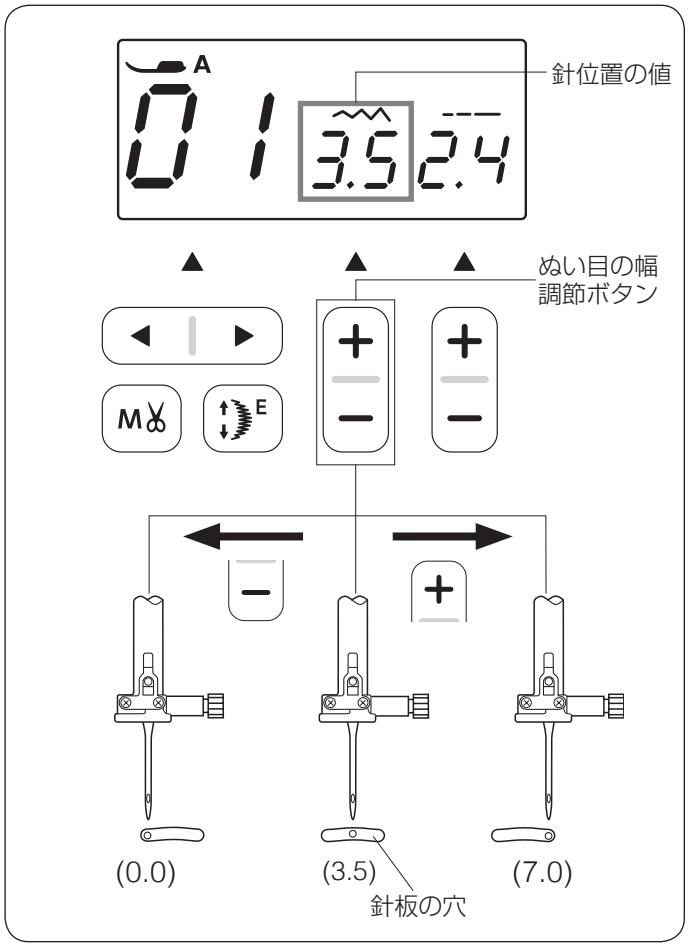
1. 2. 3.



★ コーナーリングガイド

布端から約 1.6 cm（5/8 インチ）のところで直角にぬい方向をかえるときに利用します。
ぬい方向をかえたあと布端から約 1.6 cm（5/8 インチ）の位置をぬうことができます。

1. 布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止めます。
2. 針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。
   布端が針板右側のガイドライン約 1.6 cm（5/8 インチ）の位置に合います。
3. 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。



● 針位置をかえるとき（直線状模様）

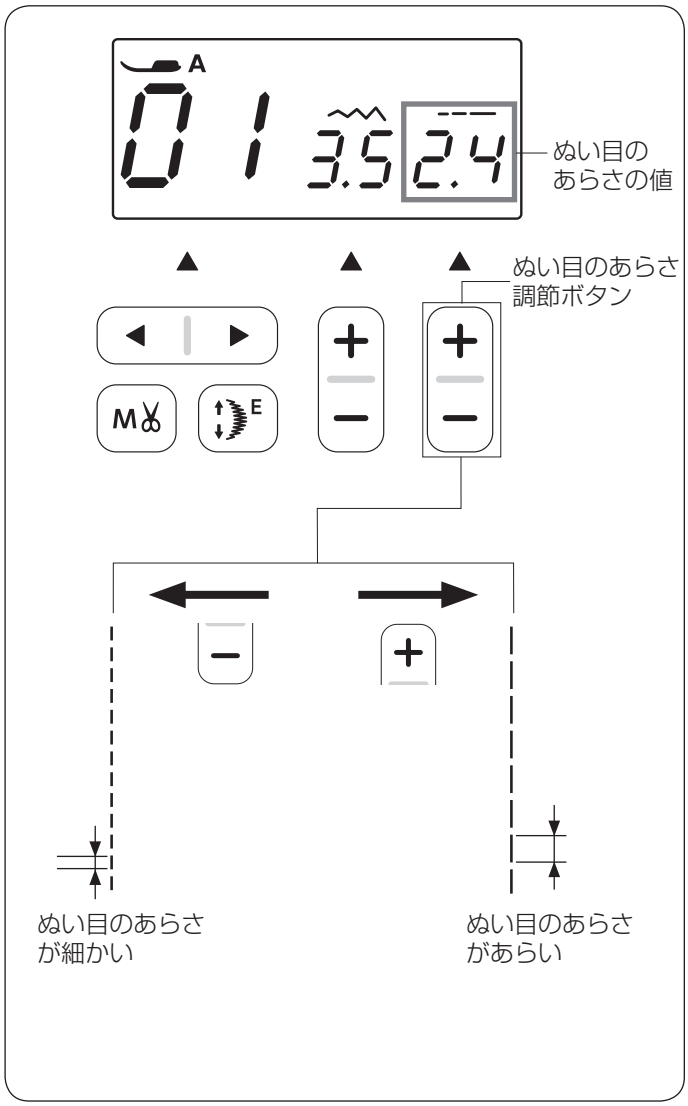
直線状模様 01 02 03 04 05 は、針位置をかえることができます。

初期値（購入時のセット状態）は模様 01 02 03 05 で 3.5、模様 04 で 0.5 です。

- ぬい目の幅調節ボタンの「＋」を押すと、値が大きくなり、針位置が右に移動します。
- ぬい目の幅調節ボタンの「－」を押すと、値が小さくなり、針位置が左に移動します。

※ 直線状模様の場合、画面の数値は左の針位置からの距離（目安）がミリメートルで表示されています。左針位置 0.0、中央針位置が 3.5、右針位置が 7.0 になります。

※ 画面の数値は、0.0 ～ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。（単位：ミリメートル）



● ぬい目のあらさをかえるとき（直線状模様）

初期値（購入時のセット状態）は模様 01 02 03 04 で 2.4、模様 05 で 2.5 です。

- ぬい目のあらさ調節ボタンの「＋」を押すと、値が大きくなり、ぬい目があらくなります。
- ぬい目のあらさ調節ボタンの「－」を押すと、値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。

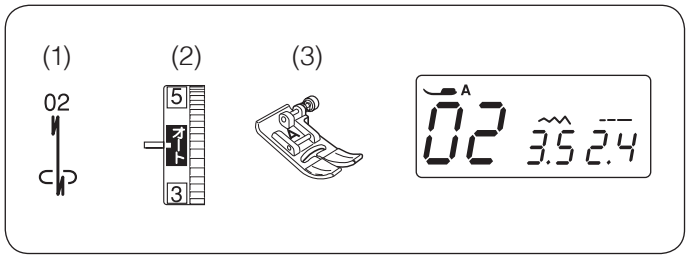
ぬい目のあらさは、模様 01 04 は 0.0 ～ 5.0 の範囲、模様 02 03 は 1.0 ～ 5.0 の範囲、模様 05 は 1.0 ～ 4.0 の範囲でかえられます。

※ 0.0（模様 01 04 のみ）、1.0、1.5、1.8 とかえることができ、1.8 から 3.0 までは 0.2 ずつ、3.0 から 5.0 までは 0.5 ずつかえることができます。

※ 画面の数値は目安として表示されています。（単位：ミリメートル）

※ ぬい目のあらさは、布や糸によってかわります。

※ 4.5 と 5.0 のときの、返しぬいのぬい目のあらさは 4.0 になります。布や糸によりかわりますので、目安としてください。

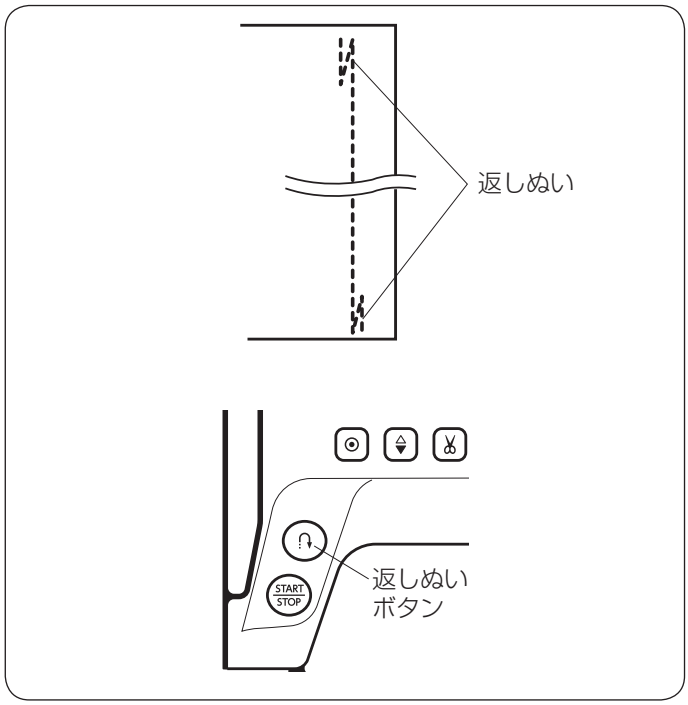


● 直線ぬい

★ 自動返しぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号： 02
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A



ぬい始めとぬい終わりに、しっかりしたほつれ止め（返しぬい）を自動的に行います。

• ぬい始め

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。

• ぬい終わり（スタート/ストップボタン使用時）

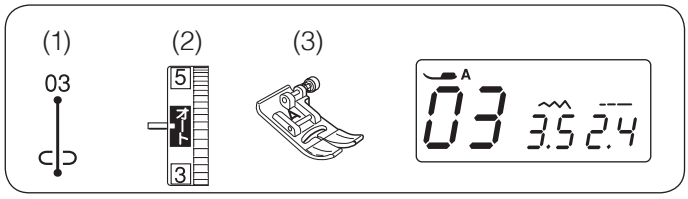
ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。 その位置から自動的に数針返しぬいをして、ミシンが停止します。

• ぬい終わり（フットコントローラー使用時）

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。

ミシンを停止してから返しぬいボタンを押した場合、再度フットコントローラーをふむと、その位置から自動的に数針返しぬいをして、ミシンが停止します。

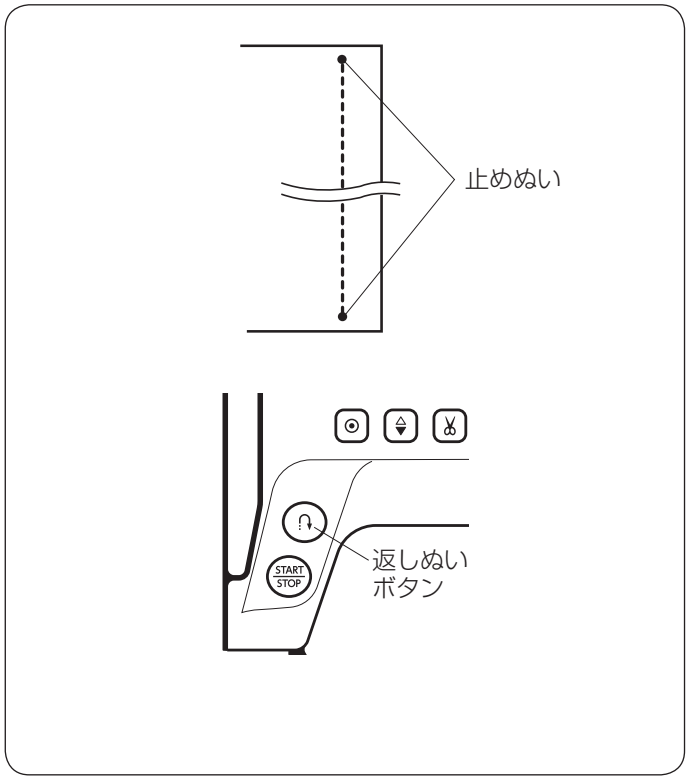
運転したまま返しぬいボタンを押した場合、その位置から自動的に数針返しぬいをして、ミシンが停止します。



★ 自動止めぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号： 03
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A



ぬい始めとぬい終わりに、目立たないほつれ止め（止めぬい）を自動的に行います。

• ぬい始め

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。

• ぬい終わり（スタート/ストップボタン使用時）

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。

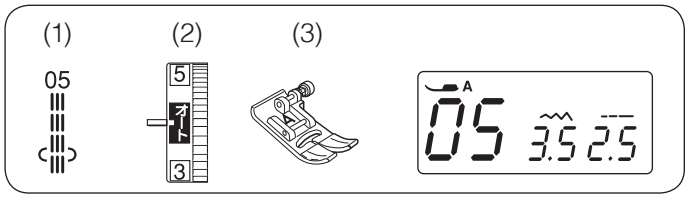
その位置で自動的に数針止めぬいをして、ミシンが停止します。

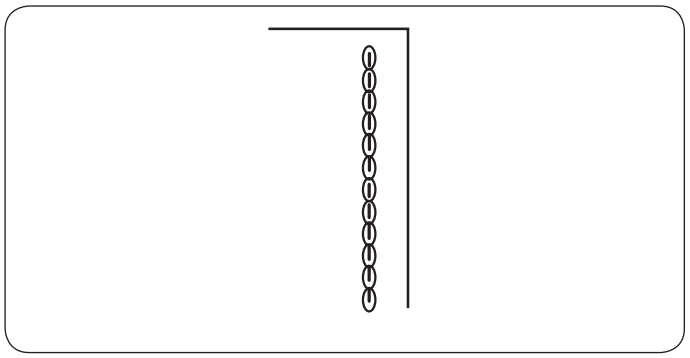
• ぬい終わり（フットコントローラー使用時）

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。

ミシンを停止してから返しぬいボタンを押した場合、再度フットコントローラーをふむと、その位置で自動的に数針止めぬいをして、ミシンが停止します。

運転したまま返しぬいボタンを押した場合、その位置で自動的に数針止めぬいをして、ミシンが停止します。





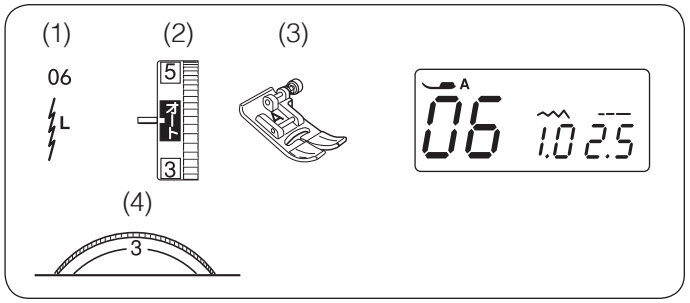
★ 三重ぬい

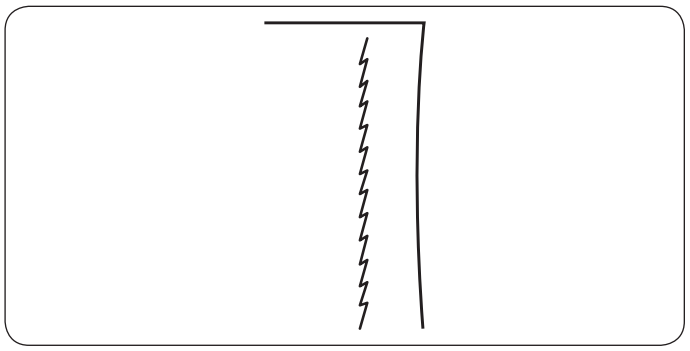
ミシンのセット

(1) 模様番号： 05
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A

伸縮性のある強いぬい目です。

ズボンの股やそでの付け根など、特に強度が必要な場所の補強に使用します。





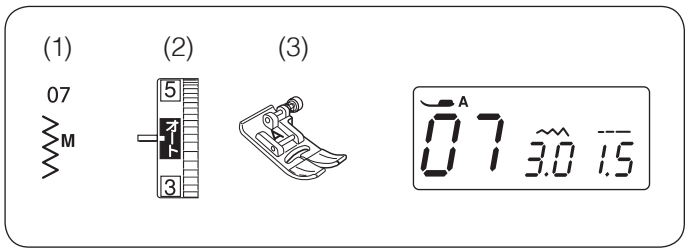
★ 伸縮布地のぬい

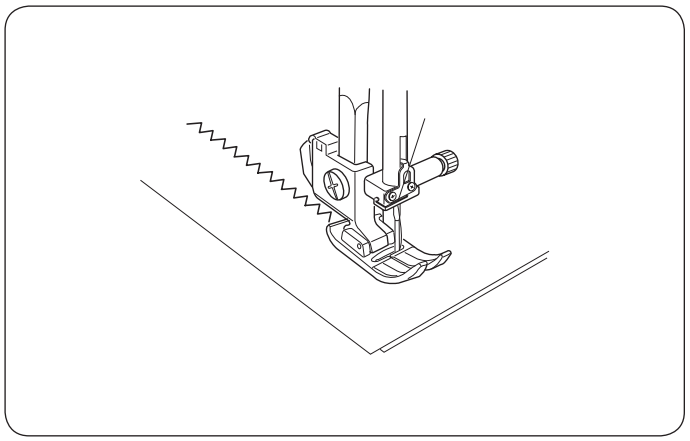
ミシンのセット

(1) 模様番号： 06
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A
(4) 押さえ圧調節ダイヤル： 3 ～ 4（15 ページ参照）

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

※ 模様の右に書かれている「L」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。（32 ページ「ぬい目の幅の基準位置」参照）





● ジグザグぬい

ミシンのセット

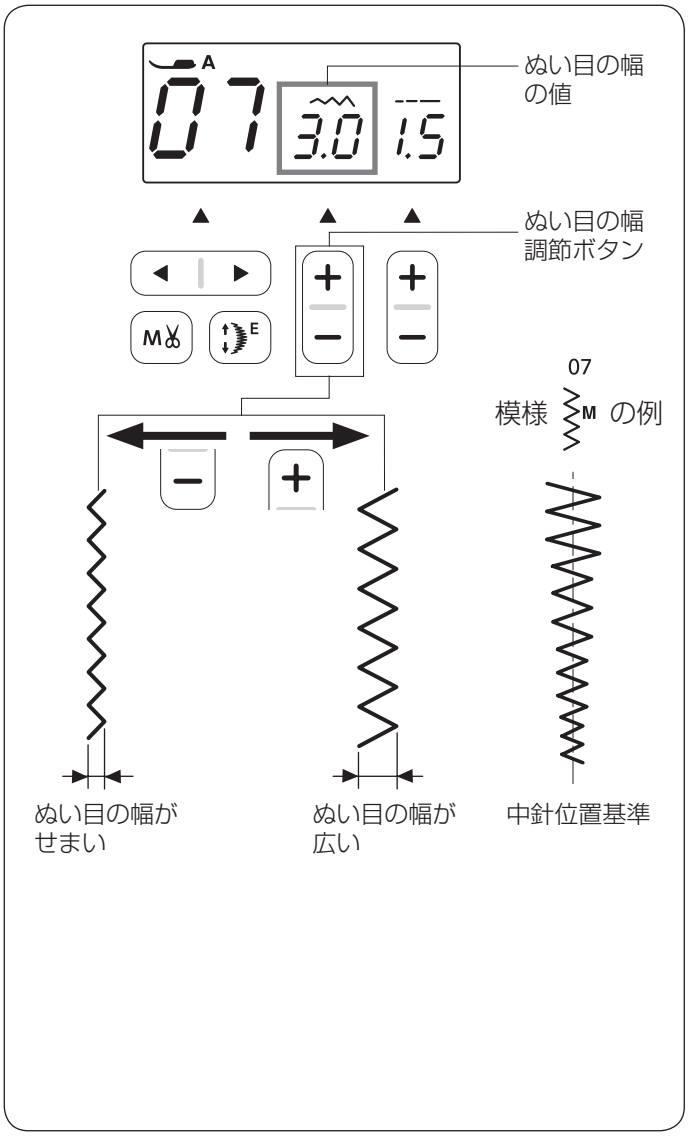
(1) 模様番号： 07
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A

ジグザグぬい（模様 07 M ）で「基本押さえ A」を使用する場合、試しぬいをして、ぬい縮みが出ないよう、ぬい目の幅やぬい目のあらさを調節します。

うす地の場合、ぬい目の幅 3.0、ぬい目のあらさ 2.0 が目安です。

ジグザグぬいは、たち目かがりや、ボタン付けなどいろいろなぬい方ができます。

※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には芯地を貼るときれいにぬえます。



★ ぬい目の幅をかえるとき

初期値（購入時のセット状態）は、3.0 です。

0.0 ～ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。
（単位：ミリメートル、目安です。）

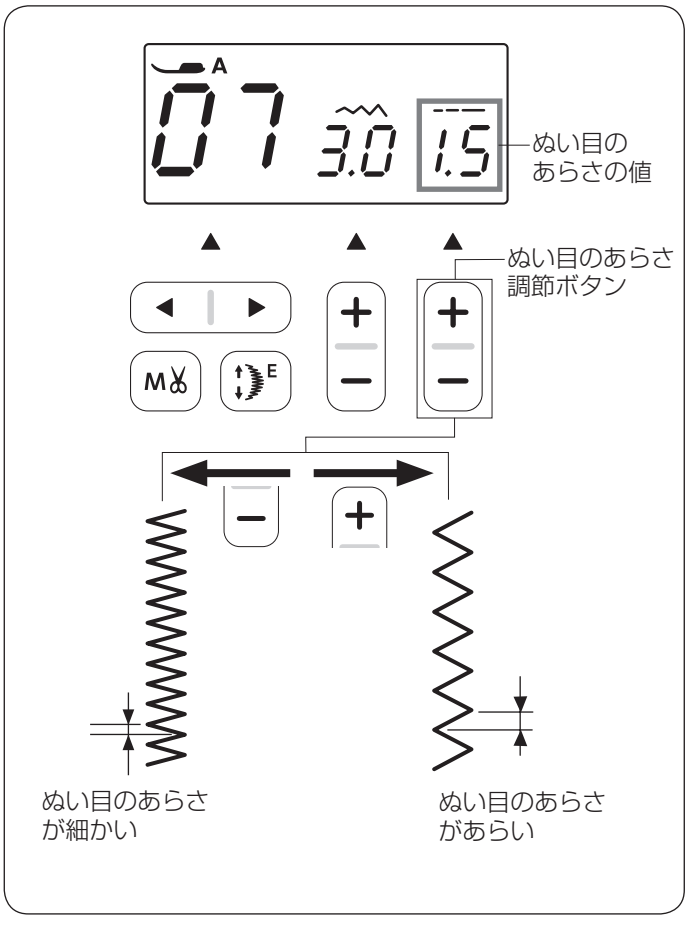
- ぬい目の幅調節ボタンの「＋」を押すと、値が大きくなり、中針位置を基準（固定）に左右に幅が広くなります。
- ぬい目の幅調節ボタンの「－」を押すと、値が小さくなり、中針位置を基準（固定）に左右に幅がせまくなります。

※ 模様の右に書かれている「M」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。

ぬい目の幅の基準位置

早見板や模様ダイレクト選択ボタンのイラストの右に書かれている「L」、「M」、「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。

- 「L」：ぬい目の幅をかえたとき、左針位置を基準（固定）に右に幅が変化します。
- 「M」：ぬい目の幅をかえたとき、中針位置（中央）を基準（固定）に左右に幅が変化します。
- 「R」：ぬい目の幅をかえたとき、右針位置を基準（固定）に左に幅が変化します。

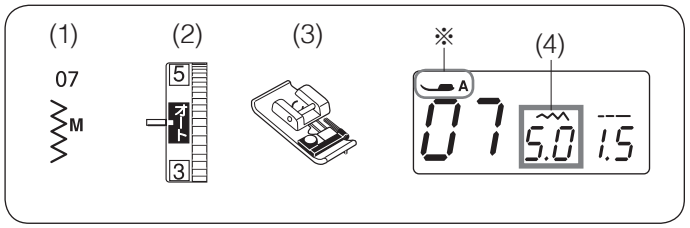


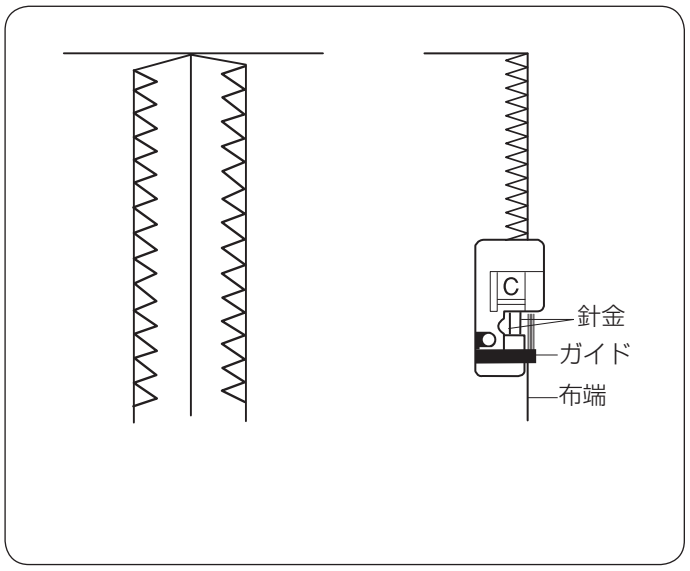
★ ぬい目のあらさをかえるとき

初期値（購入時のセット状態）は、1.5 です。

- ぬい目のあらさ調節ボタンの「＋」を押すと、値が大きくなり、ぬい目があらくなります。
- ぬい目のあらさ調節ボタンの「－」を押すと、値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。

※ 0.2 ～ 5.0 の範囲でかえることができます。
0.2 ～ 1.0 までは 0.1 ずつ、1.0 から 5.0 までは 0.5 ずつかえることができます。（単位：ミリメートル、目安です。）





● ジグザグぬいのたち目かがり

ミシンのセット

(1) 模様番号： 07
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： たち目かがり押さえ C
(4) ぬい目の幅： 5.0 ～ 7.0

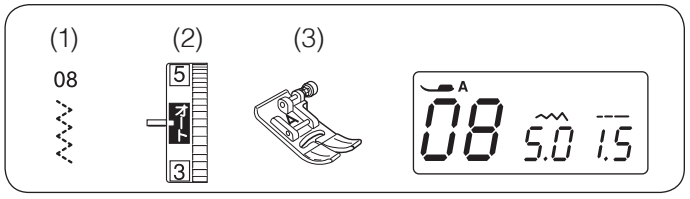
※ 押さえの表示は、基本押さえ A になっていますが、たち目かがりのときは、たち目かがり押さえ C を使用します。

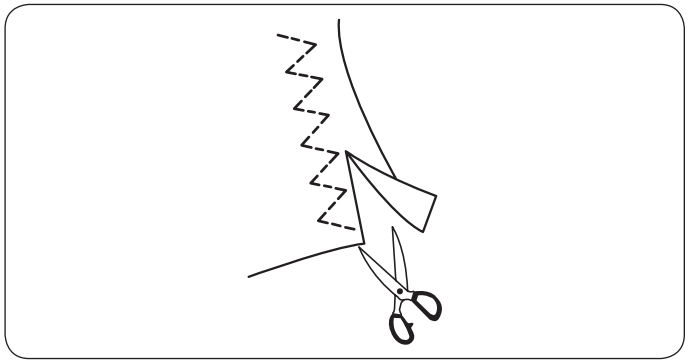
布端のほつれ止めとして広く利用します。
布端を押さえのガイドに当ててぬいます。

※ 模様の右に書かれている「M」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。（32 ページ「ぬい目の幅の基準位置」参照）

⚠ 注意

たち目かがり押さえ C を使用する場合、ぬい目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。針が押さえの針金に当たり、けがの原因となります。



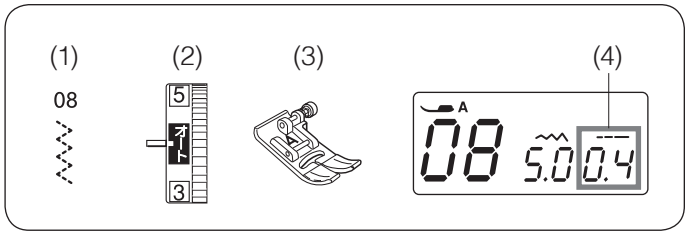


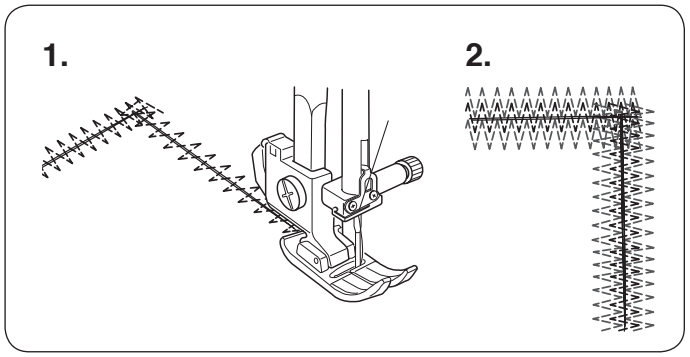
● トリコットぬいのたち目かがり

ミシンのセット

(1) 模様番号： 08
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A

しわになりやすい合成せんいや、伸縮性布地（ニットなど）のかがりぬいに使います。
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。





● つくろいぬい

ミシンのセット

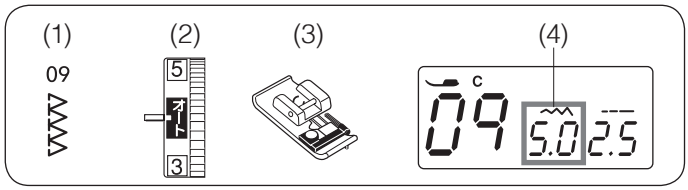
(1) 模様番号： 08
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A
(4) ぬい目のあらさ： 0.3 ～ 0.5

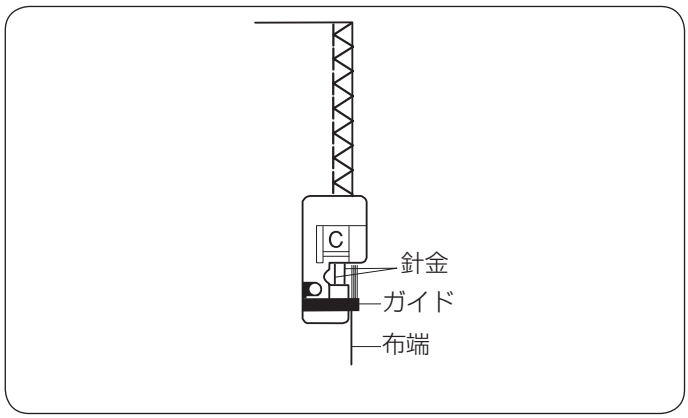
ほつれている部分のぬい合わせをします。

1. ぬい目のあらさを「0.3」～「0.5」で、ほつれた部分の布端をつき合わせてぬいます。

2. 手順 **1.** でぬったぬい目の両側をぬいます。

※ ほつれ具合によって、裏側から別布を当ててぬいます。





● ふちかがり

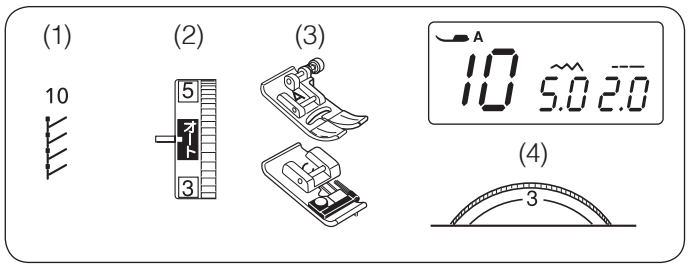
ミシンのセット

(1) 模様番号： 09
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： たち目かがり押さえ C
(4) ぬい目の幅： 5.0 ～ 7.0

普通地、平織り 2 枚に適しています。
地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに使います。
布端を押さえのガイドに当ててぬいます。

⚠ 注意

たち目かがり押さえ C を使用する場合、ぬい目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。針が押さえの針金に当たり、けがの原因となります。

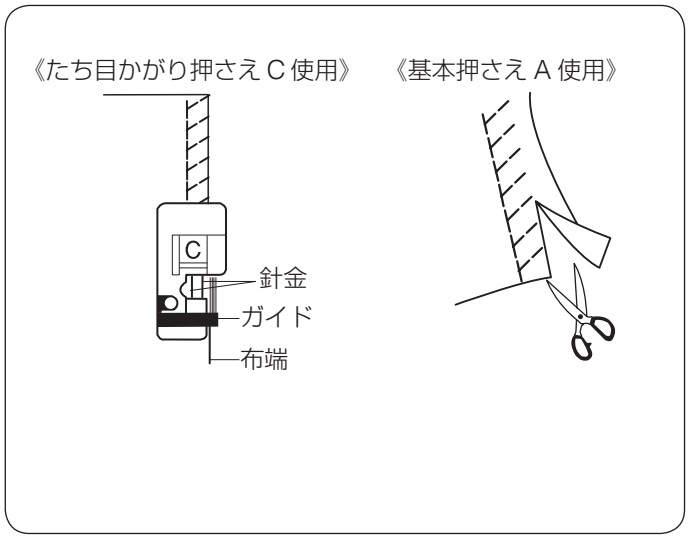


● ニットかがり

ミシンのセット

(1) 模様番号： 10
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A
たち目かがり押さえ C
(4) 押さえ圧調節ダイヤル：3 ～ 4（15 ページ参照）

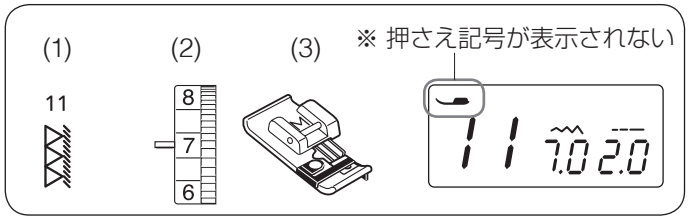
ジャージー、ニット、トリコットなど伸びる布地の端をかがるのに使用します。
たち目かがり押さえ C を使用する場合、布端を押さえのガイドに当ててぬいます。
※ たち目かがり押さえ C を使用するときは、ぬい目の幅は、「5.0」～「7.0」でぬいます。



⚠ 注意

たち目かがり押さえ C を使用する場合、ぬい目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。針が押さえの針金に当たり、けがの原因となります。

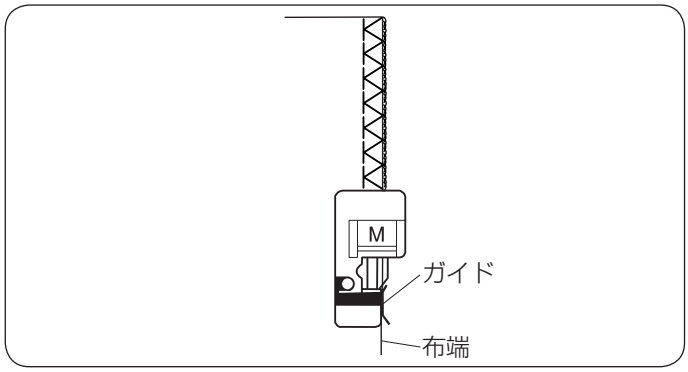
基本押さえ A を使用する場合、ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。



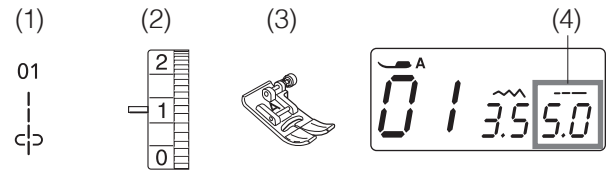
● ふちかがり 2

ミシンのセット

(1) 模様番号： 11
(2) 糸調子ダイヤル： 6 ～ 8
(3) 押さえ： ふちかがり押さえ M
※ ふちかがり押さえ M は特殊なため、画面に押さえ記号は表示されません。



リネン、ローンなどの普通の布や、布端がほつれやすい布のたち目のほつれ止めに使用します。
オーバーロックのぬい目に似ています。
布端を押さえのガイドに当ててぬいます。



● ギャザー寄せ

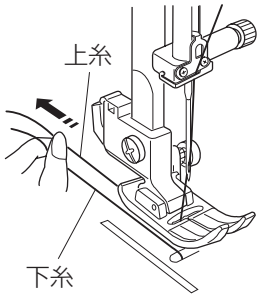
ミシンのセット

(1) 模様番号： 01
(2) 糸調子ダイヤル： 1～オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A
(4) ぬい目のあらさ： 5.0

1. 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約 10 cm 引き出しておきます。

※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、23 ページの「下糸を針板の上に引き出す場合」をごらんください。

1.

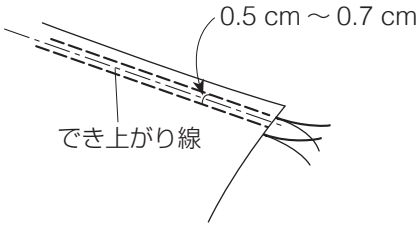


2. 糸調子を「1」、ぬい目のあらさ「4.0」～「5.0」に設定します。

図のようにでき上がり線をはさんで 0.5 cm ～ 0.7 cm の間かくで 2 本の直線を平行にしつけぬいをします。
押さえ上げをあげて、布を引き出し、上糸と下糸を約 5 cm 残して切ります。

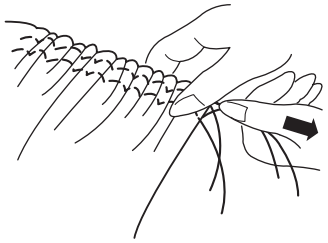
※ 糸は、糸切りボタンで切らないでください。ミシンの面板に付いている糸切りで切ってください。（27 ページ参照）

2.



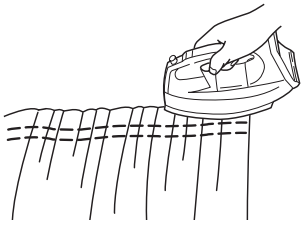
3. ぬい始めの糸を結んでから、ぬい終わりの下糸を 2 本一緒に引いて、布を縮めます。

3.



4. ぬい終わりの糸をそれぞれ結び、ギャザーを整えてからアイロンをかけます。

4.

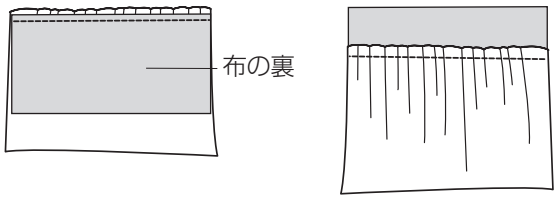


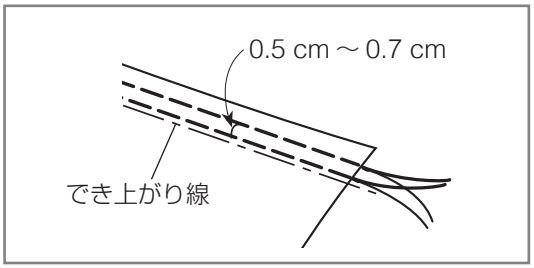
5. ギャザーを布にぬい付けます。

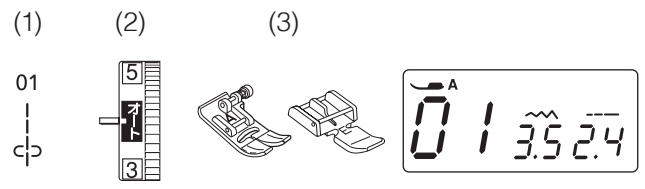
糸調子を「オート」、ぬい目のあらさを「2.4」（初期の値）にもどし、でき上がり線をぬって、しつけを取ります。

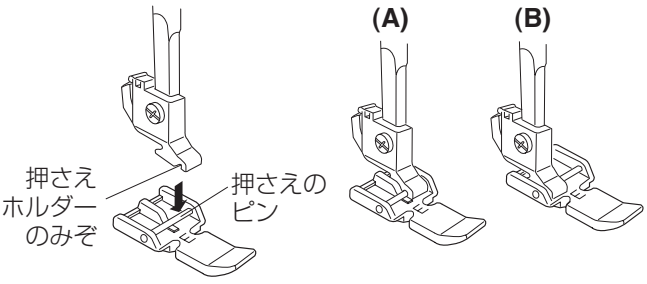
※ しつけを取ったときの針穴が気になる場合、でき上がり線の上側に 2 本しつけをして、ギャザーを寄せます。

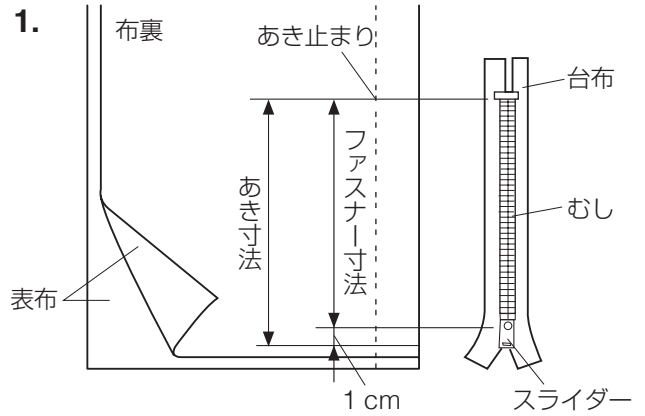
5.

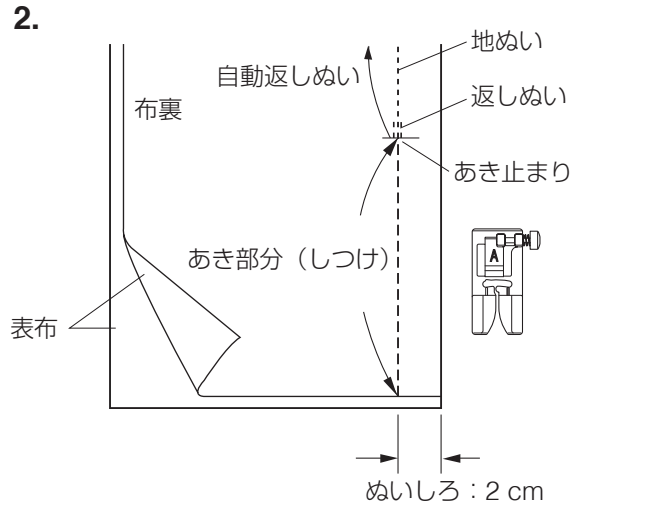












● ファスナー付け

ミシンのセット

(1) 模様番号： 01
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A
ファスナー押さえ E

【ファスナー押さえ E の付け方】

押さえホルダーのみぞとファスナー押さえ E のピンを合わせて取り付けます。

(A): ファスナーのむしの左側をぬうときは、ファスナー押さえ E の右側のピンを押さえホルダーにセットします。

(B): ファスナーのむしの右側をぬうときは、ファスナー押さえ E の左側のピンを押さえホルダーにセットします。

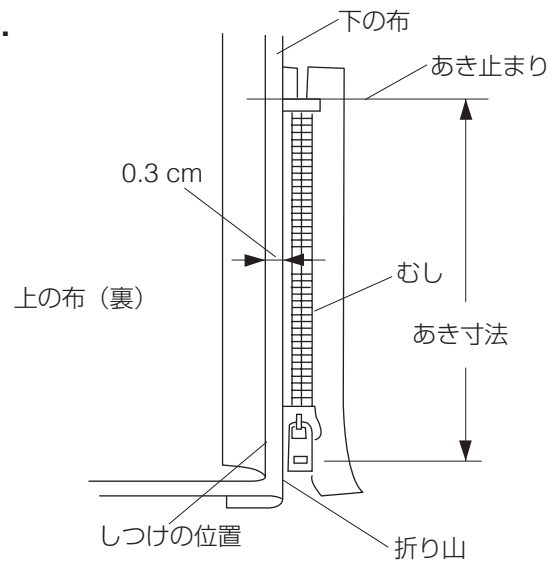
【準備】

1. ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に 1 cm プラスした寸法です。

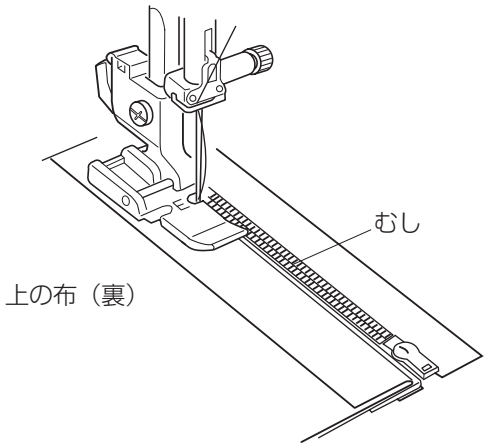
2. しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
地ぬいの部分は、基本押さえ A を使ってぬいます。
あき部分は、しつけぬいをします。

※ しつけは、ほどきやすいよう、ぬい目のあらさを「5.0」、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。
しつけが終わったら、ぬい目のあらさおよび、糸調子ダイヤルをもどします。（糸調子は「オート」）

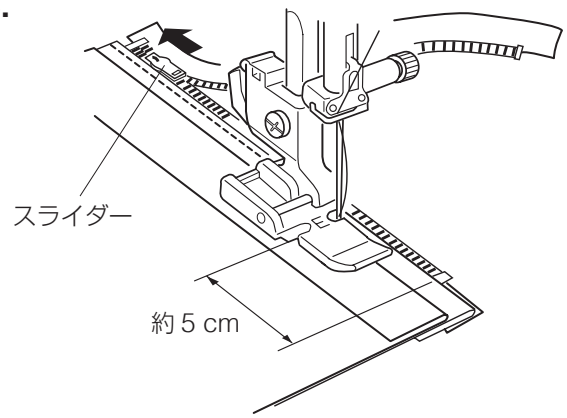
1.



2.



3.



【ぬい】

1. ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3 cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわに当てます。

2. ファスナー押さえ E の右側のピンを押さえホルダーにセットします。
むしのきわを押さえの端（右側段部）に当て、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ ぬい始めに数針、ほつれ止めの返しぬいをします。

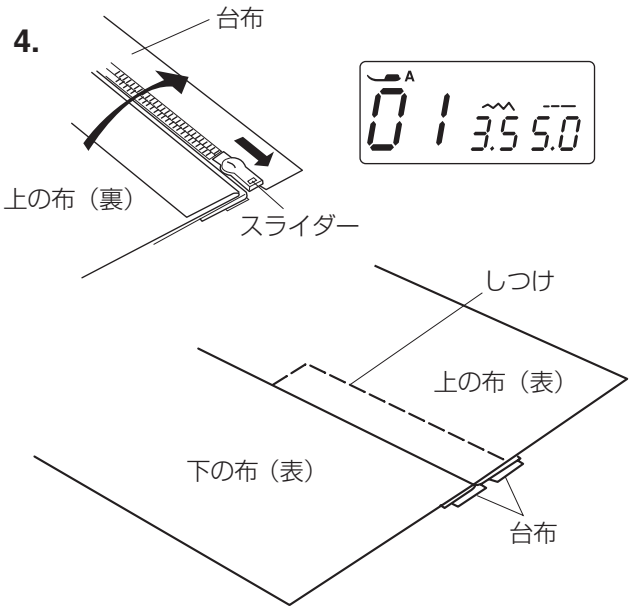
⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえに当たらないように注意してください。
針が当たると、けがの原因となります。

3. ファスナーの端から約 5 cm 手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりに数針、ほつれ止めの返しぬいをします。

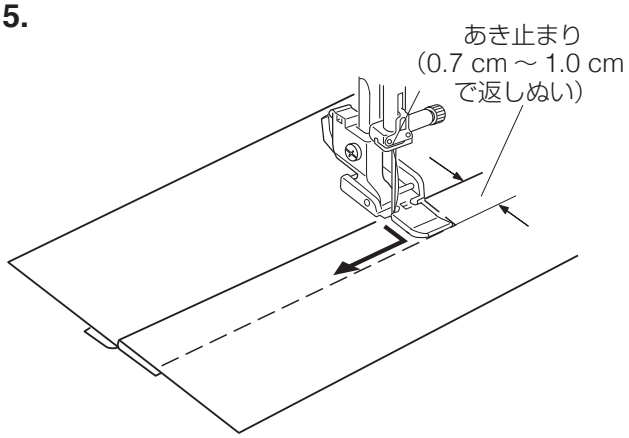
4.



4. ファスナーを閉じ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは、基本押さえ A を使用します。
しつけは、ほどきやすいよう、ぬい目のあらさを「5.0」、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。
しつけが終わったら、ぬい目のあらさおよび、糸調子ダイヤルをもどします。（糸調子は「オート」）

5.

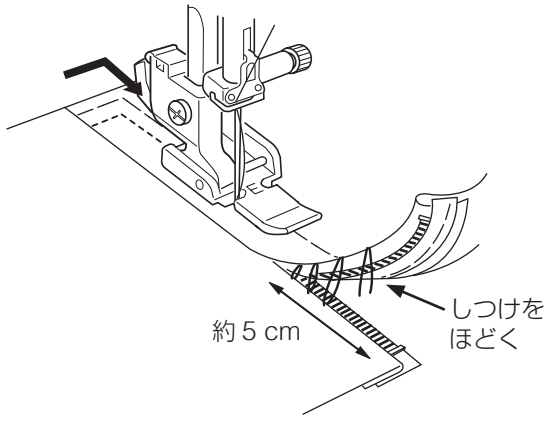


5. ファスナー押さえ E の左側のピンを押さえホルダーにセットします。

上の布のあき止まりを約 0.7 cm ～ 1.0 cm 返しぬいをしてから、むしのきわを押さえの端（左側段部）に当て、ファスナーの右側をぬいます。

> **⚠ 注意**
>
> ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえに当たらないように注意してください。
> 針が当たると、けがの原因となります。

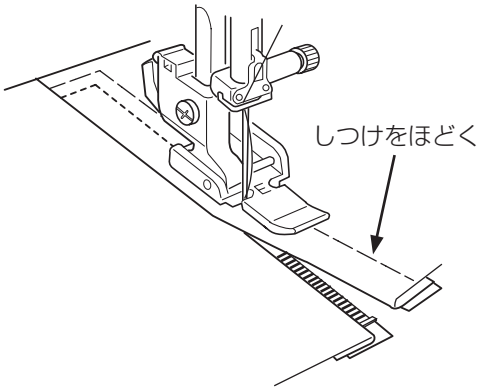
6.



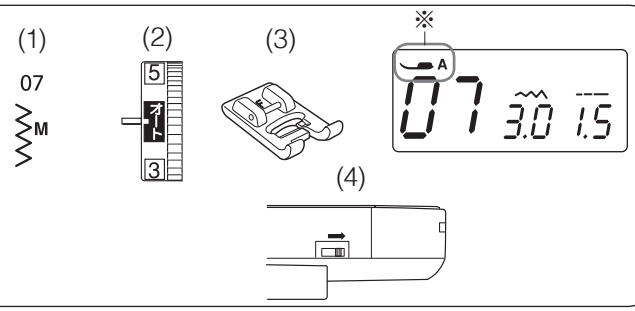
6. ファスナーの上側を約 5 cm 残したところでミシンを止めます。

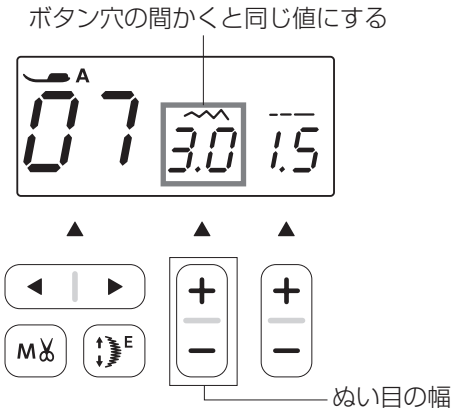
針をさした状態で、押さえ上げをあげ、36 ページの**【準備】**でぬったしつけ糸をほどき、スライダーを押さえの向こう側にずらします。

7.

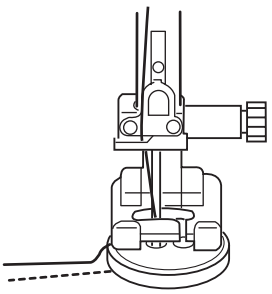


7. 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
ぬい終わったら手順 **4.** でぬったしつけ糸をほどきます。

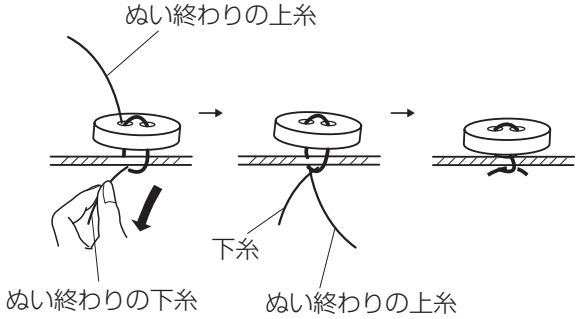




1. 2. 3.



4. 5.



● ボタン付け

ミシンのセット

(1) 模様番号： 07
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F
(4) 送り歯ドロップつまみ： さげる位置

※ 押さえの表示は、基本押さえ A になっていますが、ボタン付けのときは、サテン押さえ F を使用します。

【準備】

- 定規などで、ボタンの左右の穴の間かくをはかります。ぬい目の幅をぬい目の幅調節ボタンで、ボタンの左右の穴の間かくと同じ値に設定します。
- 送り歯をさげます。（16 ページ参照）
- スピードコントロールつまみの位置をゆっくり側にして、ぬい速度を遅くします。

※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるため、必ず模様 M を選んだ直後にぬいます。一度でも模様をぬったあとに行うと、ぬい始めに止めぬいが入りません。

1. ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。
ボタンの左右の穴が真横にくるようにボタンを置き、押さえ上げをさげます。

※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針が折れる恐れがあります。

2. はずみ車を手で手前にまわすと、左側の穴を数回ぬったあと針が右側に移動します。
針がボタンに当たらず、ボタンの右の穴に入ることを確認します。

※ はずみ車を手前にまわすと、最初に止めぬいを行うために左側の穴だけを数回ぬいます。

> **⚠ 注意**
>
> 必ず針がボタンの穴の左右におりることを確認してください。ボタンに針が当たると針が折れ、けがの原因となります。

3. ミシンをスタートし、10 針くらいぬったら止めます。

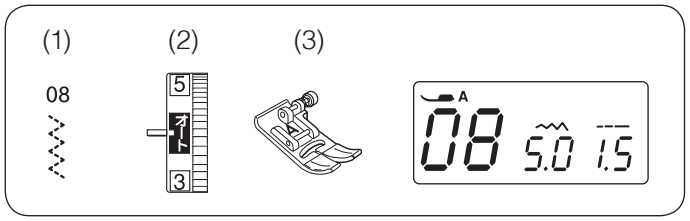
4. 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10 cm ～ 20 cm 残して切ります。

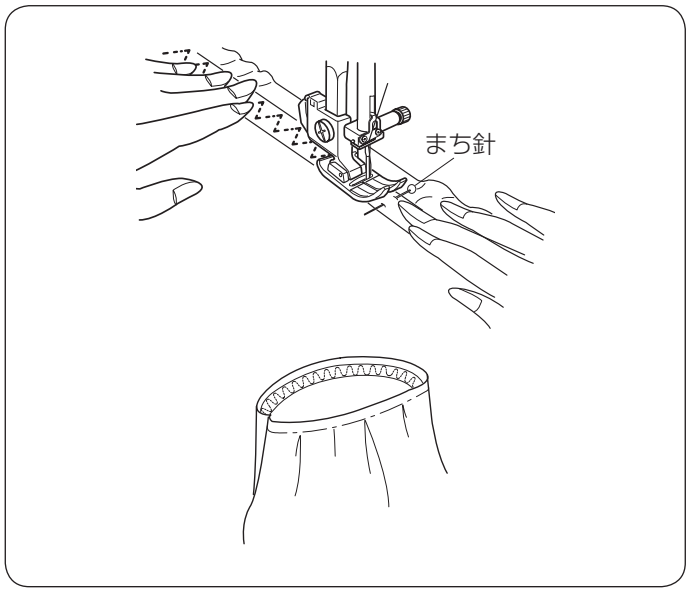
※ 糸切りボタンで切らないでください。

※ ぬい始めに止めぬいが入っているので、ぬい始めの上糸と下糸はボタンのきわではさみで切り取ります。はさみは付属には含まれていません。

5. ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。

※ ぬい終わったら送り歯ドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。





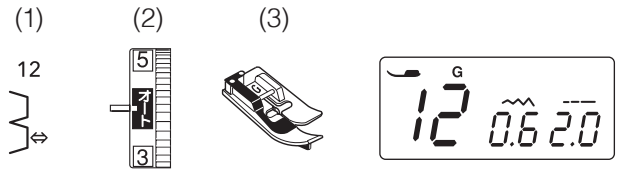
● ゴムひも付け

ミシンのセット

(1) 模様番号： 08
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A

ゴムひもを、布の裏側にまち針で止めます。
ゴムひもは、伸ばした状態で等間かくに数カ所まち針で止めます。
ゴムひもを布と同じ長さに両手で伸ばしながら、ゴムひもの上をぬいます。

まち針の手前をぬう直前で一度ミシンを止め、まち針を抜いてから再びぬいます。



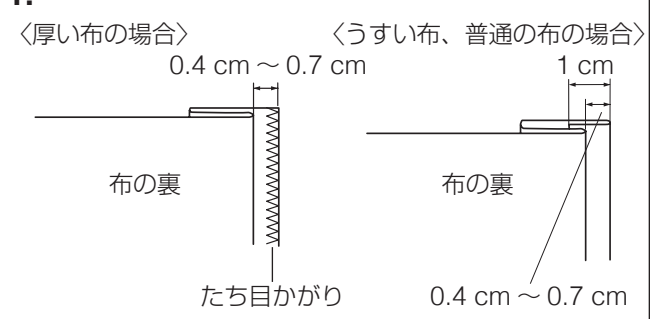
● まつりぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号： 12
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： まつりぬい押さえ G

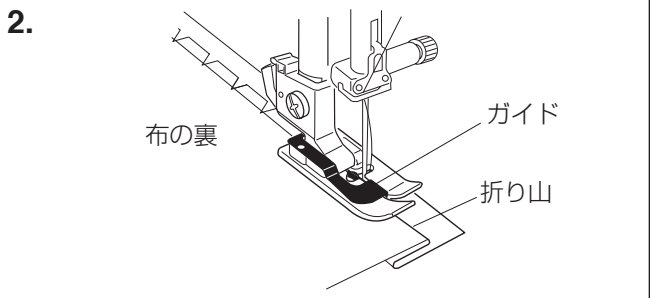
スカートやワンピースなどのすそのまつりができます。

※ 生地と同じ色の糸を使用してください。



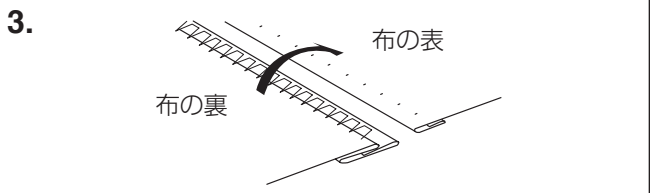
1. 図のように布を折ります。

※ ほつれやすい厚い生地は、たち目かがりで布端を処理してください。

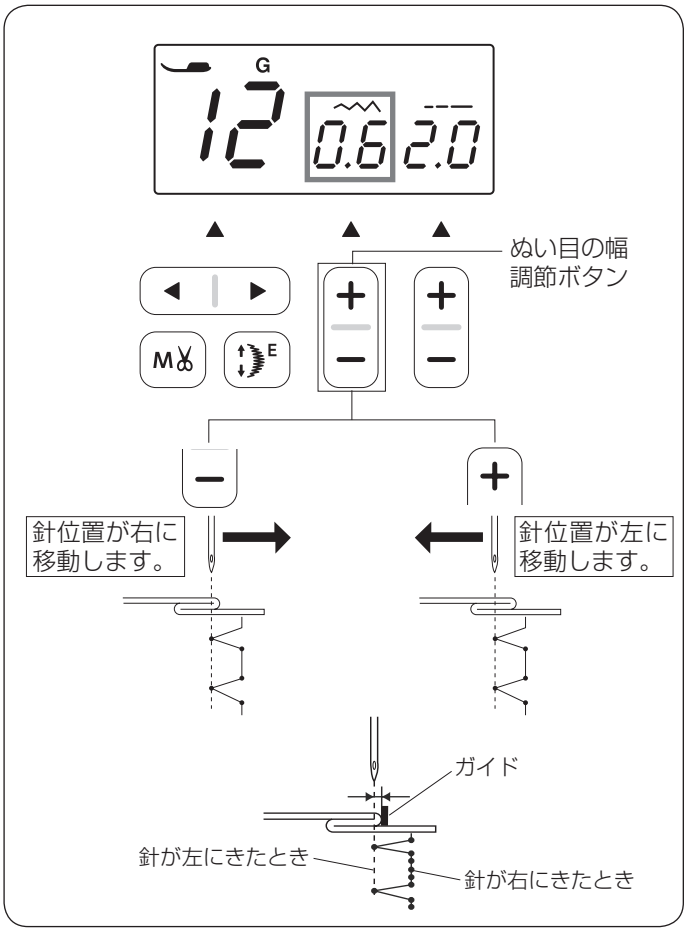


2. 折り山を押さえのガイドに合わせてぬいます。

※ 針が折り山から外れないように、また必要以上に針が折り山にかかりすぎないように、針位置を調節します。（下記**【針位置の調節】**参照）



3. ぬい終わったら布を広げます。



【針位置の調節】

針位置は、ぬい目の幅調節ボタンで下記のように調節します。

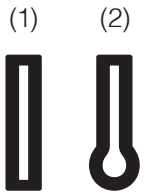
初期の状態は「0.6」です。

0.0 ～ 1.2 の範囲で調節できます。

※ 表示画面の「0.6」は、押さえのガイドから左針位置（折り山側の針位置）までの距離の目安です。
（単位：ミリメートル）

※ ぬい目の幅は変化せず模様（針位置）が左右に移動します。

- 針が折り山にかからない場合、「＋」を押して針位置を左に移動させます。
- 針が折り山にかかりすぎる場合、「－」を押して針位置を右に移動させます。



● ボタンホール

★ ボタンホールの種類

(1) スクエアボタンホール（両止め）

普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。

(2) キーホールボタンホール（鳩目穴）

普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。

大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

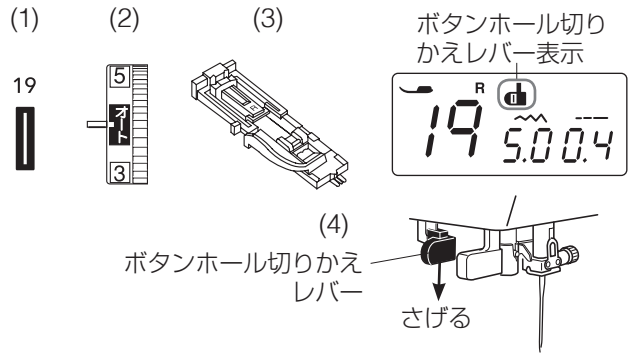
※ ボタンホール押さえ R にボタンをセットするだけで、最適な長さのボタンホールをぬうことができます。ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえ R のボタン受け台にはさみ込むと自動的に決まります。

※ ボタンの直径が 1.0 cm ～ 2.5 cm までのボタンホールができます。

※ ボタンホールが完成すると、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。ミシン停止時の針位置設定が、「下位置停止」になっていても、針は上の位置で止まります。

ボタンホールの注意事項

- 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。
- 使用する布の切れ端などで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
- ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク（しるし）を付けてください。

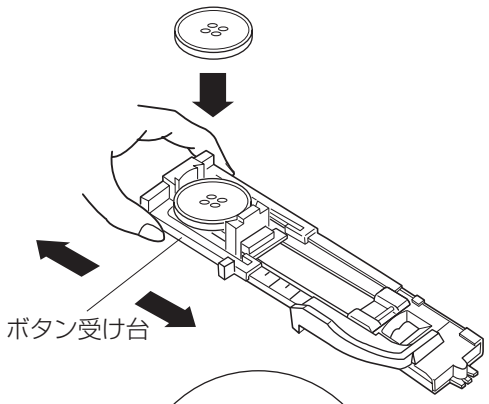


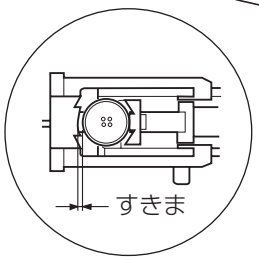
● スクエアボタンホールのぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号： 19
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： ボタンホール押さえ R
(4) ボタンホール切りかえレバーをさげる

1.

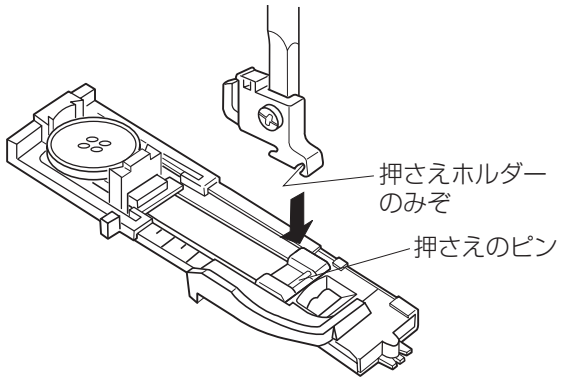




1. ボタン受け台をうしろに引き、ボタンをのせます。
ボタン受け台をもどし、ボタンをはさみます。

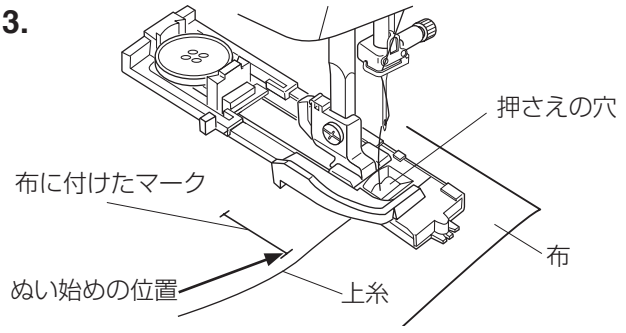
※ ボタンホールの幅は、一般的なボタンの種類に合わせてあります。
厚いボタンなどは、布の余分な部分に試しぬいをしてください。
試しぬいをしてみて、ボタンがボタンホールに入りにくい場合、ボタン受け台を少しうしろに引き、ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

2.



2. 上下停針ボタンで針をあげた状態にします。
押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえ R を取り付けます。

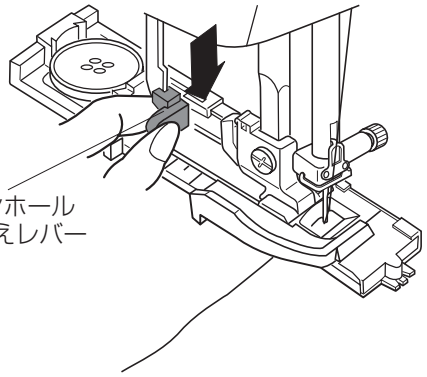
3.

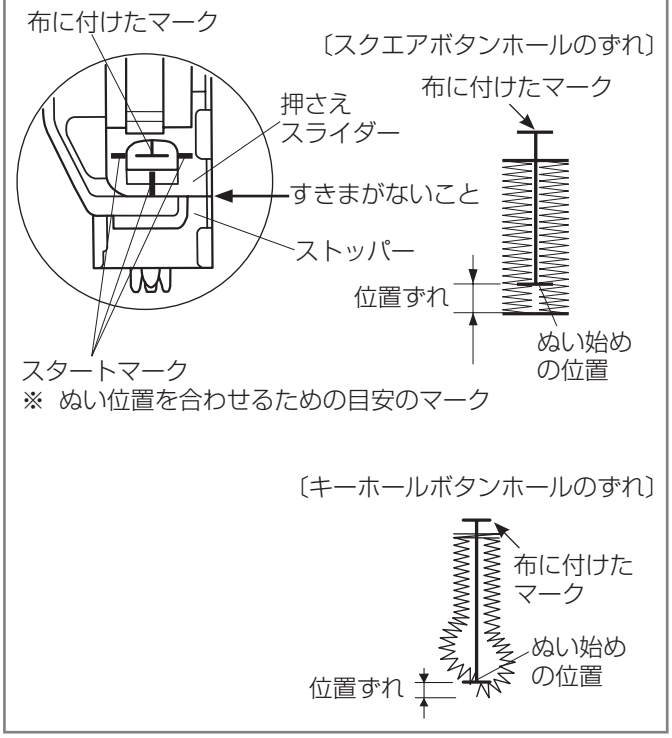


3. 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出します。
布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

4. ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

4.



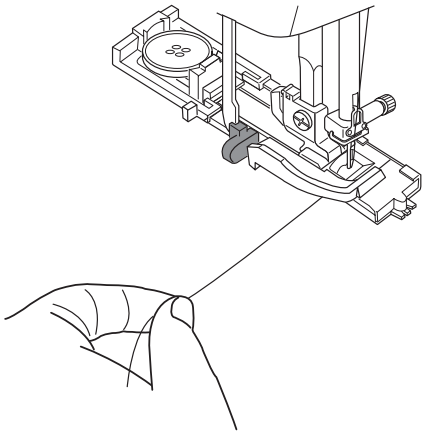


ぬい始める前の確認

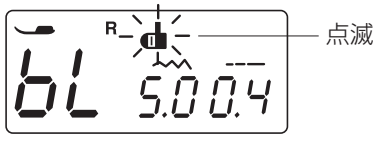
ぬい始めに、押さえスライダーとストッパーのあいだにすきまがないことを確認します。
すきまがあると、ぬい始めの位置と、ぬい終わりの位置がずれることがあります。

5. 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。ぬい始めから数針ぬったあと、糸から手をはなします。

5.



※ 模様番号が bL と表示され（2 秒～ 3 秒間）、ブザーが鳴ると同時にボタンホール切りかえレバー表示が点滅した場合：
ボタンホール切りかえレバーをさげないで、ボタンホールを 0.5 cm ぬったときに表示されます。
ボタンホール切りかえレバーをさげ、ミシンを再スタートします。



6. ボタンホールは下記の順番でぬいます。

[1] 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。
[2] 下ぬいをし、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。
[3] かんぬき止めぬいを行って、ミシンは自動的に止まります。

※ ボタンホールの重ねぬいをする場合、そのままミシンをスタートさせぬいます。

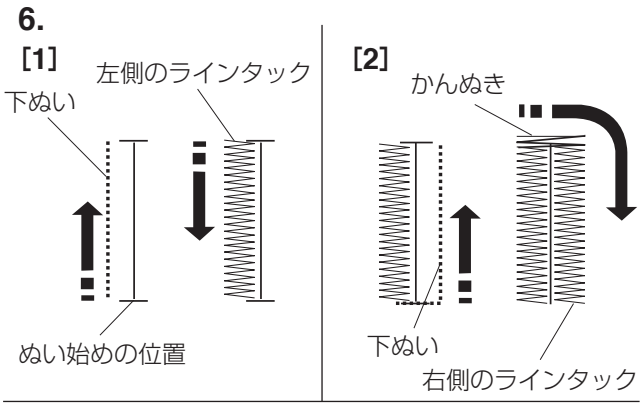
ボタンホール重ねぬい

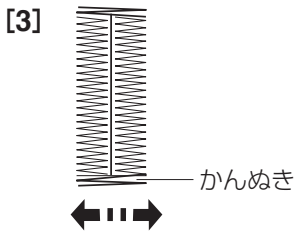
ボリューム感のあるボタンホールができます。
一度目のボタンホールをぬい終わったら押さえ上げをさげたまま、ミシンをスタートさせます。
自動的に重ねぬいをします。

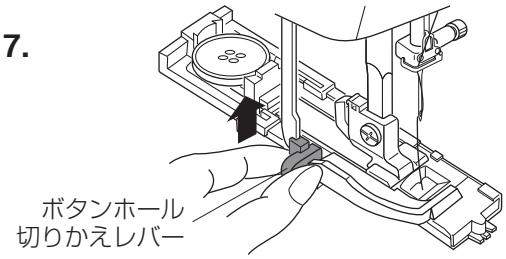
※ ボタンホールの重ねぬいで送りがつまるときは、ぬい目のあらさを大きくしてぬってください。

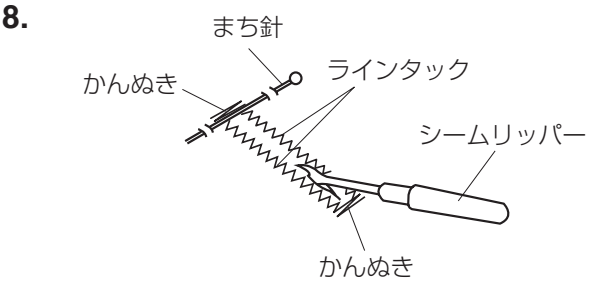
7. ぬい終わったら、ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげてもどします。

8. かんぬきの内側にまち針をわたし、シームリッパーで左右のラインタックの糸を切らないよう、ボタン穴を開けます。







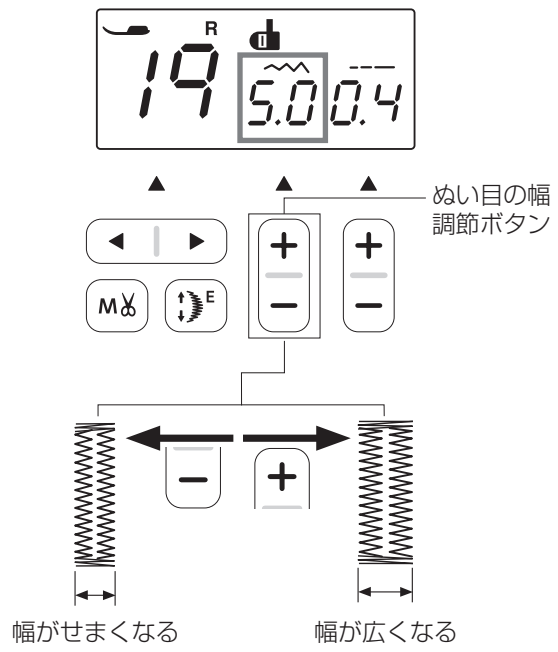


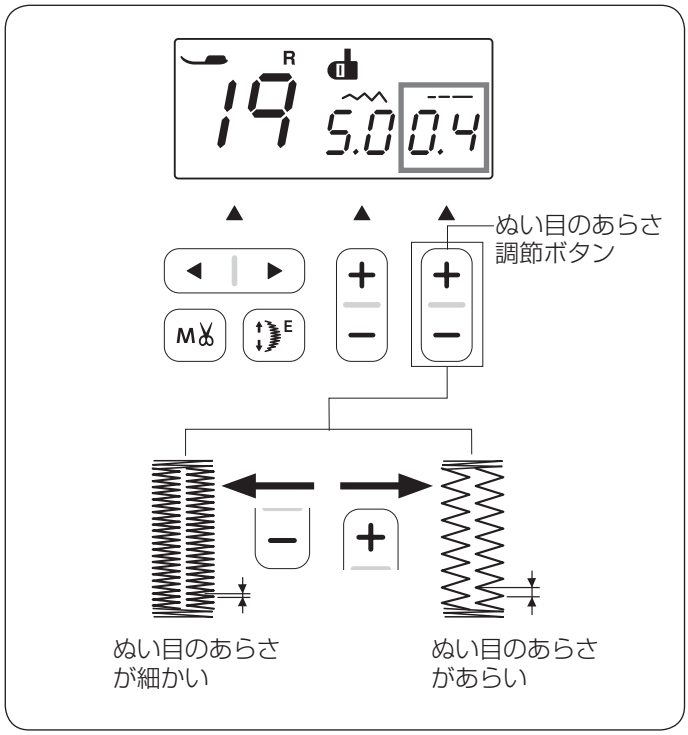
★ ぬい目の幅（ボタンホールの幅）をかえる

ぬい目の幅調節ボタンで、ボタンホール全体の幅をかえることができます。
初期値（購入時のセット状態）は 5.0 です。

- 「＋」を押すとボタンホール全体の幅が広くなります。
- 「－」を押すとボタンホール全体の幅がせまくなります。

※ 2.5 ～ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。





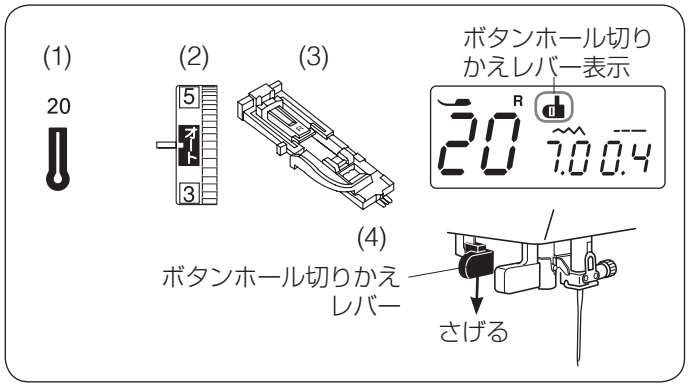
★ ぬい目のあらさをかえる

ぬい目のあらさ調節ボタンで、ボタンホールのぬい目のあらさをかえることができます。

初期値（購入時のセット状態）は 0.4 です。

- 「＋」を押すとボタンホールのぬい目があらくなります。
- 「－」を押すとボタンホールのぬい目が細かくなります。

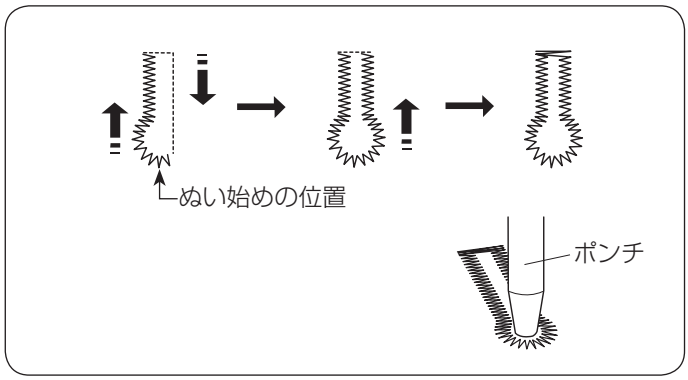
※ 0.2 ～ 0.8 の範囲で 0.1 ずつかえることができます。



● キーホールボタンホールのぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号： 20
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： ボタンホール押さえ R
(4) ボタンホール切りかえレバーをさげる



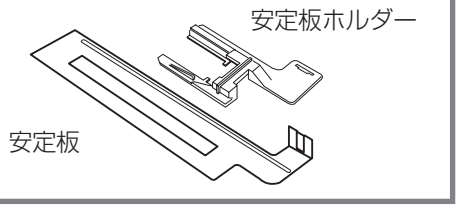
ぬい方はスクエアボタンホールと同じです。
（43 ～ 46 ページ参照）

※ ぬい目の幅は 5.5 ～ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。

※ ぬい目のあらさは、0.3 ～ 0.8 の範囲で 0.1 ずつかえることができます。

※ キーホールボタンホールは、市販のポンチで穴を開けてからシームリッパーで切り開きます。

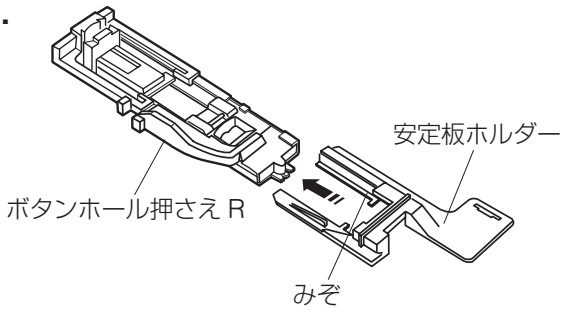
〔ボタンホール安定板セット〕



● ボタンホール安定板セットを使用する場合

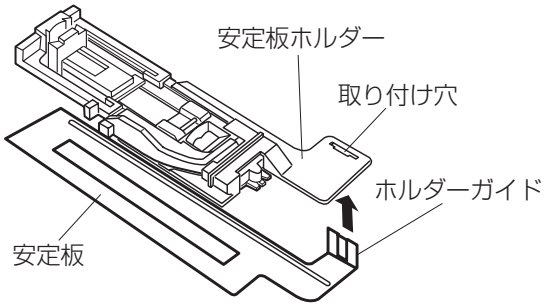
厚い布の段差部分や、安定して布送りできない布などをぬう場合、ボタンホール安定板セット（安定板ホルダー、安定板）を使用すると、布をスムーズに送りぬうことができます。

1.



1. ボタンホール押さえ R の手前から安定板ホルダーを、みぞにそわせながら差し込みます。

2.



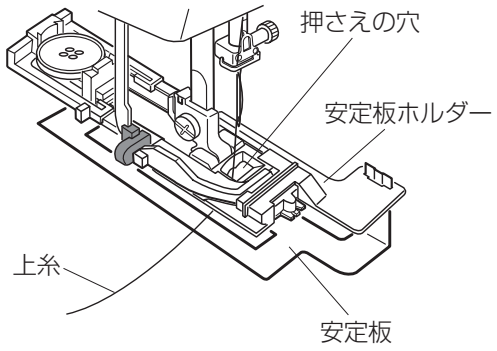
2. 安定板ホルダーの取り付け穴に、安定板のホルダーガイド部分を差し込みます。

3. ボタンホール安定板セットを組み付けたボタンホール押さえ R をミシンに取り付けます。

4. 押さえ上げをあげ、上糸を押さえの穴から下に通し、安定板ホルダーと安定板のあいだから横に引き出します。

※ 上糸を安定板ホルダーと安定板のあいだから引き出す場合、下記の方法で行うと簡単に引き出せます。

3. 4.

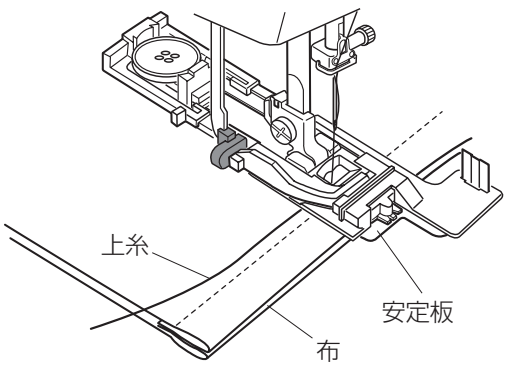


上糸の引き出し方

安定板ホルダーと安定板のあいだに布を入れ、上糸の端を横にして指で押さえながらはずみ車を手で手前に 1 回転まわして針を上にあげます。
布を横に取り出すと、1 針ぬった上糸が安定板ホルダーと安定板のあいだに引き出されます。

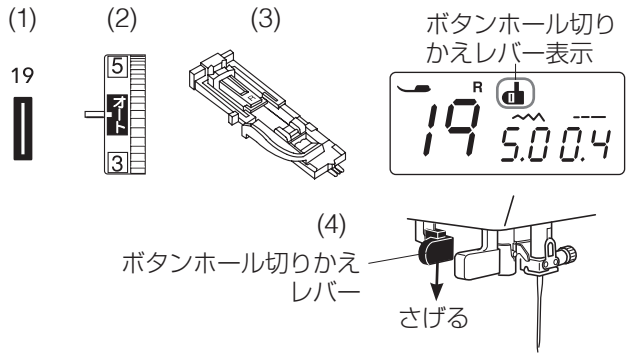
※ 上記方法で糸を引き出した場合、ぬう前にもう一度ボタンホール模様を選び直します。

5.



5. 上糸を横に引き出した状態で、安定板の上に布を入れます。

※ ぬい方はスクエアボタンホールと同じです。
（43 ～ 46 ページ参照）

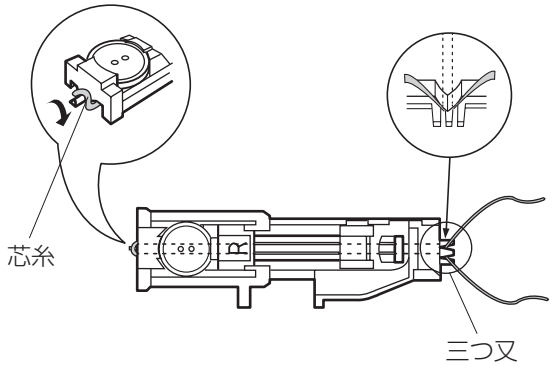


● 芯入りスクエアボタンホールのぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号： 19
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： ボタンホール押さえ R
(4) ボタンホール切りかえレバーをさげる

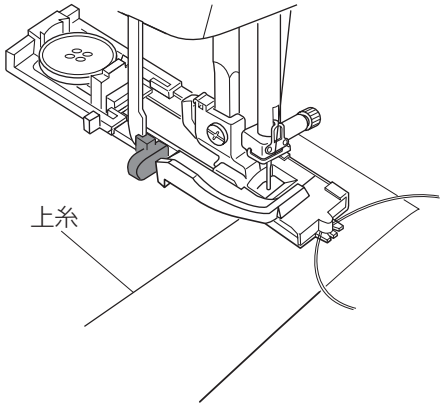
1.



1. 芯糸の中央部を押さえのうしろ側にあるつのにかけます。
押さえの下から手前に平行になるように芯糸を引き出し、前側の三つ又にはさみます。

※ ぬい目の幅は、芯糸の太さに合わせてセットします。
芯糸は、たるみのないように強く張ってください。

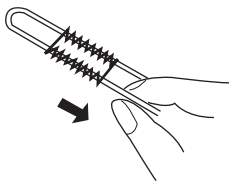
2.

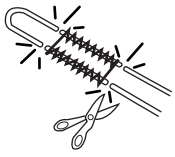


2. ミシンをスタートさせぬいます。

※ ぬい方はスクエアボタンホールと同じです。
（43 ～ 46 ページ参照）

3.

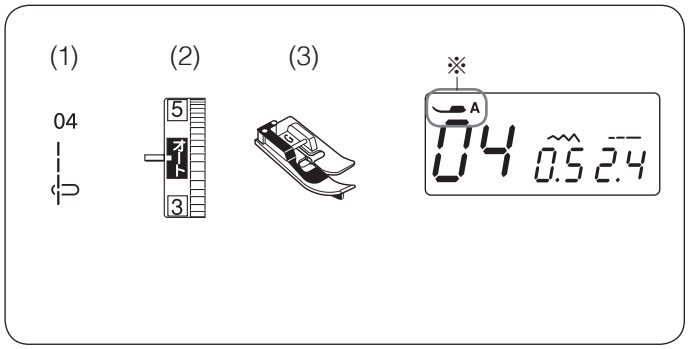




3. 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な糸を切ります。

※ 穴の開け方は、45 ページをごらんください。

※ 左側の芯糸が引けない場合は、前後の芯糸を切ります。



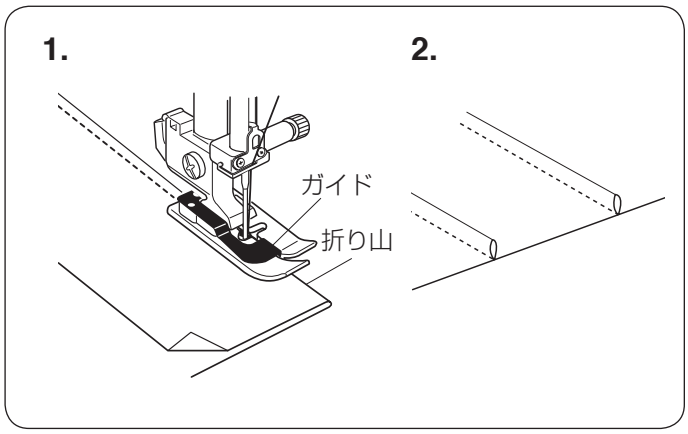
◎ 飾りぬい

● ピンタック

ミシンのセット

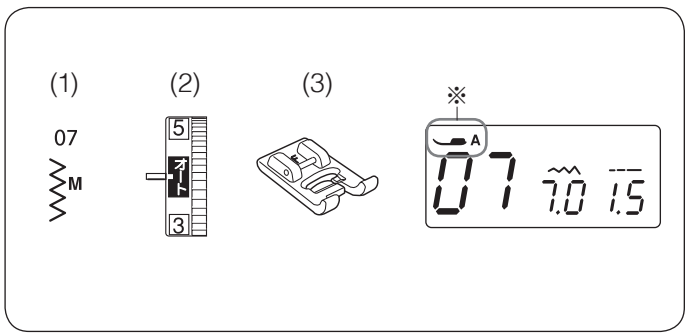
(1) 模様番号： 04
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： まつりぬい押さえ G

※ 押さえの表示は、基本押さえ A になっていますが、ピンタックは、まつりぬい押さえ G を使用します。



1. 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

2. ぬい終わったら片返しにして、アイロンで整えます。

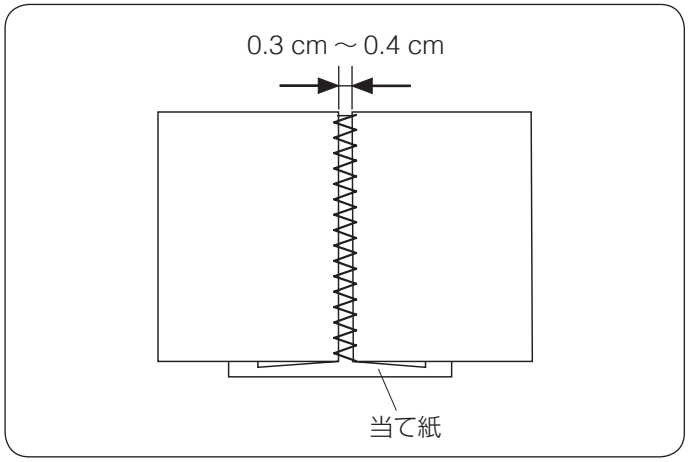


● ファゴティング

ミシンのセット

(1) 模様番号： 07
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F

※ 押さえの表示は基本押さえ A になっていますが、ファゴティングは、下の布が見えやすいサテン押さえ F を使用します。



2 枚の布のすきまをあけて、つなぎ合わせることができます。

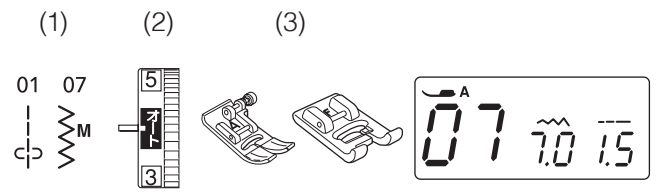
布の端を約 1.5 cm 裏側に折り、アイロンをかけます。

布端と布端の間かくを 0.3 cm ～ 0.4 cm あけて、下に当て紙をします。

布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。

当て紙を取ります。

※ 模様の右に書かれている「M」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。（32 ページ「ぬい目の幅の基準位置」参照）



● パッチワーク

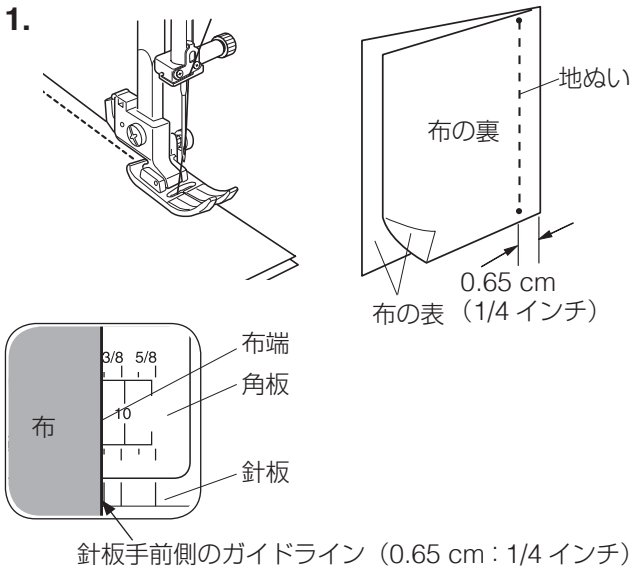
ミシンのセット

(1) 模様番号： 01、07
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： 基本押さえ A、サテン押さえ F

※ そのほか、模様 08 が使えます。

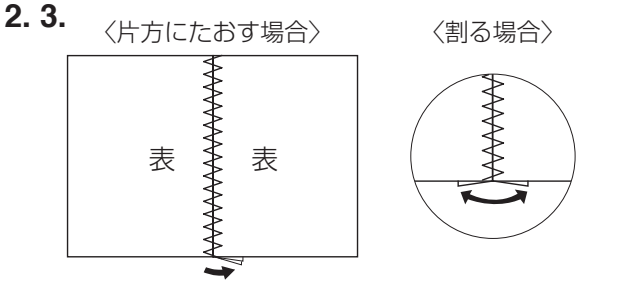
1. 布を中表に合わせ、基本押さえ A で地ぬいをします。

※ 地ぬいは、布端を針板の手前側ガイドライン 0.65 cm（1/4 インチ）に合わせてぬいます。



2. ぬいしろを割るか、片方にたおします。

3. サテン押さえ F を付け、布の表から地ぬいの線を中心にして模様 07 M をぬいます。



※ 押さえの表示は基本押さえ A になっていますが、パッチワークは、地ぬいの線が見えやすいサテン押さえ F を使用します。

※ 模様の右に書かれている「M」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。（32 ページ「ぬい目の幅の基準位置」参照）

★ 角度目盛り

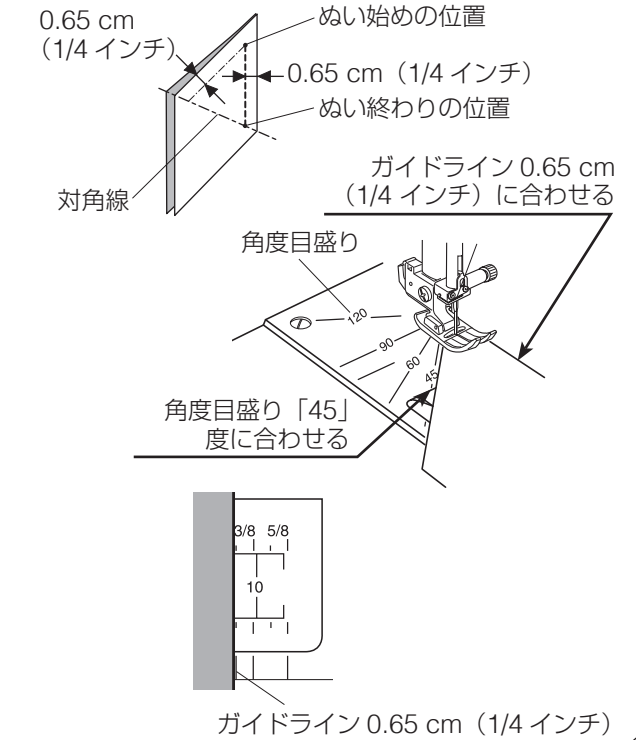
角度目盛りは、パッチワークのピース作りに使うと便利です。
パッチワーク布（ピース）の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしでぬいしろ 0.65 cm（1/4 インチ）のぬい始めの位置を決めることができます。

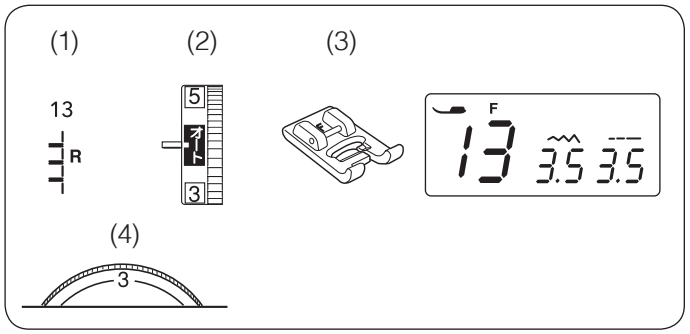
例：レモンスター

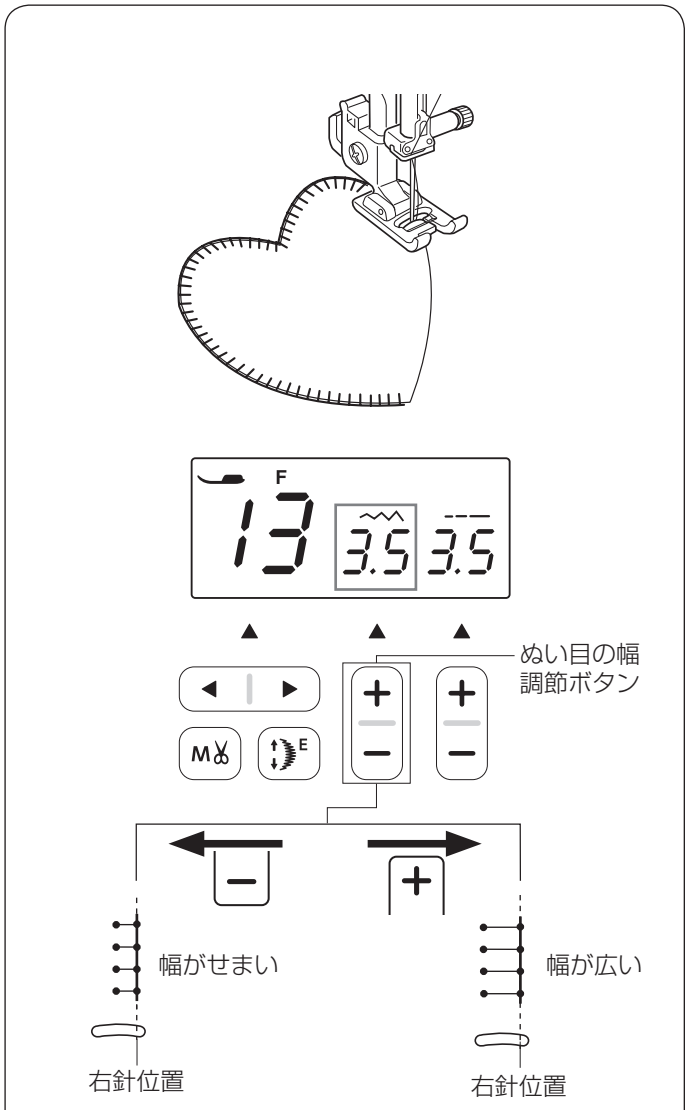
1. ピースの対角線に折り目を付けます。

2. ぬい始めは、布端をガイドライン 0.65 cm（1/4 インチ）および角度目盛り「45」度に合わせて布を置きます。

3. ぬい終わりは、対角線までぬいます。







● アップリケ

ミシンのセット

(1) 模様番号： 13
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F
(4) 押さえ圧調節ダイヤル： 1 ～ 3（15 ページ参照）

※ そのほか、模様 07 M が使えます。

アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。

模様の針位置が右側のときに、アップリケ布のふちの外側に針がささるようにぬいます。

※ カーブのところや方向転換するところでは、アップリケ布の外側に針がささった状態で、ミシンを止めます。針を布にさしたまま押さえ上げをあげ、方向をかえるときれいに仕上がります。

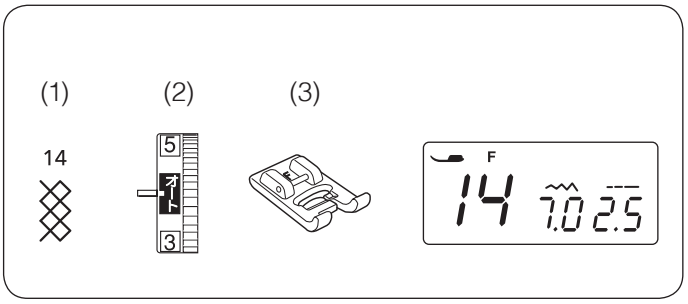
【ぬい目の幅をかえるとき】

ぬい目の幅は、ぬい目の幅調節ボタンで調節します。

初期値（購入時のセット状態）は 3.5 です。

- ぬい目の幅調節ボタンの「＋」を押すと、値が大きくなり、右針位置を基準（固定）に左に幅が広くなります。
- ぬい目の幅調節ボタンの「－」を押すと、値が小さくなり、右針位置を基準（固定）に左に幅がせまくなります。

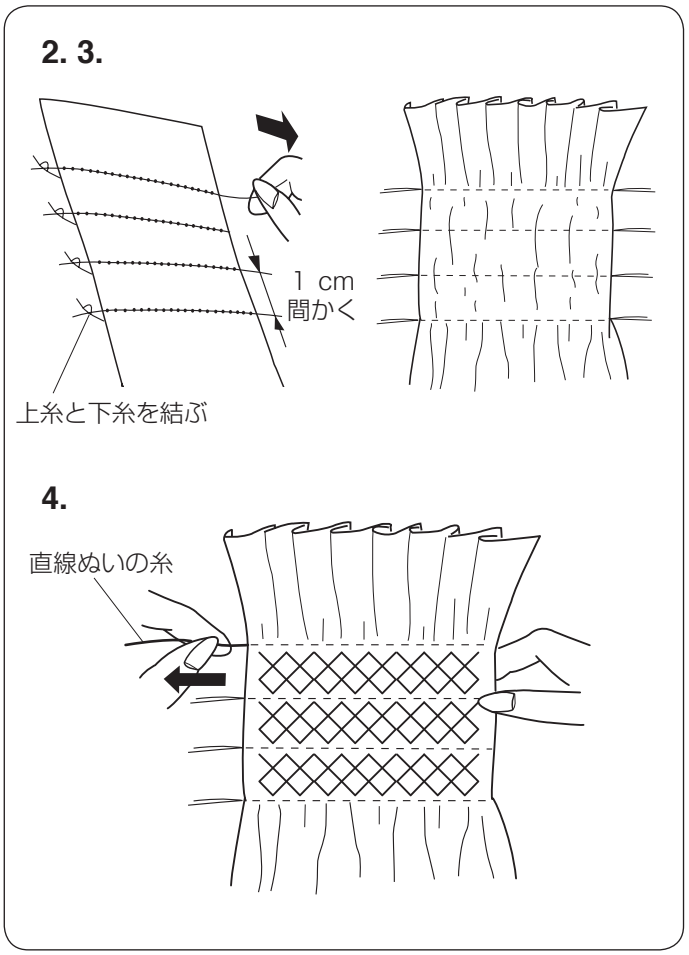
※ 模様 13 R の右に書かれている「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。（32 ページ「ぬい目の幅の基準位置」参照）



● スモッキング

ミシンのセット

(1) 模様番号： 14
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F



スモッキングは子供服やブラウスなどに使用するぬい方です。
やわらかく、うすい生地の布を使用します。
完成する幅よりも約 3 倍広くとった布を用意します。

1. 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約 10 cm 引き出しておきます。

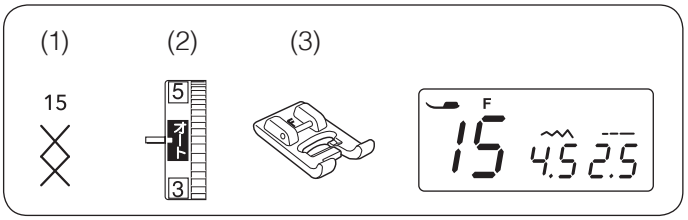
※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、23 ページの「下糸を針板の上に引き出す場合」をごらんください。

※ 糸は、糸切りボタンで切らないでください。
ミシンの面板に付いている糸切りで切ります。
（27 ページ参照）

2. 糸調子を「1」にし、ぬい目のあらさ「5.0」の直線を 1 cm 間かくで数本平行にぬいます。

3. 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

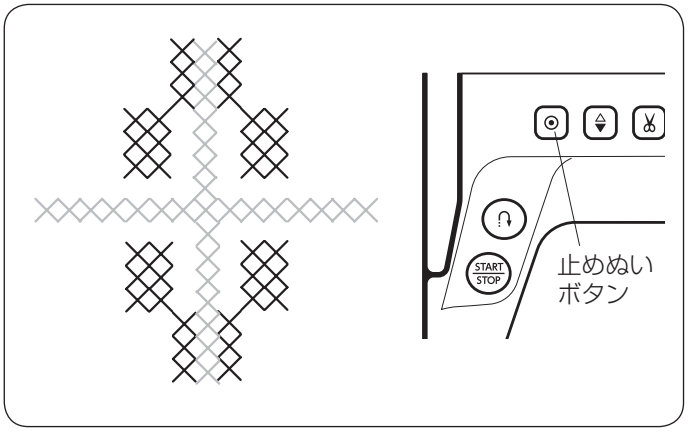
4. 糸調子を「オート」、ぬい目のあらさを「2.5」（初期の値）にもどします。
模様を選んで直線ぬいと直線ぬいのあいだに模様をぬいます。
模様をぬったあと、直線ぬいの糸を抜き取ります。



● クロスステッチ

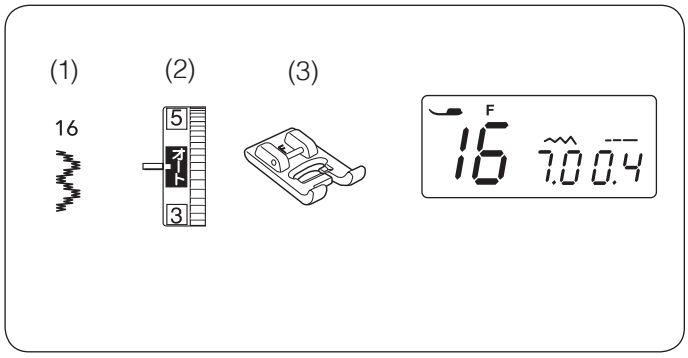
ミシンのセット

(1) 模様番号： 15
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F



刺しゅうによく使われるクロスステッチができます。
図案の中心から外側にぬいます。

※ ぬう前に止めぬいボタンを押すと、クロスステッチ模様を 1 つだけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいをして自動的にミシンが止まります。

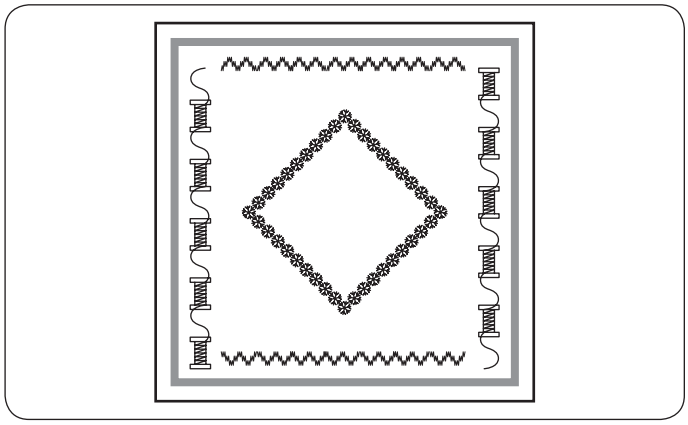


● 飾りぬい

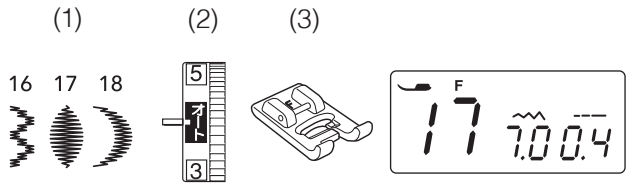
ミシンのセット

(1) 模様番号： 16
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F

※ そのほか、模様 17 23 24 25 などが使えます。



テーブルクロスなどの飾りぬいとして使用します。
布が前後してぬわれます。
ぬい目が曲がらないよう、布をガイドしてぬってください。



● 密着模様ぬい（サテンステッチ）

ミシンのセット

(1) 模様番号： 17
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F

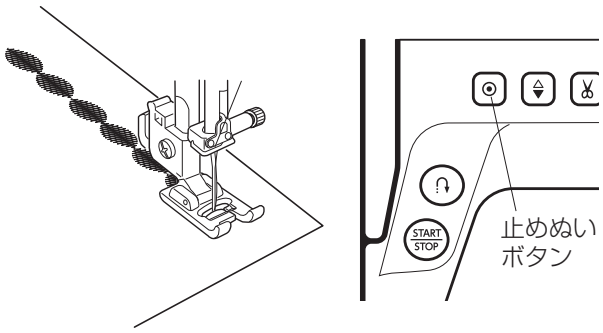
※ そのほか、模様 16 18 が使えます。

密着模様は、ぬい目のあらさが細かい飾り模様です。

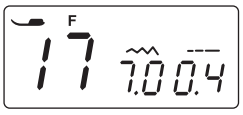
ぬい目のあらさ調節ボタンで、あらさを細かくすると、ぬい目がつまって布を送らなくなることがあります。

必ず試しぬいをして布送りの確認をしてください。

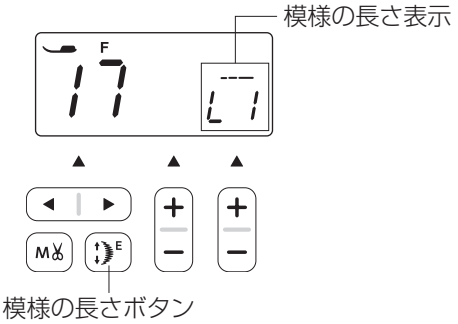
※ ぬい途中に、ぬい終わりの位置付近で止めぬいボタンを押すと、模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいをして自動的にミシンが止まります。
※ 布が縮む場合、裏に芯地を貼ってください。



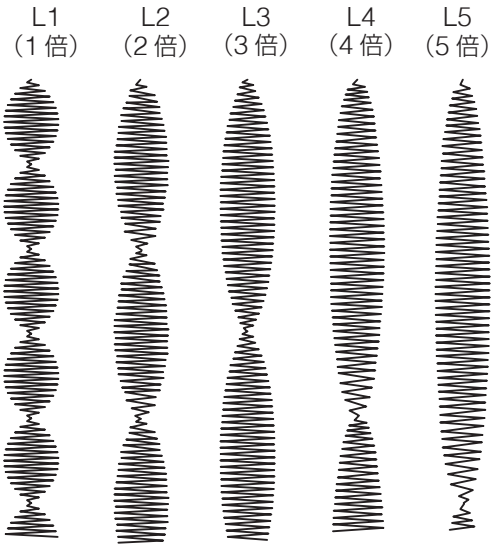
1.



2.



倍率と模様の長さ



★ 模様の長さ調節機能（エロンゲーション）

模様 16 17 18 は、ほかの模様と異なり、ぬい目のあらさをかえずに模様の長さを 2 ～ 5 倍にかえることができます。

【模様の長さの調節】（模様 17 の例）

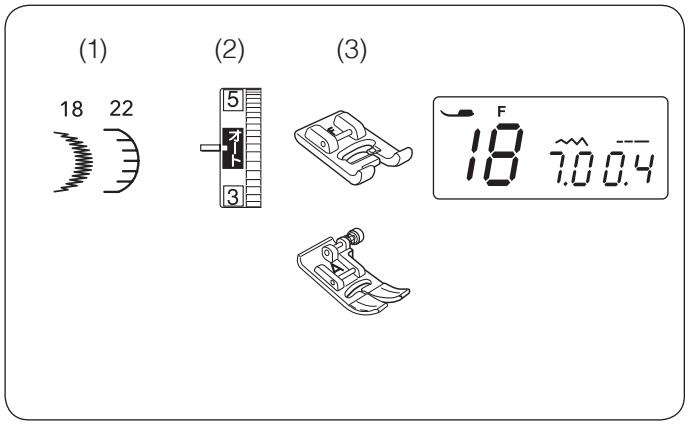
1. 模様を選びます。

2. 模様の長さボタンを押して、ぬいたい模様の長さを選びます。
ボタンを押すごとに、模様の長さ表示が「L1」（1 倍）、「L2」（2 倍）、「L3」（3 倍）、「L4」（4 倍）、「L5」（5 倍）とかわり、「L1」にもどります。

※ ぬい目の幅、ぬい目のあらさをかえると模様はさらに変化します。

3. ミシンをスタートさせてぬいます。

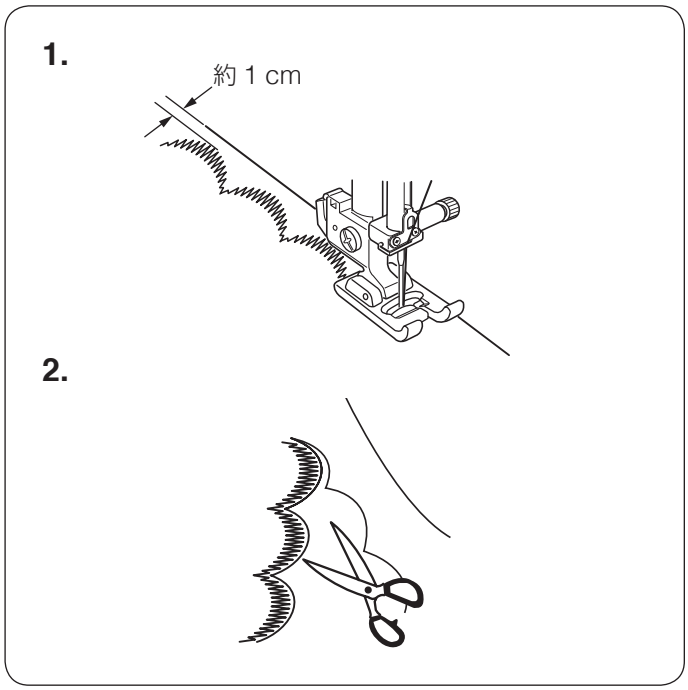
※ ぬい途中に止めぬいボタンを押すと、模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいをして自動的にミシンが止まります。



● スカラップ

ミシンのセット

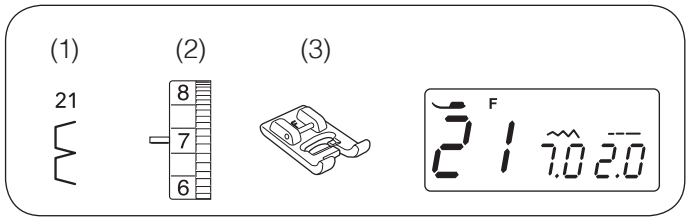
(1) 模様番号： 18
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F（模様 18）
基本押さえ A（模様 22）



1. 布の表から、布端を約 1 cm 残してぬいます。

※ 最後の模様をぬっている途中に止めぬいボタンを押すと、その模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

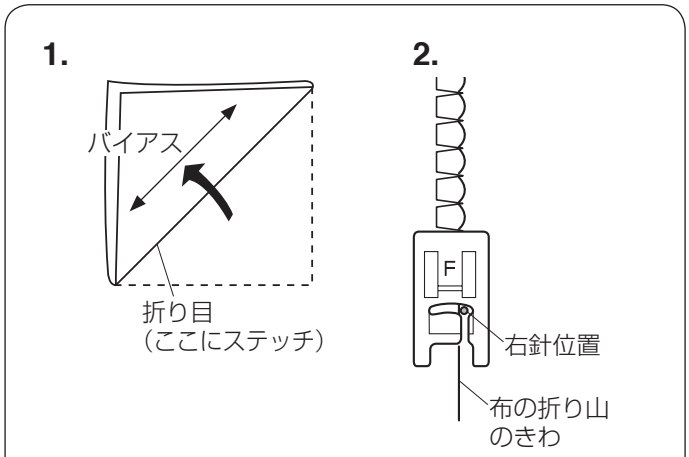
2. 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。



● シェルタック

ミシンのセット

(1) 模様番号： 21
(2) 糸調子ダイヤル： 6 ～ 8
(3) 押さえ： サテン押さえ F



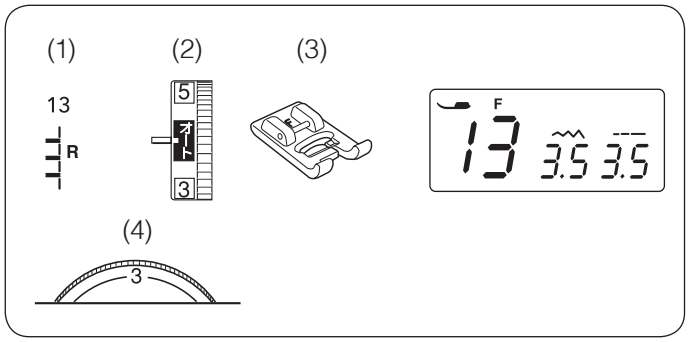
トリコットなど、うすい布に使用します。
図のように布を折り、折り目にステッチします。

1. 布をバイヤスに 2 つ折りにします。

2. 右側の針位置が布の折り山のきわ（外側）になるようにぬいます。
布をひらき、アイロンで山を片側にたおします。

※ 試しぬいをして、シェルタックの山がきれいになるよう糸調子を調節します。

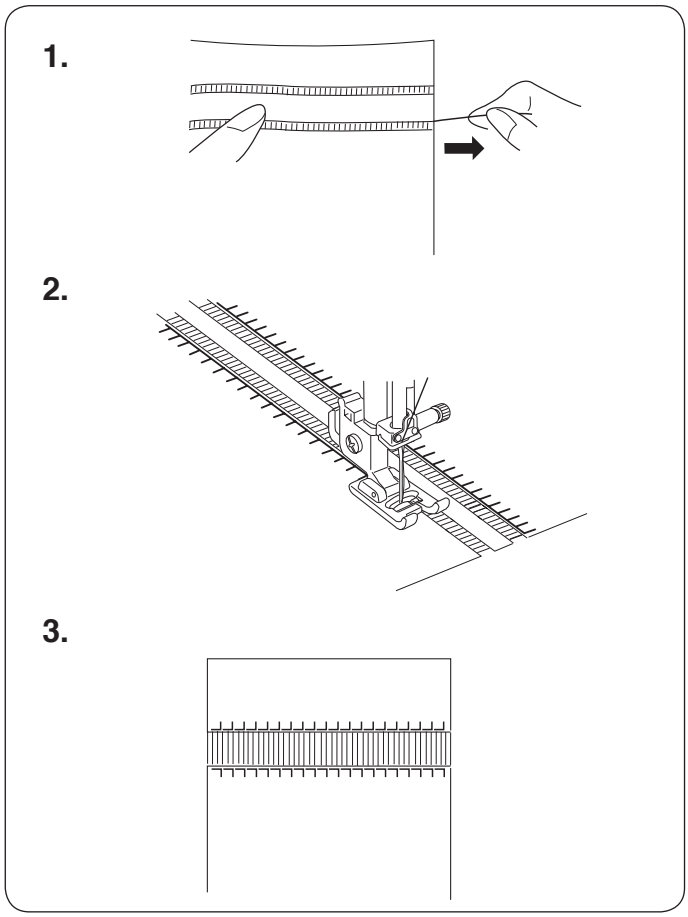
※ シェルタックをいくつか並べてぬう場合、最低 1.5 cm あいだをあけてください。



● ドロンワーク

ミシンのセット

(1) 模様番号： 13
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F
(4) 押さえ圧調節ダイヤル： 3 ～ 4（15 ページ参照）



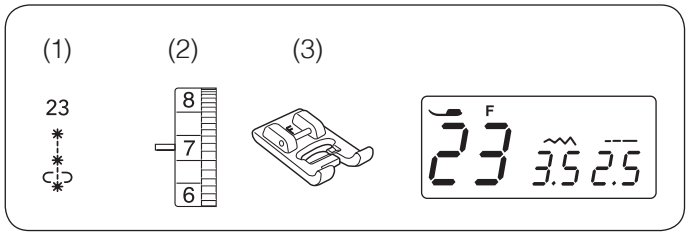
織り糸を簡単に抜くことができるリネンのようなしっかりした織物を使用してください。

1. ドロンワークする部分の両わきの織り糸を 1 ～ 2 本抜き取ります。

2. 織り糸を抜いた両わきをぬいます。

3. ドロンワークにする部分の織り糸を全部抜き取ります。

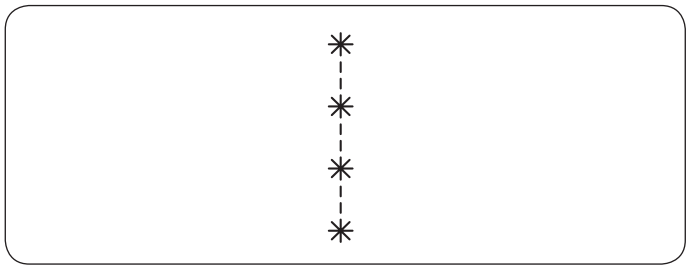
※ 模様の右に書かれている「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。（32 ページ「ぬい目の幅の基準位置」参照）



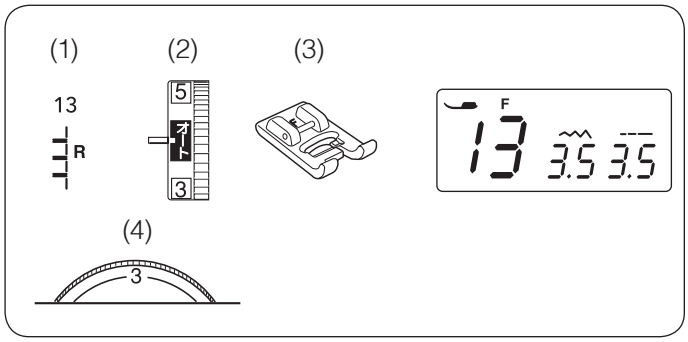
● キャンドルウィック

ミシンのセット

(1) 模様番号： 23
(2) 糸調子ダイヤル： 5 ～ 8
(3) 押さえ： サテン押さえ F



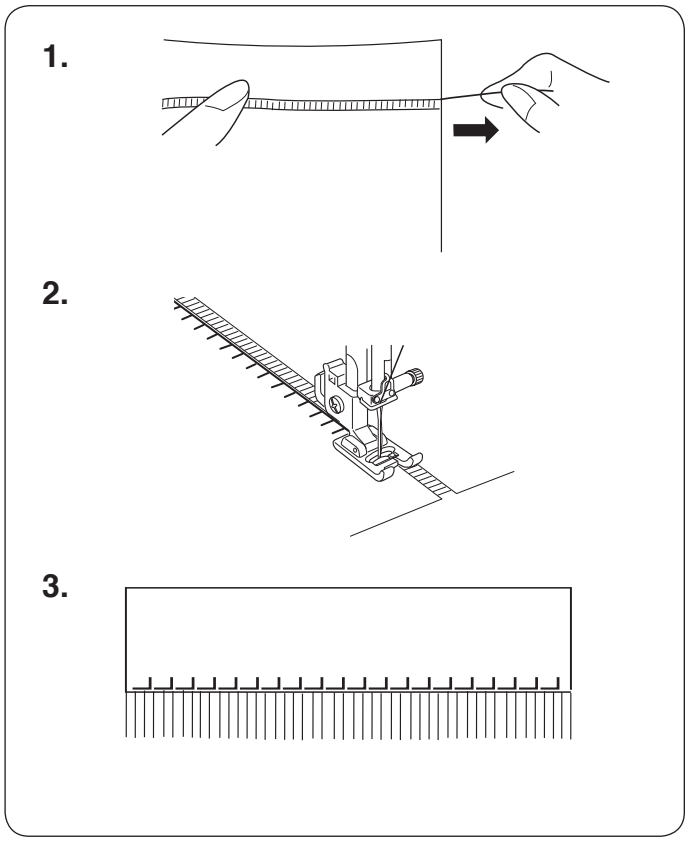
糸調子を「5」～「8」に設定してぬいます。



● フリンジ

ミシンのセット

(1) 模様番号： 13
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F
(4) 押さえ圧調節ダイヤル： 3 ～ 4（15 ページ参照）



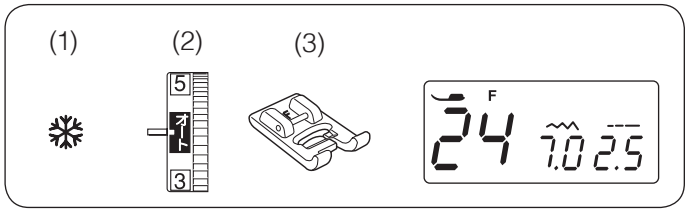
テーブルリネン、ショールなどの布端に、ふさをつくります。織り糸を簡単に抜くことができるリネンのようなしっかりした織物を使用してください。

1. フリンジの束になる部分の織り糸を 1 ～ 2 本抜き取ります。

2. 織り糸を抜いた上をぬいます。

3. フリンジにする部分の織り糸を全部抜き、ふさを作ります。

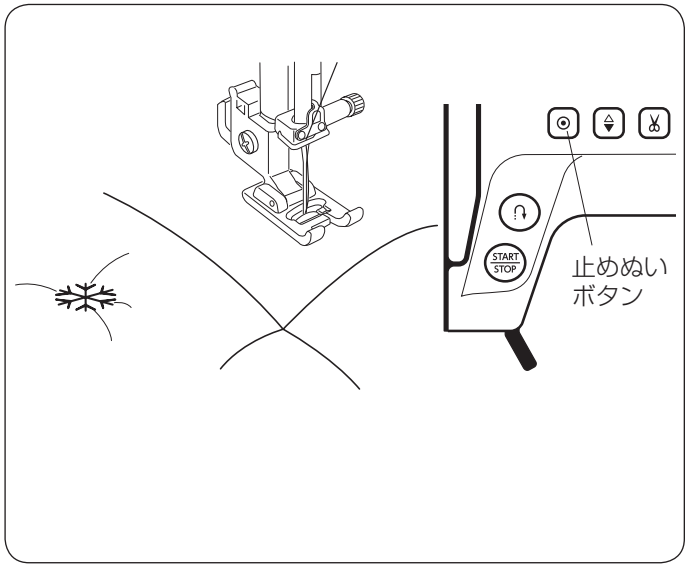
※ 模様の右に書かれている「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。（32 ページ「ぬい目の幅の基準位置」参照）



● とじぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号： 24
(2) 糸調子ダイヤル： オート
(3) 押さえ： サテン押さえ F

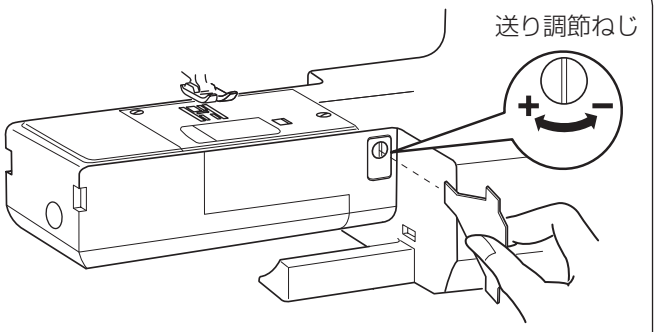


厚みのあるキルト綿をとじるときに使用します。

1. 模様を 1 つだけぬうために、模様を選んだあと止めぬいボタンを押します。

2. ミシンをスタートさせると、模様を 1 つだけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

※ 最初に止めぬいボタンを押さずに、1 個目の模様をぬっている途中で止めぬいボタンを押しても、模様を 1 つだけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。
止めぬいボタンの使い方は、9 ページの「操作ボタン」をごらんください。



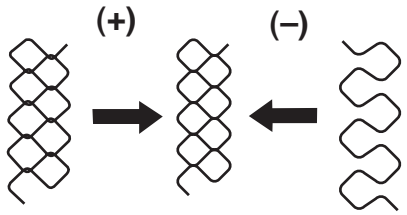


図 1　正しい形　図 2

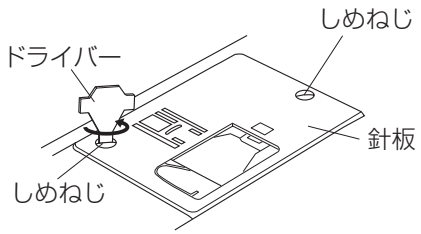
● 模様の形の整え方（送り調節ねじ）

布の種類や厚さなど、ぬいの条件によって模様の形がくずれる場合があります。
ぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形がくずれる場合は補助テーブルを外し、送り調節ねじで調節します。

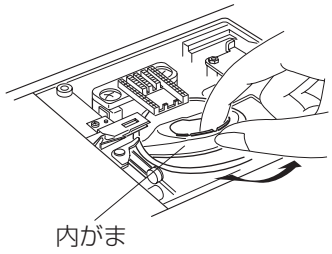
【模様の形の整え方】（模様 14 の例）

- 図 1 のように模様がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。
- 図 2 のように模様が伸びているときは、送り調節ねじを「−」方向にまわします。

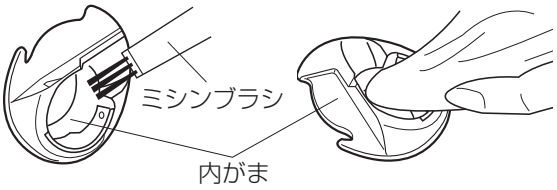
1.



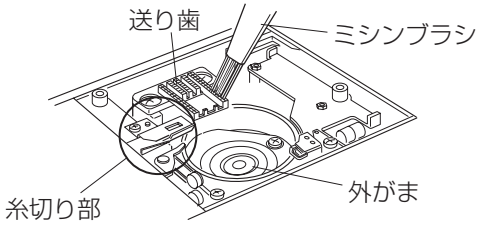
2.



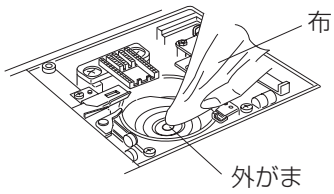
3.



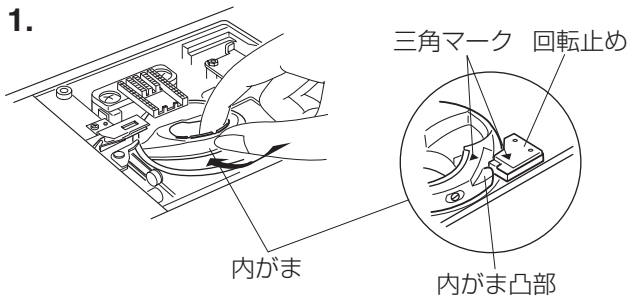
4.



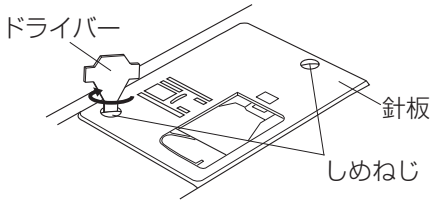
5.



1.



2.



◎ ミシンのお手入れ

● かまと送り歯の掃除

⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して、針を上にあげ、電源スイッチを切ります。
電源プラグをコンセントから抜きます。
針と押さえホルダーを外し、角板を外してボビンを取り出します。（17、13、18 ページ参照）

1. しめねじ 2 個をドライバーで外し、針板を外します。

2. 内がまの手前を上に引きながら外します。

3. 内がまを付属のミシンブラシで掃除し、内がま全体をやわらかい布で軽くふきます。

4. 送り歯、糸切り部のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

5. 外がまの中央部をやわらかい布で軽くふきます。

※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。

お願い

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因となることがあります。
  使用頻度が高い場合、定期的にミシンの掃除をすることをおすすめします。
  詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。
  ご自身での注油は行わないでください。
  故障の原因となります。

● 内がまと針板の組み付け

1. 内がまを取り付けます。

内がまの三角マークと回転止めの三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側にくるように取り付けます。

※ 内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。

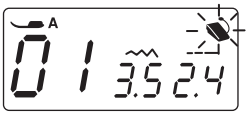
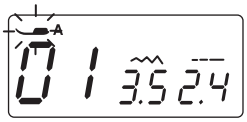
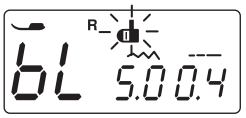
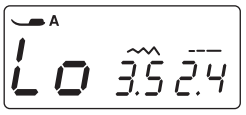
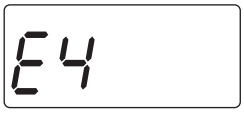
2. 針板を取り付け、しめねじ 2 個をドライバーでしっかりしめます。

※ お手入れが終わったら、ボビン、角板、押さえホルダーと針などを忘れずに取り付けてください。

◎ こんなときには

● メッセージ画面が表示された場合

禁止音や警告音とともに下記メッセージ画面が表示された、または表示されている場合、直し方にしたがってください。

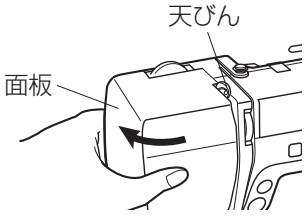
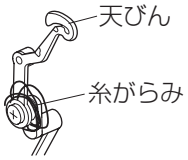
表示	原因	直し方
	1. フットコントローラーを接続した状態でスタート / ストップボタンを押したときに表示されます。 2. フットコントローラーが壊れているときに表示されます。フットコントローラー表示が点滅します。	スタート / ストップボタンを使用する場合、フットコントローラーの接続を外します。 お買い上げの販売店へご連絡ください。
	押さえがあがった状態でミシンをスタートさせたときに表示されます。	押さえ上げをさげて、再スタートします。
	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。	糸巻き軸を元の位置（左側）にもどすと表示が消えます。
	ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを少しぬうと表示されます。 ※ 模様番号表示が「bL」表示にかわり、ボタンホール切りかえレバー表示が 2 秒～ 3 秒点滅します。	ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。
	安全装置の作動によりミシンモータが緊急停止したときに表示されます。	緊急停止後 15 秒間ミシンは動きません。 糸がらみなどがある場合、電源スイッチを切り、糸を取り除いてください。
(E1-E7) 	ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。	電源スイッチを切り、糸がらみなどがないか確認します。 直らない場合には、お買い上げの販売店へご連絡ください。

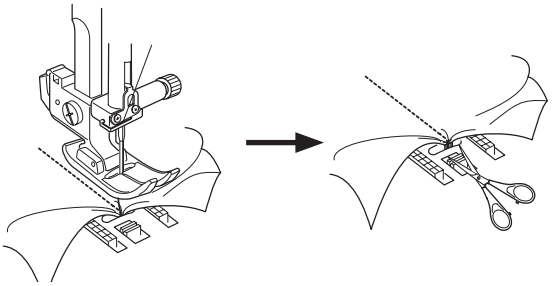
● ブザー音の種類

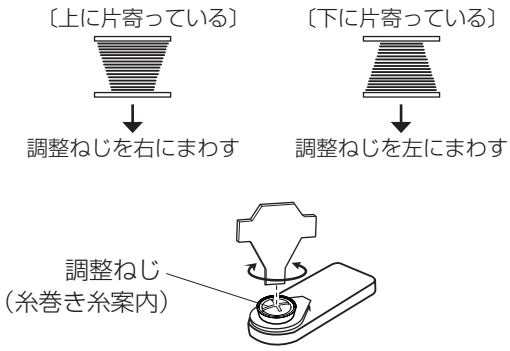
ブザー音	内　容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシンが正しく作動しなかった場合の警告音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了などの終了音です。

※ 正しい操作をしたときの受け付け音は鳴らなくすることができます。24 ページの「ブザー音の設定」をごらんください。

● ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに上糸を引き出して、押さえで押さえていない。 6. 糸がかまなどにからまっている。 7. 針に対して糸が太すぎるか細すぎる。 8. 糸こまに上糸が引っかかっている。	21 ページ参照 14 ～ 15 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 26 ページ参照 59 ページ参照 17 ページ参照 糸こま押さえを付ける
下糸が切れる	1. 下糸の通し方がまちがっている。 2. 内がまの中にごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸の巻き方がゆるい。	20 ページ参照 59 ページ参照 ボビンを交換する 19 ページ参照
針が折れる	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様に合った押さえを使用していない。	17 ページ参照 17 ページ参照 布を向こう側に出す 17 ページ参照 指定の押さえに交換する
ぬい目がとぶ	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している	17 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 21 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついたりしている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. ぬい目のあらさが布に対してあらすぎる。 5. うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。 6. 押さえ圧が合っていない。	14 ～ 15 ページ参照 20、21 ページ参照 17 ページ参照 ぬい目を細かくする 芯地を貼る 15 ページ参照
ぬいずれがおこる	1. 押さえ圧が合っていない。	15 ページ参照
布送りがうまくいかない	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	59 ページ参照 ぬい目をあらくする 16 ページ参照
ぬい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	14 ～ 15 ページ参照 17 ページ参照
ミシンが動かない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに糸やごみがたまっている。 3. ボビンに糸がからまっている。 4. 押さえ上げがさがっていない。 5. 下糸を巻いたあと、糸巻き軸が糸巻きの位置（右側）にある。 6. 上糸が外れ、ボビンにからまって（ガチャガチャ音がする）いる。 7. 上糸が天びんから外れ、ほかの部品にからまっている。   8. フットコントローラーを接続したままでスタート / ストップボタンを押している。	6 ～ 7 ページ参照 59 ページ参照 ボビンの糸を確認する 12 ページ参照 19 ページ参照 上糸かけを確認する [天びんの外れ確認]  上糸かけを確認する [からまっている糸の取り方] **1.** 電源スイッチを切る **2.** 面板を開ける **3.** からまっている糸を取る **4.** 上糸をかけ直す （21 ページ参照） **5.** 面板をしめる フットコントローラーを外す

調子が悪い場合	原因	直し方
うすい布、伸縮性の布が食い込む	1. 布に対して針と糸が合っていない。 2. 左針位置でぬっていない。	17 ページ参照 左針位置でぬう
布裏で糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 〔手順 **2.** の図〕 	［からまっている糸の取り方］ **1.** 電源スイッチを切る **2.** 押さえ上げと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る **3.** 針板を外す（59 ページ参照） **4.** ボビン、内がまを外し、からまっている糸を切る（18、59 ページ参照） **5.** ボビン、内がま、針板を取り付ける（20、59 ページ参照） **6.** 上糸をかけ直す（21 ページ参照）
糸切りボタンでうまく糸が切れない	1. 使用している糸が太すぎる。 2. 糸がからまっている。	27 ページ参照 59 ページ参照
上糸が抜ける	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸を引き出して、押さえで押さえていない。	21 ページ参照 26 ページ参照
かまに糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。	21 ページ参照 かまの交換 59 ページ参照
音がして糸がからまる	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	21 ページ参照 21 ページ参照
フットコントローラーをふみ込んでも動かない	1. 画面にフットコントローラーの表示が出ないうちにフットコントローラーをふんだ。  フットコントローラーの表示 2. フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。	フットコントローラーの表示が出たあとにフットコントローラーをふむ 7 ページ参照
糸通しができない	1. 針が上にあがっていない。 2. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	22 ページ参照 17 ページ参照
ボタンホールがうまくぬえない	1. 布に対してぬい目のあらさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 3. ボタンホール切りかえレバーがさがっていない。	46 ページ参照 伸びない芯地を貼る 44 ページ参照
音が高い	1. かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。 3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音が出る。	59 ページ参照 59 ページ参照 異常ではありません
ぬい終わりに下糸が二重に出てくる	1. 針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して針をあげる
ぬい目に下糸が出る	1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。 5. ジャノメのボビンを使用していない。	20 ページ参照 18 ページ参照 21 ページ参照 14 ～ 15 ページ参照 18 ページ参照
ぬい始めの糸がらみ	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸を引き出して、押さえで押さえていない。	21 ページ参照 26 ページ参照

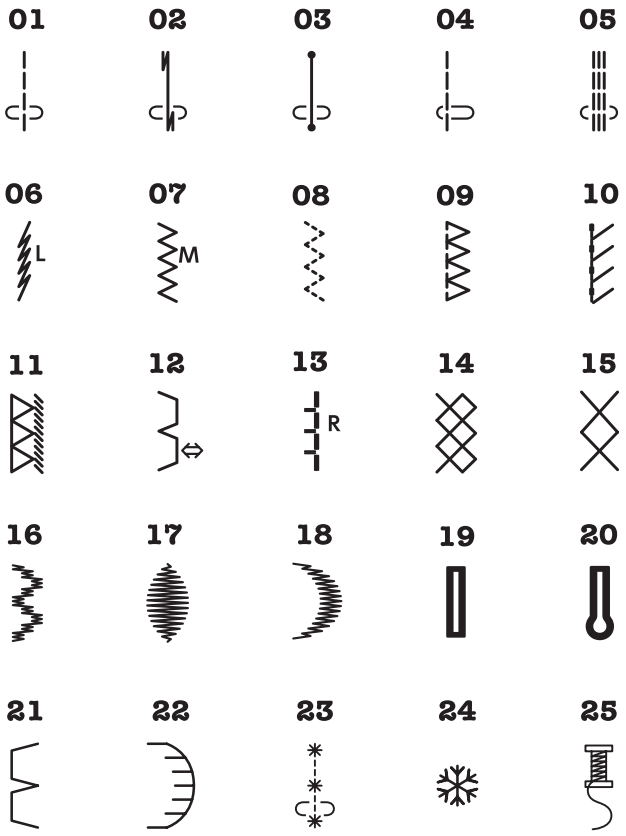
調子が悪い場合	原因	直し方
ボビンに下糸がうまく巻けない	1. 下糸のかけ方がまちがっている。 2. ボビンの上、または下に巻きが片寄っている。 	20 ページ参照 調整ねじをまわす 注意： 調整ねじをまわす範囲は、1 回転までにしてください。部品が外れます。
模様がきれいにぬえない	1. ボビンのセットがまちがっている。（ボビンの入れる方向がまちがっている・下糸が内がまのばねに入っていない。） 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	20 ページ参照 18 ページ参照 21 ページ参照 14 ～ 15 ページ参照

※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 長時間使うと画面や操作パネル付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 外観の細い線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。

◎ 模様一覧表



ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。

ジャノメ HP
FAQ ページ

ジャノメ公式
Instagram

ジャノメ公式
YouTube チャンネル

仕　　様	
使 用 電 圧	100 V　50 Hz / 60 Hz
消 費 電 力	43 W
外 形 寸 法	幅 406 mm × 奥行 177 mm × 高さ 302 mm
質　　量	6.5 kg（本体）
使　用　針	家庭用　HA X 1
最高ぬい速度	毎分 820 針 フットコントローラー使用時　毎分 820 針

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
  ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。
お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

株式会社ジャノメ

住 所　〒 193-0941　東京都八王子市狭間町 1463 番地
電 話　お客様相談室　0120 − 026 − 557（フリーダイヤル）
　　042 − 661 − 2600
受 付　平日 9：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00
　　（土・日・祝日・年末年始を除く）
メールでのお問い合わせは、ホームページ https://www.janome.co.jp
問合せフォームをご利用ください。

Ėpolku OVI

JANOME

814-800-500